

小学校 展開例

No	学年	指導内容	基本的 指導事項	指導 時間数
1	低 学 年	地震が来たらどうする？	①④	1
2		津波から身を守るには？	①②⑤⑥	1
3		地域の津波避難場所を確かめよう	②⑥	2
4		揺れがおさまっても・・・まだ続く危険とは？	⑦⑧	1
5		避難生活ってどんなもの？	③⑨⑩	1
6	中 学 年	南海地震が来たらどうなるの？	①⑤	1
7		どこにいても、地震の揺れから自分を守ろう	②④	1
8		津波が心配！揺れたら急いで高台へ	①②⑤⑥	1
9		揺れがおさまっても・・・危険は続く	①⑦⑧	1
10		地域の防災に関わる人たち	③⑨⑩	1
11	高 学 年	南海地震に備えよう	①④	1
12		津波から逃げる	⑤⑥	1
13		災害と情報	②③④⑨	1
14		山の津波「土砂災害」	⑦⑧	1
15		これが大切！我が家の備え	②⑩	1
16		避難生活を考えよう	②③⑨⑩	1

1 小学校 1・2年生

地震が来たらどうする？

指導する学年	1年	指導する時間	特別活動	指導する時数	1時間
本時のねらい	地震のゆれから自分の身を守る方法を考える。				
使用する資料	「防災学習南海地震に備えちよき」②(揺れ編)【スライド3・7・16～22】 「土佐の防災学習プログラム 南海地震に備えよう」【P28～31】イラスト～地震前後～学校編・家庭編			基本的指導事項 ①地域に起こる災害を知る ④揺れから自分を守る	

学習内容・活動

指導上の留意点

導入

1. スライドを見て気付いたことを発表する。



- 【備えちよき ②3・7】等の写真を提示し、地震後の様子であることに気づかせる。
- 写真を見て気づいたことを発表させる。
 - ・下の部分がつぶれて傾いている
 - ・ガラス窓が割れている。

展開

2. 地震が起きると、学校ではどんなことが起こるか考える。



- 【土佐の防災学習プログラムP28】のイラストから、地震発生時の危険を予想させる。
 - ・〇〇割れる。 ・〇〇が落ちる。
 - ・〇〇が倒れる。 ・〇〇が壊れる。
- 【土佐の防災学習プログラムP30】のイラストで確認する。
- 今いる教室の危険を予想させる。
- 南海地震は、強い揺れや長い揺れがおけると言われていることを知らせる。

地震が起きた時、(自分の身を守るには)どうしたらいいだろう。

3. (幼稚園・保育所等で)既習した内容や避難訓練から、教室にいるときの揺れから自分の身を守るための行動を考える。

- ・頭を守る
- ・机の下にかくれる
- ・机が動かないようにしっかりと足を持つ

- イラストで地震後の状況をおさえながら、地震の揺れから、まず自分の身(頭)を守ることを確認する。
- 児童の発言から、地震の揺れから身を守る安全な場所は次の3つであることをまとめる。
 - ・(上から物が)落ちてこない場所
 - ・(横から物が)倒れてこない場所
 - ・(周りの物が)移動してこない場所
- 揺れから自分の身(頭)を守るためのキーワードとして「落ちてこない・倒れてこない・移動してこない」場所に身を寄せることを指導する。
- 今いる教室で、「落ちてこない・倒れてこない・移動してこない」安全な場所を確かめさせる。
- 机の下にもぐる時は、しっかりと机の脚をつかむことを指導する。

4. 大きな揺れが来る前に地震が来ることを知らせる
「緊急地震速報」があることを知る。

まとめ

5. 今日の学習をもとに、地震が発生した時の自分の
行動の仕方を言語化する。

○緊急地震速報は、地震による大きな揺れを事前に通知
するものであることを知らせる。速報を見聞きしたら、
大きな揺れが来る前の数秒間に、「落ちてこない・倒れ
てこない・移動してこない」場所に身を寄せ、自分の
身の安全を確保できることを知らせる。

○学校の避難訓練で使う緊急地震速報の報知音を聞
かせる。

○「地震が起きたら、〇〇します。」と、どう行動す
るかが分かるように発表させる。

地震が起きたら頭を守る。

3つのキーワード(「落ちてこない・倒れてこない・移動してこない」)を思い出し、安全な場所へ
身を寄せる。

○今日学習した、揺れから自分の身を守る行動は、これ
からの避難訓練の行動にもつながることを指導する。

評価

○校舎内のいろいろな場所で、地震が発生した時に
「落ちてこない・倒れてこない・移動してこない」場所
へ身を寄せることを意識した行動をすることを決めて
いる。

評価(後日)

○避難訓練で今日の学習を生かした「落ちてこない・倒
れてこない・移動してこない」場所へ身を寄せ、頭を守
る避難行動がとれている。

○告知なしの避難訓練で、緊急地震速報の報知音に反
応した行動がとれている。

《発展的指導内容》

* この指導事例を2年生で扱う場合

展開2で使う資料(イラスト)は、【土佐の防災学習プログラムP29・31】
の家庭編から選択し、児童の視点を学校から家庭、地域の様子に広げ
ていく。

《一口メモ》

* 緊急地震速報を活用した避難訓練の前に、必ず報知音を聞かせて
おく。

* 事前の告知なしの避難訓練を行い、どこにいても一人でいても「落ちてこない・倒れてこない・移動してこない」
場所に身を寄せる行動力を身に付けさせる。

《資料紹介》

* 揺れの長さを体感させる腕回しは、高知県危機管理部南海地震対策課HP→『100秒間のうでまわしで南
海地震の揺れ体験! <http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/010201/hyakka-udemawasi.html>』
に詳しく書かれている。

* 南海地震では、どんなことが起こるのか知り、行動できるようにしておくことが大切である。



【土佐の防災学習プログラムP29・31
イラスト～地震前・地震後～】



関連する
教科・行事等

避難訓練

2 小学校 1・2年生

津波から身を守るには？

指導する学年	1・2年	指導する時間	特別活動	指導する時数	1時間
本時のねらい	南海地震発生時の津波からの避難方法を考える。				
使用する資料	「防災学習南海地震に備えちよき」③(津波編) 【スライド3・10・38】			基本的指導事項	
				①地域に起こる災害を知る ②必ず助かるための知恵と備え ⑤津波からの迅速な避難 ⑥いつ、どこにいても自分を守る	

学習内容・活動

指導上の留意点

導入

1. 大きな地震があった時に発生する危険について話し合う。

- 長い揺れや強い揺れは、南海地震の特徴であることを想起させる。
- 揺れから身を守る3つのキーワードを想起させ、地震の揺れから身を守る行動を再確認する。
- 児童の発言から、大きな地震の後に津波が来る可能性があることを押さえる。

展開

2. 津波の力の強さや恐ろしさについて考える。

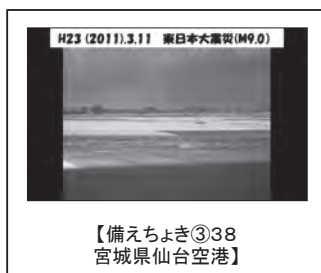
- 【備えちよき③10・3】の写真から気付いたことを発表させる。
- 児童の発言から次のことを取り上げ意識させる。
 - ・津波で、建物が横倒しになっている。
 - ・大きな建物以外なくなっている。
 - ・海水が堤防を乗り越えている。
 - ・車が水に浮かんでいる。
 - ・水が黒い。
 - ・津波の力は強い。



【備えちよき③10
横倒しの建物】



【備えちよき③3
町を襲う津波】



【備えちよき③38
宮城県仙台空港】

- 【備えちよき③38】の映像を視聴させ、気付いたことを発表させる。
- 児童の発言から、津波の特徴をまとめる。
 - ・スピードが速い。
 - ・車や飛行機も流されるほど力が強い。

津波から、自分の命を守るには、どうしたらよいだろう。

3. 津波に備えた避難方法について考える。

- ・走って逃げる。
- ・高い所へ逃げる。
- ・津波が来る前に逃げる。
- ・地震の後には津波が来ると思って、とにかく急いで、一番近くの高台に逃げる。

4. 学校にいるときの避難場所を確認した後、家庭にいるときの避難場所を確認する。

まとめ

5. 津波からの避難の約束をまとめる。

- ・学校にいるときは、揺れがおさまったら・・・。
- ・家にいるときは、揺れがおさまったら急いで・・・。
- ・家にいるときは、揺れがおさまったら一人でも・・・。

走って逃げる。津波がおさまるまで戻らない。



○津波からの避難行動の理由を考えさせ、次のことをまとめる。

- ・津波の力は大きく、足元に水が来たら動けなくなる。
- ・津波のスピードは速いので、津波が来る前に高台等の安全な場所に避難する。
- ・津波の到達時間によっては、まだ、大きな揺れが続いている間に津波が来る可能性があるので、津波の危険がある地域では、動けるぐらいの揺れになったらすぐに一番近くの高い場所に避難する。
- ・地震の発生場所によっては、津波が3分程度で到達すると予想される地域もある。長い揺れや強い揺れの後には津波が来ると考えて警報や指示を待たずにすぐに避難する。
- ・津波は繰り返しやってくるので、津波警報が解除される等安全が確認できるまでもどらずに避難を続ける。

○学校の避難場所までの避難経路も確認させる。

○家にいるときには、周りに誰もいないことも考えられる。一人でいても自分で判断し、一番近くの高台へ避難できるように避難場所や避難経路を確認させる。

○家族を探しに行つて被害にあうことがないようにどこにいてもそれぞれが避難するように家族で約束をさせる。

○揺れたら、とにかく、急いで、一番近い高台へ避難することを押さえる。

○「○○にいるときには、揺れがおさまったら□□へ急いで避難します。」と行動の仕方が分かるように発表させる。

評価

○長い揺れや強い揺れを感じたら、津波が来ると考え一人でいてもすぐに高台へ避難すると決めている。

《一口メモ》

- * 津波の心配がある地域は、学校の校庭や屋上などの標高が〇m、津波到達時間が〇分で浸水深は〇mなどと現在の想定について押さえ、急いで高台へ避難する必要性を指導する。
- * 南海地震の震度や津波高・浸水域等の想定は、あくまでも想定であり、想定外のことが起こる可能性もある。その時には自分の判断で、安全な行動ができるように避難訓練や防災学習等で避難のための行動力や的確な判断をするための知識を身に付けさせる。
- * 各地点の標高や津波到達時間等は、市町村の防災担当課に問い合わせをすると教えてくれる。
- * 【備えちよき ③38】の津波の映像については、児童によっては強い衝撃を受けることがある。必ず事前に映像に目を通し、児童の実態に合わせて活用する。また、すべての映像を視聴させるのではなく、指導内容によって見せる場面を選択する。

《資料紹介》

- * 内閣府DVD『自分の命は自分で守るー津波災害への備えー』（平成25年2月）に津波の映像がたくさん収録されている。指導内容に応じて活用できる。
- * 気象庁津波防災啓発ビデオ「津波からにげる」（http://www.jma.go.jp/jma/kishou/books/tsunami_dvd/index.html）平成24年3月制作（小中学校に配布済み）

関連する
教科・行事等

避難訓練

3 小学校 1・2年生					
地域の津波避難場所を確かめよう					
指導する学年	1・2年	指導する時間	特別活動	指導する時数	2時間
本時のねらい	登下校中に一人にいる時に地震が発生した場合の行動を考える。				
使用する資料	防災学習南海地震に備えちよき ②(揺れ編) 【スライド24～31】			基本的指導事項	
				②必ず助かるための知恵と備え ⑥いつ、どこにいても自分を守る	
学習内容・活動			指導上の留意点		
導 入 1. どんな場所においても地震の揺れや津波から自分の身を守ることを確認する。			○「ぐらっと」揺れた時のとっさの行動の仕方を思い出させる。 ・「落ちてこない・倒れてこない・移動してこない」場所に身を寄せ、頭を守る。 ○地震が起きたら津波が来ると考え、行動することを指導する。 ・津波の心配がある場所では、急いで高台へ避難する。 登下校中に大きな地震が来たら、どこに避難すればいいだろう。		
展 開 2. 地域の津波避難場所を確かめに行くことを知り、避難経路の安全を確かめるポイントを知る。 外で ●2ブロック塀の横を歩いていたら？  塀からすぐに離れましょう。 外で ●街中を歩いていたら？  落下物に注意し、頭をカバーして安全な場所に逃げましょう。 【備えちよき②24～31 地震の揺れから身を守る】			○地域のすべての津波避難場所に行くことは難しいと思われる。避難経路の安全や危険を確かめるポイントを指導するために、学校に近い津波避難場所にみんなと一緒に歩いていく。 ○安全を確かめるポイントを【備えちよき②24～31】を使って指導する。 ・津波から安全に避難できるように、避難場所までの案内板があるか。 ・落ちてきそうな看板やガラスはないか。 ・倒れてきそうなブロック塀や家はないか。 ・移動してきそうな自動販売機はないか。 ・崩れてきそうながけはないか。 ・こわれて落ちそうな橋や歩道橋はないか。 ○地震後の様子をイメージさせながら事前に確認したポイントを立ち止まって確認する。 ○教室に帰り、探検で気が付いたことをまとめる事を知らせ、どこにどんな安全や危険があったかよく見るように指導する。 ○校外で揺れを感じたら、倒壊する恐れのあるブロック塀や建物から離れ、ガラスや看板の落下等に注意し、ランドセルやかばんなどの持ち物で頭を守るなどして、自分の身を守ることを知らせる。 ○地域を歩きながら、避難場所までの案内板を確かめさせる。		
3. 避難経路の安全や危険を確かめながら、学校から地域の津波避難場所まで歩く。					

4. 学級で、それぞれが気付いたことを発表し合う。

○一緒に歩いて確かめた事を発表させ、教師が絵地図等にまとめていく。

○安全や危険と思った理由も発表させる。

5. 簡単な校区拡大地図にある津波避難場所への避難経路を、児童一人一人が確かめる。

○登下校しているA地点で大きな地震が来たときには、Bにある津波避難場所へ避難する。というように確認させる。

○どこにいても自分の身を守る基本は変わらない。

・「落ちてこない・倒れてこない・移動してこない」場所に身を寄せて地震の揺れから自分の身を守る。

・津波の心配がある時には、急いで津波避難場所に避難する。

○今日の学習を生かして、避難経路の安全を確かめながら避難するよう再確認する。

まとめ

6. 今日の学習を生かし、自分の家や登下校中の避難でも同じように安全を確かめながら避難することを決める。

(登下校中に)地震が起きたら、ブロック塀の倒壊や看板などの落下物に気を付ける。
物が「落ちてこない、倒れてこない、移動してこない」場所に身を寄せる。
津波が来ると予想し、一番近くの高台へできるだけ急いで避難する。



評価

○どこにいても、地震の揺れから身を守り、一番近い津波避難場所に避難することを決めている。

《一口メモ》

* 校区探検とあわせて2時間扱いとしているが、学校や学級の実態に応じて分割するなどして取り扱うこと。
例えば、生活科の町たんけんの学習と関連させて学習し、防災の視点も含めた探検をおこなう。

* 津波避難場所まで、低学年の児童の足で歩いて行くのに時間がかかりすぎる場合は、避難経路までの様子をビデオ撮影をする。学級で、その映像を見ながら、学習活動3の視点で、安全や危険に気付かせる。

* 「落ちてこない・倒れてこない・移動してこない」場所を、校区探検をしながら確かめていく。

《発展的指導内容》

* 他の津波避難場所までの経路について、児童が家庭から調べてきた場合は、学級全体で取り上げ、どんどん書き込んでいく。児童に安全を確かめる力が付き、校区の安全マップができれば素晴らしい。

* この指導事例を2年生で扱う場合

・展開3の活動では、簡単な校区地図やワークシートを持たせ、見つけたことや気がついたことを記入させる
・展開4の活動では、簡単な校区地図を拡大して提示し、児童が気付いたことをまとめて書き込んでいく。色分けをしたり、写真やイラスト、付箋等を使って、分かりやすくまとめる。

など、児童の実態に合わせて、活動内容を工夫する。

関連する
教科・行事等

生活科:町たんけん「もっとなかよし、町たんけん」
避難訓練

揺れがおさまっても・・・まだ続く危険とは？

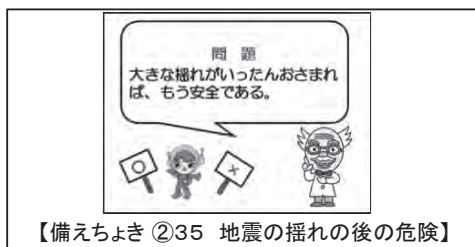
指導する学年	1・2年	指導する時間	特別活動	指導する時数	1時間
本時のねらい	大きな揺れの後の火災からの避難について考える。				
使用する資料	防災学習南海地震に備えちよき ②(揺れ編) 【スライド35～39】			基本的指導事項	
				⑦二次災害への対応 ⑧助ける人になるための行動	

学習内容・活動

指導上の留意点

導入

1. 揺れの後にも危険があることを知る。



- 【備えちよき ②35～】のクイズを使って揺れの後の危険を考えさせる。
- 揺れの後の危険として、児童から津波や土砂災害等もあげられることが考えられる。津波や土砂災害については、別の時間に学習をするので、児童の思いや発言を大事にしつつ、火災に絞り込む。
- 大きな揺れの後に火災が起こることがあることを指導する。

地震の後の火事！避難するにはどんなことに気をつけたらいいだろう。

展開

2. 火災時の危険について考える。



- 【備えちよき②38・39】を提示し、地震の後の状況であることを押さえ、火災に気付かせる。地震発生後に火災が起こるとこのような状況になることを確認し、この中でも避難しなくてはいけないことに気付かせる。
- 火災時の危険について、スライドの様子から次のことを気付かせる。
 - ・火
 - ・熱
 - ・けむり
 - ・避難時の人ごみ
- 火災時の危険で熱と人ごみについては、児童が気付かないこともある。その場合は、説明する。
- 児童の発言から、火災時の危険ごとに避難の仕方をまとめる。

<火からの避難>

 - ・火元から離れる。
 - ・火は上にいくので、下の方に逃げる。
 - ・風向きに注意して、風上に逃げる。
- 消火活動も考えられるが、低学年の児童には難しいので、火災を発見したら「火事だ」と叫んで周りの人に知らせたり、大人を呼びに行くなど自分にできることを行うように指導する。
- 火事と救急は119番に通報することも知らせる。

3. 火災からの避難の仕方考える。

- ・火からの避難
- ・熱からの避難
- ・煙からの避難
- ・避難時の人ごみからの避難

まとめ 4. 火災時に避難するにはどう行動するか考える。	<熱からの避難> ・室内では、壁やドアの温度を感じながら避難する。 ・火災時に金属性のものにふれると大やけどをする可能性がある。熱せられたドアノブを握ると大けがをするので、手の甲等をドアノブ等に近付けて温度を確かめてからドアを開ける。 ・火元から距離があっても、熱風でやけどをすることがある。火災の熱から身を守るために公園などの広い場所に避難する。 <煙からの避難> ・煙は高い所に集まるので、身を低くして避難する。 ・避難時は、煙を吸わないように、タオルやハンカチで鼻と口を覆う。 <避難時の人ごみからの避難> ・大勢の人が一斉に避難をする時には、「おさない・はしらない・しゃべらない・もどらない」の合言葉で落ち着いて避難する。
	火災からの避難は、火元から離れ身を低くし、煙を吸わないように落ち着いて避難する。 評価 ○火事から安全に避難する行動を決めている。
	《資料紹介》 ＊総務省消防庁「チャレンジ！防災48」(http://open.fdma.go.jp/e-college/bosai/index.html)の写真→その他の災害の様子→15『火災の様子』に写真と解説が掲載されている。 《一口メモ》 ＊初期消火のチャンスは3回。 ①揺れを感じた時。ただし揺れている間は、自分の身の安全確保が優先。 大きく揺れる前がチャンス。 ②揺れがおさまった時。次にもっと大きな揺れが来る かもしれないので、消していない火を消すチャンス。 ③火事になった時。最初の火は小さいので、あわてずに消すチャンス。 ただし、低学年の児童に消火活動は難しいと思われるので、火災を見つけたら、すぐに周りの大人に知らせることを指導する。この内容は、知識として押さえておく。
関連する 教科・行事等	避難訓練

避難生活ってどんなもの？

指導する学年	1・2年	指導する時間	特別活動	指導する時数	1時間
本時のねらい	避難生活での不便さに気付き、自分にできる事を考える。				
使用する資料	防災学習南海地震に備えちよき⑤ 【スライド1・6】			基本的指導事項 ③みんなで助かるための備え ⑨みんなで生き延びるための知恵と技 ⑩地域社会の一員としての心構え	

学習内容・活動

指導上の留意点

導入

1. 災害後の避難生活について考える。



【備えちよき⑤ 表紙】

【備えちよき⑤6
体育館での避難生活】【備えちよき⑤6
水の配給に並ぶ人々】

- 強い揺れや津波から自分の命を守った後は、避難生活が始まることもあることを知らせる。
- 【スライド6】の2枚の写真を提示し、避難所であることを確認し、避難生活の様子について、気付いたことを発表させる。
 - ・たくさんの人がいる。
 - ・お年寄りから赤ちゃんまでいろいろな人がある。
 - ・障害のある人(体の不自由な人)がいる。
 - ・知らない人もいる。
 - ・横になれないくらいせまい。
 - ・周りの人との仕切りがない。
 - ・水が使えなくなり、配給される。
 - ・食糧も配給される。
- たくさんの人との生活は、不便なことが多く我慢することが増える。また、配給される物は少なく、みんなで分け合うことになる。これらを踏まえて、避難生活に備えて自分にできることを考えさせる。

みんなとなかよく(気持ちよく)過ごすためには、どうしたらいいだろう。

展開

2. 日常生活を思いだし、避難生活ではどう変わるかを考える。

- ・起床
- ・洗顔、歯磨き
- ・着替え
- ・食事
- ・学習
- ・遊び
- ・入浴
- ・就寝

- 児童の1日の生活の中から、基本的な生活の場面をあげ、具体的にイメージさせる。
 - ・起床: 周りの音が聞こえ、ゆっくり寝られない。
 - ・洗顔、歯磨き: 水が少なく十分できない。
 - ・着替え: 着る物が無い。周りの仕切りがなく着替えにくい。
 - ・食事: 配給されるものは少なく、おなかいっぱい食べられない。好き嫌いできない。アレルギーの心配。
 - ・学習: 学校に行けない。学習道具がない。
 - ・遊び: ゲームやおもちゃがない。遊ぶ場所がない。
 - ・入浴: 毎日体を洗えない。ゆっくりお湯につかれない。
 - ・就寝: 一人に一枚の布団がない。まっすぐ横になれない。床の上で体が痛い。狭い。寒い。暑い。

3. 不便な生活に備えて、今の生活の見直しをする。

○いつもは手伝ってくれている大人が被害にあったり、仕事で帰って来られなかったりする。側にいても、たくさんすることがある中で、十分手伝ってもらえないことがあることを知らせる。

○基本的な生活習慣を身につけること、自分にできることは自分でするように指導する。

- ・食事
- ・睡眠
- ・排泄
- ・清潔
- ・衣服の着脱
- ・あいさつやコミュニケーション
- ・身の回りの整理整頓、片付け、掃除
- ・ルールを守る

4. 生活の見直し以外にも工夫できることを考える。

○生活の見直しだけで備えられないことについては、非常持ち出し品や備蓄品の中に準備しておくことを指導する。

- ・アレルギーや発作を押さえる薬
- ・耳栓やアイマスク
- ・一番大好きな本やおもちゃ(これがあれば、長時間でも落ち着いていられるというもの一つだけ)

○災害時には、地域とのつながりや周りの人と協力する気持ちが必要であることを指導する。

- ・災害時に急に親しくなることはできない。日頃からあいさつをするなどして、近所の人と親しくする。

まとめ

5. 不便な避難生活に備えて、自分にできることを考える。

不便なことが多くなる生活でもたくさんの人と気持ちよく過ごすために、今からできる〇〇をすることから始める。

評価

○避難生活をイメージし、できることを考えている。

《一口メモ》

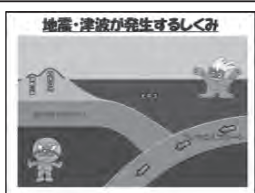
* 児童だけでは、備えることができないこともある。生活習慣の改善や、非常持ち出し袋や備蓄品の準備、近所の人との付き合いについては、家庭(家族)の力を必要とすることが多い。学習したことを家庭で話すことを促したり、学習したことを参観日の学級懇談や学級通信等で家庭に知らせ、家庭の防災の意識も高めていく。

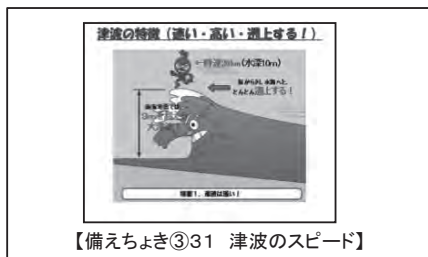


関連する
教科・行事等

宿泊をとまなう避難訓練(防災キャンプ等)

南海地震が来たらどうなるの？

指導する学年	3・4年	指導する時間	特別活動	指導する時数	1時間
本時のねらい	南海地震の特徴を知り、避難行動を考える。				
使用する資料	防災学習南海地震に備えちよき ③(津波編) 【スライド16・26～33】 ①(南海地震のことを知ろう)【スライド28】			基本的指導事項	
				①地域に起こる災害を知る ⑤津波からの迅速な避難	
学習内容・活動			指導上の留意点		
導 入 1. 高知県(または、自分が住んでいる地域)の自然について話し合う。 <いいところ> ・食べ物、特産物、観光 <心配なところ> ・地震、津波、土砂崩れ			○生活科や社会科の町たんけんて気付いた地域のよさを想起させる。 ○いつもはたくさんの恵みをもたらす自然が、時に自然災害をもたらすことがあることをまとめる。 ○近い将来発生するとされている南海地震に備え、命を守るための学習ということを確認する。 ○導入に時間をかけすぎないように注意する。		
南海地震に備えた避難をするために、南海地震の揺れと津波の特徴を知ろう。					
展 開 2. 地震・津波が発生する仕組みを知る。  【備えちよき③16 地震津波が発生する仕組み】			○【備えちよき③16】で、プレートの動きが地震を発生させ、その海底の動きにより津波が発生することを説明する。 ○地震・津波の発生する場所によっては、日本では揺れを感じないまま津波がやってくる「遠地津波」があることも指導する。		
3. 地震や津波の特徴をまとめる。 ・震度ごとの被害の様子を知る。 ・高知県では、6弱から最大7の震度と予想されている。 ・津波の特徴を知る。  【備えちよき①28 気象庁震度階級関連解説表(抄)】			○【備えちよき ①28】等で、地域に予想される震度の揺れによる人間や家具の状況を確認する。 <震度6弱> ・人は立っていることが困難になる。固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。 <震度6強> ・人は立っていることができず、はわないと動くことができない。揺れにほんろうされ、動くこともできず、飛ばされることもある。固定していない家具のほとんどが移動し、倒れる物が多くなる。 <震度7> ・人は震度6強のようになり、固定していない家具のほとんどが移動したり倒れたりし、飛ぶこともある。		



まとめ

4. 今日学習したことをもとに、南海地震から生きぬくために気を付けることをまとめる。

- ・自分の住む地域の想定
- ・震度()、揺れる時間()秒・分
- ・浸水()m、30cmの津波到達時間()分

○【備えちよき ③26～33】のスライドで次のことを説明する。

- ・津波は引き波から始まるとは限らない。
- ・引き波は流れが強く、壊れた家や船などが沖に流されることがある。
- ・津波のスピードは速く、津波が見えてからの避難では遅い。津波が来る前に避難する。
- ・津波は、川や用水路をさかのぼってきたり、広い道路を伝わって広がったりすることがある。
- ・津波は、繰り返し何度も襲ってくる。第一波が最も大きいとは限らない。
- ・津波の高さは、場所や地形によって大きく変わる。

○地域のハザードマップを活用するなど、学校や地域で起きる被害想定に対してどう行動するかを考えさせる。

- ・大きな地震の揺れから身を守る。
- ・家具などに挟まれないように固定をしておく。
- ・長い揺れ、強い揺れを感じたら、津波に備えてすぐに避難する。
- ・一人でも自分で判断して一番近い高台へ避難する。

南海地震の揺れは大きく、人は立っていられなくなり、物が倒れる。津波のスピードは速く力も大きいので、津波が来る前に避難することが大切である。

評価

○南海地震から生きぬくために気を付けることをまとめている。

《一口メモ》

* 防災教育で、自然の脅威や危険ばかりを指導すると、児童は自分が住んでいる地域や土地が嫌いになる。自然災害が起こるということは、それまでにたくさんの自然からの恩恵を受けているということである。時々起こる自然災害とうまく付き合うための防災教育である。

* 地域ごとの、地震や津波の想定に応じた指導をする。しかし、想定はあくまでも想定であるので、想定を過信することなく、また、過去の経験にとらわれず避難することを必ず指導する。

《資料紹介》

* 気象庁津波防災啓発ビデオ「津波からにげる」(小中学校に配布済み)
(http://www.jma.go.jp/jma/kishou/books/tsunami_dvd/index.html) 平成24年3月制作

* 気象庁津波防災啓発ビデオ「津波からにげる」津波防災ハンドブック(3～6年生用)
(http://www.jma.go.jp/jma/kishou/books/tsunami_dvd/index.html#kyouin)

関連する
教科・行事等

避難訓練

どこにいても、地震の揺れから自分を守ろう

指導する学年	3・4年	指導する時間	特別活動	指導する時数	1時間
本時のねらい	どこにいても地震の揺れから自分を守る方法について考える。				
使用する資料	防災学習南海地震に備えちよき②(揺れ編) 【スライド23・26・28・30・33・31】			基本的指導事項 ②必ず助かるための知恵と備え ④揺れから自分を守る	
学習内容・活動			指導上の留意点		
導入 1. これまでの学習を思い出し、南海地震の揺れや津波を振り返る。			○揺れの映像を見て、低学年の学習を想起させ、地震の揺れから身を守るキーワードを確認する。 ・「落ちてこない・倒れてこない・移動してこない」		
どんな場所においても地震の揺れから自分を守るにはどうしたらいいだろう。					
展開 2. スライドを見ながらその場所で、どんな行動をすれば自分を守ることができるか考える。			○それぞれの場所で地震の揺れから身を守るために、取るべき行動をワークシートに書かせる。 【備えちよき②23】 - すべての階のボタンを押し、止まった階で降りる。 - 避難をする時には、エレベーターには乗らない。 【備えちよき②26】 - ブロック塀や電柱が倒れてくる可能性があるので、すぐに離れる。 - 切れた電線には触らない。 【備えちよき②28】 - 看板などの落下物に注意する。 - かばんや上着などで、頭を保護して避難する。 【備えちよき②30】 - 山の中やがけの側にいる時は、がけの上や下から離れる。 - 橋や歩道橋を渡っている時には、橋から逃げる。 - 動けない時には、姿勢を低くして、欄干につかまる。 【備えちよき②33】 - 乗り物に乗っている時には、係員の指示に従い、落ち着いて避難する。 - 急停車から身を守るために、立っている時には手すりやつり革につかまる。 【備えちよき②31】 - 海や川の近くにいたらすぐに高台に避難する。 - 普段から、避難場所を確認する習慣をつけておく。		

3. 場所別の地震発生時の行動について考える。

・電車やバスの中

手すりにつかまるなど、急停車から身を守り、係員の指示に従って避難する。

・スーパーやデパートの中

揺れから身を守った後、落ち着いて非常口から避難する。(非常口を確かめる習慣をつける)

・外にいた時

ブロック塀からすぐに離れる。

ガラスや看板など落下物に注意し、かばんや上着で頭を守って避難する。

・海岸や河口付近、川岸にいた時

地震の後の津波を警戒して、すぐに高台へ避難する。

(遊ぶ前に避難できる場所を確認する習慣をつける)

まとめ

4. 今日の学習から、地震の揺れの特性から安全に避難するためにどんな行動をとるか決める。

どこにいてもその場所や状況に応じて揺れから身を守る。
「落ちてこない、倒れてこない、移動してこない」場所に身をよせる。

評価



○どこにいても状況に応じた方法で地震の揺れから身を守ることを決めている。

《一口メモ》

* 地震の発生は時間を選ばないので、それぞれの時間でそれぞれの心構えが必要である。

・食事の準備をしている時だと、揚げ物の油や熱湯が飛び散ることがあるので、すぐに台所から離れる。

火の確認は揺れがおさまってからでも間に合う。

・夜間は停電になると真っ暗になる。懐中電灯を枕元に備えておくことが大切。大きな地震の時には、ガラスが割れたり落下物があつたりするので素足で歩くのは危険。枕元に靴を置いておくと安全に避難できる。

* 万が一、建物に閉じ込められたら、大きな声を出しても気付いてもらえないことがある。大声を出し続けていると体力を消耗するので、むやみに動かずに手の届く範囲にあるもので、周囲の物をたたいて音を出して救助を待つ。

* 本時は、地震の揺れから身を守ることを指導する内容ではあるが、展開2・3に津波に備える内容が入れている。海岸や川岸にいるときには、津波からの避難を意識して過ごすことを必ず指導する。

関連する
教科・行事等

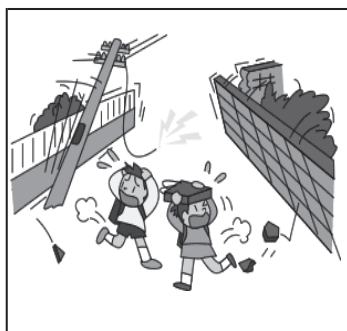
避難訓練

どこにいても、地しんのゆれから自分を守ろう

()年()組 名前

こんなところで、地しんにあったら、あなたはどうしますか？















あなたは、地しんのゆれから、自分を守るためにどんな行動をとりますか？身近な場所で考えてみましょう。

_____	にいる時は	_____	します。
_____	にいる時は	_____	します。
_____	にいる時は	_____	します。

津波が心配！揺れたら急いで高台へ

指導する学年	3・4年	指導する時間	特別活動	指導する時数	1時間
本時のねらい	登下校中に一人でいても安全に避難する方法を考える				
使用する資料	防災学習南海地震に備えちよき(津波編)③ 【スライド37・23】 自分の命は自分で守る—津波災害への備え— 津波被害の状況【仙台市・名取市】約1分15秒～			基本的指導事項 ①地域に起こる災害を知る ②必ず助かるための知恵と備え ⑤津波からの迅速な避難 ⑥いつ、どこにいても自分を守る	
学習内容・活動			指導上の留意点		
導入 1. 津波の特徴について知る。  【備えちよき③37 仙台空港】  【備えちよき③23 高さ50cmの津波】  【内閣府DVD 津波災害の状況】			○映像や写真を提示し、津波の速さや強さについて気付いたことを話し合わせる。 ・津波のスピードは速い。 ・大人でも立ってられないくらい流す力が強い。 ・津波は足元に来たら逃げられない(動けなくなる)。 ○長い揺れや大きな揺れの地震の後に、津波が起こる可能性があることを指導する。 ○DVDの映像を視聴させ、この場面が登下校する道だったらどう行動するか考えさせる。		
登下校中、地震が発生したらどう行動すればよいか考えよう。					
展開 2. 登下校中に、地震が発生した時にとるべき行動について考える。 ・まず、地震の揺れから身を守る (揺れ) ・頭を守る。 ・しゃがんで頭をランドセルで守る。 ・「落ちてこない・倒れてこない・移動してこない」場所に逃げる。 ・長い揺れや、大きな揺れの時は、津波の心配があるところは急いで高台に避難する。 (津波) ・走って逃げる。 ・高い所に逃げる。 ・□□に逃げる。			○大きな揺れの後に津波が来ると考えることを確認し、揺れからの避難と津波からの避難に分けてまとめる。 (揺れ) ・どこにいても「落ちてこない・倒れてこない・移動してこない」場所に身を寄せ、頭を保護する。 ・周りには、倒壊する恐れのあるブロック塀や建物、落下する恐れのあるガラスや看板があるので、これらの危険から離れたり、頭を保護することを確認する。 (津波) ・津波の心配があるところは、揺れから動けるようになったら一番近くて高い場所に安全を確認しながら避難する。 ・長く大きな揺れを感じたら、津波が来ると考えてすぐに避難する。 ・水は低い所へ流れる。海や川から遠い所ではなく、とにかく高い所へ避難する。		

3. 校区の地図上で、自分がいる(と仮定した)場所から一番近い避難場所と避難経路を確認する。

○地図上に児童の登下校中を仮定した一つの地点を示し、ここにいた時に大きな地震が来たらどうするか考えさせる。

○避難経路として選択した道に、橋やがけ等の危険箇所がないか確認し、児童が気付いた危険箇所については、シールや付箋を使って書き込んでいく。

○津波は川や用水路から遡ってくることもあるので、川や用水路の場所も確認させる。

○日ごろから、身の周りの危険や安全について気にしておくことも指導する。(集合場所も決めておく)

まとめ

4. 登下校中に地震が来たら、まず地震の揺れから身を守り、津波に備えて、そこから一番近い避難場所へ避難する経路を決める。

○「津波てんでんこ」のように家族がそれぞれで避難するために、自分の避難場所だけでなく家族の避難場所も確認することを指導する。

登下校中、大きな地震が来たら、どこにいても揺れから身を守り、津波に備えて急いで一番近くの高い場所へ避難する。

評価



○登下校中に大きな地震が来たら、津波が来ると考え、揺れから身を守った後、急いで一番近い避難場所へ避難することを決めている。

《一口メモ》

* 地域によっては、津波の心配がないこともあるが、休日等に海に遊びに行ったり、将来海の近くで生活したりする可能性も考えられるので、必ず、津波からの避難行動について学習しておく。

* 登下校中の避難訓練の事前学習として位置付けすることができれば、より児童の理解が深まり効果的である。

* 【スライド③23】の実験映像は、大人でも膝ぐらいの高さの津波が来ると立っていることもできないことが分かる。津波のスピードは速く、足元に津波が来た時点で、危険であるため、地域の30cmの津波到達予想時間を知っておくことが大切だということを知らせる。海や河口に近いところなど、津波の心配があるところでは、動けるようになったら、津波が来る前に避難することを指導する。

* 家族と別にいるときに災害に会った家族を助け(探し)に行こうとして命を落とすことがある。「津波てんでんこ」は、家族の絆がかえって被害を大きくするという経験してきた三陸地方に伝わる言い伝えである。津波が来たら、親も子供もお互いのことは心配せずに、真っ先に逃げるということ。家族の信頼があつてこそ、家族全員が自力で避難しているはずだと信じられるからこそ、「津波てんでんこ」が成り立つ。

* 「津波てんでんこ」のように、それぞれが逃げる約束をしていなければ、家族が心配で探しに行ったり迎えに行ったりすることがある。逃げることは知っていても逃げられなくなる心理がある。

* 内閣府のDVD『自分の命は自分で守るー津波災害への備えー』には、東日本大震災の津波映像が収められている。津波の怖さを教える際に、児童の不安や恐怖をあおるようなことがないように配慮する。

関連する
教科・行事等

登下校時(地域で)の避難訓練

揺れがおさまっても・・・危険は続く

指導する学年	3・4年	指導する時間	特別活動	指導する時数	1時間
本時のねらい	大きな揺れの後の様々な二次災害からの避難の仕方を考える。				
使用する資料	防災学習南海地震に備えちよき ②(揺れ編)【スライド35】 【スライド38・41・43】／ ④(土砂災害編)【スライド15】 ①(南海地震のことを知ろう)【スライド20・21】			基本的指導事項 ①地域に起こる災害を知る ⑦二次災害への対応 ⑧助ける人になるための行動	
学習内容・活動			指導上の留意点		
導入 1. 揺れの後の危険について考える。 【備えちよき ②35 地震の揺れの後の危険】			○【備えちよき ②35】のクイズを使って考えさせる。 ○津波はこれまでに学習しているので津波以外にも火災や余震、液状化による被害があることに気付かせる。 ○この章のスライドにはないが、高知県は土砂災害が起こる危険があることも伝える。【備えちよき④(土砂災害編)】		
揺れがおさまった！津波の他にどんな危険があるだろう。					
展開 2. 火災や余震、液状化、地盤沈下、土砂災害等の二次災害から、命を守るためにどうしたらよいか考える。 【備えちよき②38 地震の後の火災】 【備えちよき②41 余震による家屋倒壊】			○それぞれの災害の様子の写真を提示し、イメージさせ、次のようにまとめる。 (火災) ・揺れている間は、やけどをしないようにコンロから離れて自分の身を守る。 ・(火事を消すという意見も出ると思われるが、低学年や中学年の児童には消火活動は難しいと思われるので)火災を発見したら、「火事だ」と叫んで、周りの人に知らせる。 ・人がたくさんいる建物等の中からの避難は、「おさない・はしらない・しゃべらない・もどらない」の合言葉で落ち着いて行動する。 ・火災の熱から身を守るために公園などの広い場所に避難する。 ○電気器具やガス器具から火災が起こること、ガスが漏れているところは、通電した電気による火花等で火災が起こることを説明する。 (余震) ・大きな揺れで崩れやすくなった、壁やガラスが落ちてくることがあるので、一層気をつけて避難する。		



まとめ

3. 自分の住んでいる地域で、揺れの後に起こる可能性のある災害に応じて、避難方法を決める。

大きな揺れの後には、津波の他にも火災、余震、液状化等の二次災害が予想される。それぞれの二次災害の特徴を知り、災害に応じた避難をする。

評価

- 揺れの後の災害にも、自分の身を守るための避難方法を決めている。

《資料紹介》

* 総務省消防庁「チャレンジ！防災48」(<http://open.fdma.go.jp/e-college/bosai/index.html>)のホームページに災害時における身の安全の確保や、災害時の具体的な行動につながるような教材として、いろいろな指導者用テキストと児童用補助教材が掲載されている。

《一口メモ》

* 学校の周りの危険について、事前に調べておき、家庭の周りの危険については、保護者に協力を呼びかけ家庭で確認してもらうようにする。

* がれきの下敷きになっている人がいたら、周りの人に知らせたり、大人を呼びに行ったりするなど、自分でできることを行うことも指導する。



関連する
教科・行事等

避難訓練

地域の防災に関わる人たち

指導する学年	3・4年	指導する時間	特別活動	指導する時数	1時間
本時のねらい	地域の防災について考える				
使用する資料	防災学習南海地震に備えちよき ③(津波編) 【スライド14・15】			基本的指導事項 ③みんなで助かるための備え ⑨みんなで生き延びるための知恵と技 ⑩地域社会の一員としての心構え	
学習内容・活動			指導上の留意点		
導 入 1. 写真を見て、何をしているところか考える。  【備えちよき③14 津波の後の救助活動】			○【備えちよき ③14・15】の写真を提示し、気付いたことを話し合わせる。 ○津波の後であることを伝え、災害後の海上保安庁潜水士による行方不明者の救助活動であることを説明する。 ○東日本大震災の時には、海上保安庁、自衛隊、消防士、警察官等、多くの人が携わっていたことを知らせる。		
地域の防災に関わっている人はどんな活動をしているのだろう。					
展 開 2. 地域の防災に関わっている人にインタビューをして取り組みを調べる。 3. 市町村の防災計画をもとに、地域でどのような防災活動に取り組んでいるか調べる。			○社会科の学習と関連させ、身近な地域の防災活動に関わりのある人に話を聞く活動を取り入れる。 ○普段から訓練をするなど、地域の安全や、人々の命を守るために働いていることを押さえる。 ○児童の発言からは地域の防災に関わっている人として、警察や地域の人もあげられると思うが、ここでは社会科との関連で消防士に絞る。 ○市町村の防災計画について、市町村役所(場)の人に話をしてもらったり、資料を入手したりする。 ○地域の防災活動と学校のつながりを考えさせる。 ○この活動では、消防士だけでなく、消防署員、消防団員、警察官、市町村の防災担当、地域の自主防災組織の活動も含め、いろいろな人が防災活動に取り組んでいることを押さえる。 ○消防や警察、市町村の防災担当は、災害時には「公助」として救助に当たるが、広範囲のため到着に時間がかかる。そこで、まず、「自助」として、自分自身や家族と何を備えることができるか考えさせる。また「共助」として、地域と協力して何ができるかを考えさせる。		

4. 今日の学習をもとに「自助」「共助」について考える。
- ・家族と避難する場所や方法を話し合う。
 - ・地域の避難訓練に参加する。
 - ・非常用の飲み水や食べ物の準備をする。
 - ・地域の人とあいさつをするなど仲よくする。

まとめ

5. 今日からできることを発表する。

- 地域の一員として、どんな防災活動ができるか考えさせる。
- 地域の人と一緒にできることを考えさせる。
- 災害発生時には、地域の人と避難したり生活することを知らせ、周りの人と助け合うことの大切さや生活のルールを守る大切さに気付かせる。
- 地域の人にとって、学校が大切な場所であることに気付かせる。
- 普段から、自分にできることから行うことを指導する。

地域の災害に備えて、地域の人が〇〇な活動をしている。
自分も地域の一員として、□□から取り組みを始める。

評価

- 地域の防災に関わっている人がいることに気づき、自分にできることを考えている。



《一口メモ》

＊社会科の学習と関連させて学習する。展開2の活動は社会科の時間に行うことも考えられる。(3年生は、地域の様子を調べる中で、防災に関係する施設を押さえたり自主防災組織の方から話を聞いたりすることができる。)本時は、社会科での学習を生かし、地域の防災について考えさせる。

＊実際に防災活動を行っている地域の人の話を聞くことで、より具体的に災害に関するイメージを持つことができる。ゲストティーチャーなどで地域の人に話をしてもらう時には、教師が事前に綿密な打ち合わせをしておく必要がある。(本学習の目的、児童に身に付けさせたい力などを伝え、話す内容を検討してもらう。)

＊展開4では、「自助」「共助」について考える。中学年の段階で周りの人を実際に助けることは難しいと思われるが、将来は地域社会の一員として「共助」ができるように、この時期から、自分にできることを考えさせる。

＊学習したことを、学級通信等で知らせたり児童から家族に話をさせたりすることで、家庭(保護者)の防災意識を高めることができる。家庭で我が家の防災について考える機会を意図的に仕組んでいく。

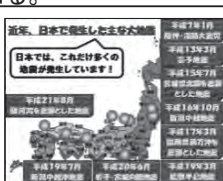
《資料紹介》

○総務省消防庁「チャレンジ！防災48」(<http://open.fdma.go.jp/e-college/bosai/index.html>)のテキスト→小学校低学年→消防署や消防団の活動を知る→2『消防署って、どんなところ?』・3『消防団って、なあに?』・4『身近な防災活動に参加してみよう』に指導者用テキストと児童用補助教材が掲載されている。

関連する
教科・行事等

3年社会: 身近な地域や市(町村)の様子
4年社会: 地域を守る人々

南海地震に備えよう

指導する学年	5・6年	指導する時間	特別活動	指導する時数	1時間
本時のねらい	南海地震について知り、その時にどんな行動をとればよいか考える。				
使用する資料	高知県や地域の観光パンフレット 防災学習南海地震に備えちよき ①南海地震は必ず起こる【スライド2・19・28・34】			基本的指導事項 ①地域に起こる災害を知る ④揺れから自分を守る	
学習内容・活動			指導上の留意点		
導入 1. 高知県の自然について話し合う。 ・温暖な気候、おいしい食べ物、観光 ・台風、地震、津波、土砂崩れ			○社会科や総合的な学習の時間等で学習した、地域のよさや自然の二面性について確認する。 ○高知県の観光案内パンフレット等も自然の恵みを知る資料になる。 ○自然の脅威に備えることで、命を守ることができる。		
南海地震のことを知り、次に来る南海地震に備えよう。					
展開 2. 【備えちよき ①2】で日本は地震の多い国であることを知り、【備えちよき ①8～36】で南海地震のことについて知る。  【備えちよき ①2 近年日本で発生した大地震】  【備えちよき ①19 昭和南海地震の被災状況】  【備えちよき ①34 南海地震の揺れの長さ】			○【備えちよき①2】で近年、日本で発生した震度6弱以上の地震を押さえる。これより小さい地震はもっと多いことを知らせる。 ○【備えちよき①8～11】で地震が発生する仕組みや南海地震の特徴について知らせる。 ・東海、東南海等の他の震源域との連動で巨大化の可能性はある。 ・大津波や地盤変動が予想されている。 ○【備えちよき①12～23】で過去の南海地震について取り上げ、地域で起きた被害について説明する。 ・100年から150年ごとに繰り返されている。 ・揺れによる建物倒壊や火災津波等の被害があったことなど、昔の記録から知ることができる。 ○【備えちよき①26～】で南海地震で想定される揺れの長さや強さ、規模の大きさについて押さえる。 ○スライドのクイズを使い考えさせることで、学習内容の理解を深めるようにする。		
3. 自分の地域の揺れの想定から、南海地震発生後の周りの様子を想像する。			○【備えちよき ①28】の表から、想定される震度の状況になった時、どう行動することができるか、事前に備えることはできないか考えさせ、次のようにまとめる。 ・揺れから自分の身を守る行動をする。 ・「落ちてこない・倒れてこない・移動してこない」場所に身を寄せ頭を守る。 ・家庭の家具の固定をする。		
 【備えちよき ①28 気象庁震度階級関連解説表(抄)】					

4. 自分の住んでいる地域の地震や津波の想定を確かめる。

まとめ

5. 南海地震について分かったことをまとめ、近い将来南海地震が発生した時、生きぬくために事前に準備しておくことを考える。

○各市町村の広報や県のホームページなどの資料を使って、南海地震で想定される震度や津波高、津波到達時間などを確認する。

○南海地震の特徴を次のようにまとめる。

- ・繰り返し発生している。
- ・高知県には、過去にも甚大な被害が発生している。
- ・強い揺れ(最大震度7)
- ・長く揺れる
- ・大津波が予想される

○家具固定や非常持ち出し袋等物の準備だけでなく、避難訓練にまじめに取り組んだり、災害時をイメージして工夫した生活をしたりするなど、心や態度の準備を考えさせる。

強くて大きく津波等の危険のある南海地震から生きぬくために、〇〇を準備しておく。

評価

○南海地震の特徴から、揺れから身を守る方法や避難方法、事前の備えなどできることを考えている。

《一口メモ》

* 想定はあくまでも想定であり、想定外のことも起こる可能性がある。想定をすべて信じることなく、自分の判断で、想定外のことに最善を尽くすことを必ず指導する。

* 【備えちよき①9】の「県内の想定される被害」の数値は、東日本大震災が起こる前の想定によるものである。それでも東日本大震災の死者・負傷者の総数と同じぐらいの人的被害が想定されている。東日本大震災以降の想定ではさらに大きな被害が考えられる。他にも、想定される震度や被害については、今後、高知県から発表される数値を反映させて指導する。

* 新想定における震度や浸水深等は、高知県危機管理部南海地震対策課のホームページ(<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/010201/>)等で、最新の情報をあらかじめ調べておく。

* 高学年になっても、揺れから身を守ることや津波からの避難の基本を必ず指導する。



関連する
教科・行事等

5年社会：高知県の地形や気候の特色と人々のくらし
避難訓練

津波から逃げる

指導する学年	5・6年	指導する時間	特別活動	指導する時数	1時間
本時のねらい	津波避難の三原則を知り、どこにいても一人でも津波からの避難方法を考える。				
使用する資料	気象庁津波防災啓発ビデオ「津波からにげる」(DVD) (http://www.jma.go.jp/jma/kishou/books/tsunami_dvd/index.html) 平成24年3月制作(小中学校に配布済み)			基本的指導事項	
				⑤津波からの迅速な避難 ⑥いつ、どこにいても自分を守る	
学習内容・活動			指導上の留意点		
導入 1. 校区の津波避難場所を確かめる。			○校区の地図を提示し、津波避難場所や津波避難タワー等にシール等でしるしをつけ、場所を確認させる。 ○揺れたら、とにかく急いで、津波警報が解除されるまで高台に避難することを改めて指導する。 ○自宅にいても、外出していても、落ち着いてその場やその状況に応じた避難行動をとることを指導する。		
津波から避難する方法を考えよう。					
展開 2. 【津波からにげる(DVD)】を視聴し、津波から避難する時に大事なことは何か考える。  【津波からにげる(DVD)】 ・(津波の心配があるところでは)揺れたら逃げる。 ・周りに声をかけながら逃げる。 ・高い所へ逃げる。 ・自分から進んで逃げる。			○児童の発言から、次のことを押さえる。 ・長い揺れや強い揺れを感じたらすぐに避難する。 ・一人でも自分で判断して、一番近くの高台へ避難する。 ・周りに声をかけながら避難する。 ・状況を見ながらより安全な場所へ避難する。 ・海の近くに行く時は、標識や高い場所を確かめる。 ○津波からの避難三原則を指導する。 「想定にとらわれない」 ・ハザードマップや想定されている数字は地震や津波の大きさをイメージするのに必要なものではあるが、信じ切ってはいけない。ハザードマップや過去の津波の体験から、ここまでは津波は来ないだろうと油断せず想定以上のことを自分で判断しなければいけない。 「最善を尽くす」 ・最初に避難した場所で安心せずに、次の行動を考えること。 「率先して避難する」 ・自分が率先して避難する姿を示すことが、周りの人の避難行動につながる。 ・避難する時に周りの人に「逃げるぞ！」と声をかけながら避難することで、避難行動を促すことができる。 ・自分の命があって、初めて人の命を助けることができる。まずは、自分の命を守りぬく。		



【津波からにげる(DVD)】

- ・(津波の心配があるところでは)揺れたら逃げる。
- ・周りに声をかけながら逃げる。
- ・高い所へ逃げる。
- ・自分から進んで逃げる。

3. 津波からの避難三原則を知り、避難する時に自分にできることを話し合う。

○児童の発言から、次のように押さえる。

- ・津波に危険があるところでは、長い揺れや大きな揺れの後には津波が来ると考えて、想定にとらわれずすぐに近くの高台へ避難する。
- ・避難する時には、周りの人に聞こえるように「逃げるぞ」と声をかけながら避難する。
- ・避難した場所の状況に応じて、より高いところへ避難（二度逃げ三度逃げ）する。
- ・初めて行く所では、高台や避難経路の標識や表示を確認する。

まとめ

4. 避難をする時に、まずは自分の命を守るために自分にできることを考える。

○自分がけがをしたり、命を落としたりすることがあれば、人の命が救えないことを改めて押さえ、まず、自分の命を守ることを考えさせる。

津波から避難する時には、「想定にとらわれないで率先して避難する。」
「自分にできる精一杯の行動をする。」

評価

○避難時に、自ら率先して避難する行動を考えている。

《一口メモ》

* 津波からの避難時以外にも、できることを考えさせる。

- ・火災を発見したら、消火活動ができるにこしたことはないが、危険を感じたら無理をせず、周りの人に知らせる。
- ・地震の揺れ等で、がれきの下敷きになっている人を発見した時には、大人を呼びに行くなど自分にできる限りの「助ける人」になる行動をする。ただし、津波や火災の心配がある時には、自分の命を守ることを優先する。



関連する
教科・行事等

避難訓練

災害と情報

指導する学年	5・6年	指導する時間	特別活動	指導する時数	1時間
本時のねらい	災害時に活用できる情報を考える。				
使用する資料	NHK(http://www.nhk.or.jp/bousai/) ドコモ(http://www.nttdocomo.co.jp/service/safety/aremail/earthquake_warning/) au(http://www.au.kddi.com/notice/kinkyu_sokuho/jishin_sokuho/index.html) ソフトバンク(http://mb.softbank.jp/mb/service/urgent_news/) のホームページ			基本的指導事項 ②必ず助かるための知恵と備え ③みんなで助かるための備え ④揺れから自分を守る ⑤みんなで生き延びるための知恵と技	

学習内容・活動

指導上の留意点

導入

1. 緊急地震速報の報知音を聞く。

- ・NHK
- ・ドコモ、au、ソフトバンク 等

- 学校の訓練で使っている報知音と違う報知音を聞かせ、報知音にはいろんな種類があることを知らせる。
- どこにいてもどの報知音を聞いても、揺れに備え身を守る行動をとることを指導する。
- 環境が整えば、録音した報知音を聞かせるか、ホームページや携帯電話からの報知音を聞かせる。

南海地震(地震・津波)発生時に必要な情報を考えよう

展開

2. 災害時の様子をイメージして、必要だと思う情報を考え、発表する。

<災害発生前>

- ・地震が起こること
- ・津波が来ること

<災害発生時>

- ・地震の震度や大きさ
- ・津波が来るか来ないか

<災害発生直後(1時間以内)>

- ・地震・津波の大きさ
- ・家族が無事かどうか
- ・家族の居場所

<災害発生後(1日以内)>

- ・津波情報
- ・避難所情報
- ・家族や親せき、知人との連絡

<避難生活(3日目以降)>

- ・食糧等の配給場所
- ・家族や親戚、知人との連絡

○災害時の場面を分けて考えさせる。

- ・災害発生時(その前後)
- ・避難時
- ・避難後の生活時

○児童の発言から、次のようにまとめる。

<災害発生時(その前後)>

- ・緊急地震速報
- ・津波警報
- ・防災無線
- ・周りの人との口頭での情報交換

<避難時>

- ・ラジオ、ワンセグ
- ・津波警報
- ・携帯電話
- ・周りの人との口頭での情報交換

<避難後の生活時>

- ・携帯電話
- ・災害用伝言ダイヤル171
- ・ラジオ
- ・伝言板
- ・張り紙
- ・周りの人との口頭での情報交換

- 必要な情報が思い浮かばない児童には、災害時にどんな情報がほしいと思われるか。また、その情報を得る手段は何かを考えさせる。

3. それぞれの情報のメリットとデメリットを話し合う。

- ・緊急地震速報
- ・津波警報
- ・防災無線
- ・口頭での情報交換
- ・ラジオ
- ・ワンセグ
- ・携帯電話
- ・災害用伝言ダイヤル171
- ・伝言板(張り紙)

等

まとめ

4. 周りにあるたくさんの情報から入手した、正しい情報を活用しようとする。

○児童の発言から次のようにまとめる。

＜緊急地震速報＞

○大きな揺れが来る前に知ることができるので、身を守ることができる。

×音の違いを知らないと身を守れないかもしれない。

＜携帯電話＞

○多くの人が持っている。繋がりやすい。

×充電が切れたら使えない。停電だと充電もできない。

＜災害用伝言ダイヤル171＞

○災害時につながりやすく、大事な伝言が伝わる。

×使い方を知らないと役に立たない。

＜周りの人との口頭での情報交換＞

○その時にあった情報が得られる。

×本当かどうか分からない内容に振り回されるかもしれない。

様々な方法で情報は入手できるが、停電等で使えなくなることもあるので、複数の情報の入手方法を知っておく。情報のデメリットに対しては事前の備えが必要になる。



評価

○それぞれの情報のメリットデメリットを考え、正しい情報を入手することを考えている。

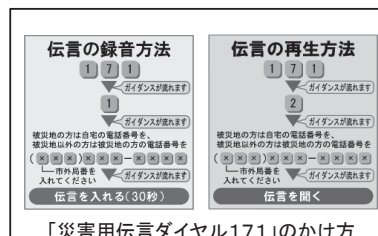
＜資料紹介＞

* 大災害の後には、電話がかかりにくくなる。

「災害用伝言ダイヤル171」で家族の安否確認ができるので使い方を覚えておく。

＜体験利用日＞

- ・毎月1日・15日
- ・正月三が日(1月1日～1月3日)
- ・防災週間(8月30日～9月5日)
- ・防災とボランティア週間(1月15日～1月21日)



* 使用する資料にあるホームページで、それぞれの緊急地震速報の報知音の視聴が可能。実際に報知音を聞かせる時に活用できる。

＜一口メモ＞

* 災害時には、根拠のないうわさに惑わされ、誤った行動をとってしまうことがある。怪しい情報に振り回されないように、情報元が信用できるかどうか確かめ、自分自身が不確かな情報の発信源にならないようにする。

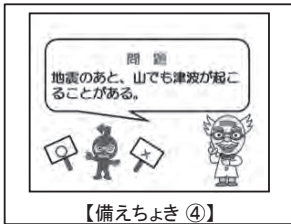
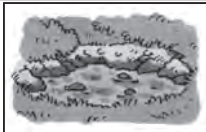
* 東日本大震災では、インターネットやメール、ブログが比較的早い段階で使えるようになった。しかし、停電等でしばらく使えなかった事実もあるので、どの手段を使うか複数考えておくことも大切である。

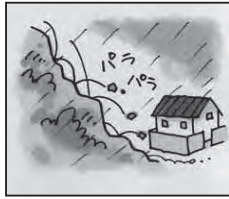
* 緊急地震速報受信システムは、機種により報知音や音声ガイダンスに違いがある。気象庁からの緊急地震速報が、どのような流れで学校に届くのか、また、どんな時にどんな報知音や音声ガイダンスが流れるのかを教職員は確認しておく。

関連する
教科・行事等

5年社会:くらしを支える情報
避難訓練

山の津波「土砂災害」

指導する学年	5・6年	指導する時間	特別活動	指導する時数	1時間
本時のねらい	土砂災害から自分の命を守る				
使用する資料	防災学習南海地震に備えちよき ④(土砂災害編) NPO法人砂防広報センターホームページ 「防災学習お役立ちページ」 (http://www.sabopc.or.jp/library/index.html)			基本的指導事項	
				⑦二次災害への対応 ⑧助ける人になるための行動	
学習内容・活動			指導上の留意点		
導入 1. 地震の後の二次災害について確認する。 ・津波、火災、土砂崩れ、余震、液状化 2. 【スライド④15】の写真を見て気付くことを発表する。  【備えちよき ④15 土佐町のがけ崩れ】			○地震後の二次災害について今までの学習を想起させる。 ○児童の気付きから、がけ崩れの様子だと押さえる。 平成13年3月の芸予地震により、高知県土佐町で起きたがけ崩れということを説明する。 ○大雨の後の被害ではなく、地震の揺れによるものであることを強調する。 ○地図で震源と土佐町を確認し、離れている高知県でも震度5であったことを押さえる。		
土砂災害について知り、備えよう					
展開 3. 【備えちよき ④】を視聴し土砂災害について知る。 ・山津波 ・がけ崩れ ・地すべり  【備えちよき ④】 4. 土砂災害からの避難についてまとめる。  【NPO法人砂防広報センターHPより】 川の水がにごり、水といっしょに倒れた木が流れてくる②  【NPO法人砂防広報センターHPより】 池の水がにごったり急に増えたり減ったりする			○【備えちよき④】で土砂災害は「山津波」「がけ崩れ」「地すべり」の3つに分けられることを指導する。 ○それぞれの土砂災害の前兆を確認し、前兆が見られたらすぐに避難することを指導する。 ○土砂災害の起こる原因として、地震だけでなく台風や大雨の後にも起こる可能性がある。土砂災害が起こりやすい場所を調べ、津波と同じように早めに避難することを指導する。 ○3つの種類ごとに前兆をまとめ避難方法を確認する。 <土石流の前兆>(例) ・山鳴りや異常なおい ・川の水がにごり、倒れた木が流れてくる ・雨は降り続けているのに、川の水が減る <地すべりの前兆>(例) ・わき水が増える ・風もないのに山の木がざわざわする ・池の水がにごったり、急に増えたり減ったりする ・地面にひび割れや段差ができる		



【NPO法人砂防広報センターHPより】
がけから小石がパラパラ落ちてくる②



【NPO法人砂防広報センターHPより】
避難場所を決めておく

まとめ

5. 土砂災害が起こる可能性がある地域での避難の
仕方を考える。

<がけ崩れの前兆> (例)

- ・がけから急に水がわき出る
- ・今までと違う場所から水がわく
- ・わき水の量が急に変わる
- ・水がにごる
- ・がけが膨らむ
- ・小石がパラパラ落ちてくる

※前兆がなく崩れることもある。

<避難方法>

- ・早めに避難する
- ・避難場所を事前に確認しておく
- ・流れる水には近づかない
- ・にごった水は深さが分からないので注意する
- ・土石流からの避難は、川の流れに直角の方向に避難する
- ・揺れの後には、がけの上や下から離れて、危険な所には近づかない。
- ・正しい防災情報を入手し、素早く避難する。

○高知県には津波だけではなく、山では土砂災害の恐れがあることをまとめる。

○雨天時に地震が起こる可能性もあり、その場合は一層土砂災害の危険が増す。そのための備えとして、危険を知り近づかないような心構えが大切であることを確認する。

土砂災害の心配がある場所では、危険なところに近づかない。
前兆に気付いたらすぐに避難する。

評価

地域の土砂災害の危険を知りとるべき行動を考えている。

《一口メモ》

* 高知県は、急傾斜地が非常に多く、南海地震が起こるとがけ崩れの危険性が高い。津波からの避難場所を設定する際には、その場所が土砂災害の危険性はないか確認しておく必要がある。

* 土砂災害の被害にあった人を見た時は、火災の発見やがれきの下敷きになっている人を見た時と同じように、大人に知らせるなど自分にできることをするように指導する。

《資料紹介》

* 高知県土木部防災砂防課のホームページ (<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/171501/>) に土砂災害の危険箇所等の情報があるので活用する。

* NPO法人砂防広報センターホームページ「防災学習お役立ちページ」

(<http://www.sabopc.or.jp/library/index.html>) には他にも土砂災害に関する資料や映像がある。

※本時の資料は砂防広報センターの情報によるもの



関連する
教科・行事等

避難訓練

これが大切！我が家の備え

指導する学年	5・6年	指導する時間	特別活動	指導する時数	1時間
本時のねらい	南海地震に備え、今からできることを考えよう				
使用する資料	防災学習南海地震に備えちよき ①(南海地震のことを知ろう) 【スライド35】 南海地震に備えちよき(家庭保存版)P22～24			基本的指導事項	
				②必ず助かるための知恵と備え ⑩地域社会の一員としての心構え	

学習内容・活動

指導上の留意点

導入

1. 【備えちよき①35】の揺れの映像を見て気付いたことを発表する

- ・家具の固定をしないと倒れてくる。
- ・家具が倒れてきたら動けなくなる。
- ・家具の置き方を変える
- ・家具の固定をしないとイケない。

○【備えちよき①35】の実験映像には、オフィス、リビング、寝室、キッチンの場面がある。指導のねらいに合わせて、場面を選び視聴させる。



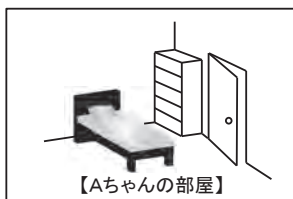
【備えちよき ①35 地震の揺れの実験】

○阪神淡路大震災では、家の倒壊は免れても、家具の下敷きになり亡くなった人がいることを伝える。
○家具に挟まれて身動きがとれなくなったり、けがをすると逃げるのが困難になることを知らせ、事前の備えが重要であることを着目させる。

我が家の備えを考えよう

展開

2. 3つの部屋(寝室)の見取り図から、安全な家具配置について考える。



【Aちゃんの部屋】



【Bさんの部屋】



【C君の部屋】

○ABCの3つの部屋(寝室)の見取り図を見て、安全な家具配置について考えさせる。

・Aは、頭の上のたんすが倒れてくるので危険。

・Bは、たんすをベッドと平行に置いているので、ベッドの上に倒れてこないのが安全。
でも、倒れたたんすがドアを防ぎ避難できなくなるので危険。

・Cは、ドアから離れたところにたんすがあるので、たとえ倒れても避難できるので安全。
枕元に非常持ち出し袋と運動靴が備えられているので、すぐに安全に避難することができる。

3. 自分がよく過ごす部屋の見取り図を書き、家庭の家具配置や家具固定について考える。

○方眼紙に次の手順で部屋の見取り図を書かせる。

- ・部屋の大まかな間取りを書く。
- ・リビング、寝室、キッチンなど、自分がよく過ごす一つの部屋の様子を思い浮かべ、家具が置かれた様子を書き込む。
- ・部屋の見取り図を見て、地震が起こった時の危険について書き込む。

○方眼紙に書いた見取り図を見て、家具の置き場所をどのように変えれば安全になるか考えさせる。

○展開2のCの間取りを参考にして、家具配置を考えさせる。

○家具が動かせない場合は、家具固定や、寝る場所や過ごす場所を変えたりすることも考えさせる。

まとめ

4. 南海地震に備えて、自分で、家庭でできることを考える。

○今日の学習を家庭に持ち帰り、「家族防災会議」を開くことを伝える。(事後課題とする)

南海地震に備えて、自分(や家族)の安全のために、家具固定や家具配置など自分(や家族)にできることを家族と一緒にしておこう。



評価

・南海地震に備えて、家庭の事情に合わせて、自分にできることを考えている。

《一口メモ》

* 家具配置については、家(居間、寝室、台所)の間取りを書いてみると、地震が起きた時どのような危険があるかを考えることができる。参観日等で保護者と一緒に間取りを書いたり、非常持ち出し品の中身を考えたりする場面を設定し、保護者の防災意識も高めたい。地域の防災訓練に家族で参加することも、地域の防災について考えることができる良い機会になる。

* 様々な家庭環境の児童がいる。部屋の間取りや家族構成等を話題にする際には十分に配慮する。

* 「家族防災会議」の内容として次のようなことが考えられる。

- ・家族一人一人の役割分担
- ・高齢者、乳幼児、病人、ペットを連れての避難の仕方
- ・避難経路や避難場所の確認、家族が離れ離れになった時の避難の仕方や集合場所
- ・自宅の安全対策(家の耐震性、家具固定、家具配置、ガラス飛散防止シート等)
- ・非常持ち出し品や備蓄品の準備、確認
- ・緊急時の連絡方法や連絡先

等

《資料紹介》

* 総務省消防庁「チャレンジ！防災48」(<http://open.fdma.go.jp/e-college/bosai/index.html>)のテキスト→小学校高学年→被害軽減のための日ごろからの備えを知っている→12『家具の配置と固定の工夫』・13『わたしの家の防災診断』に児童向けワークシートや指導者用テキスト等が掲載されている。

* 導入1の【スライド①35】の実験映像は、備えちよきのパワーポイント上では一時停止ができないが、DVDディスク内のファイル【1南海地震は必ず起こる】の中の【地震の揺れ実験. wmv】を再生すると一時停止や早送り、巻き戻しができる。

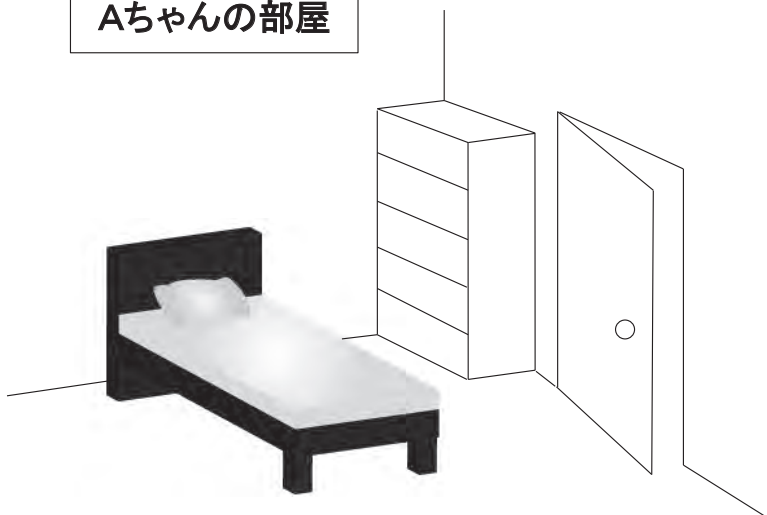
関連する
教科・行事等

地域の避難訓練

これが大切！我が家の備え

1. 地震が起きたとき、下のような部屋ではどのようなことが考えられるでしょう。

Aちゃんの部屋



気づいたこと

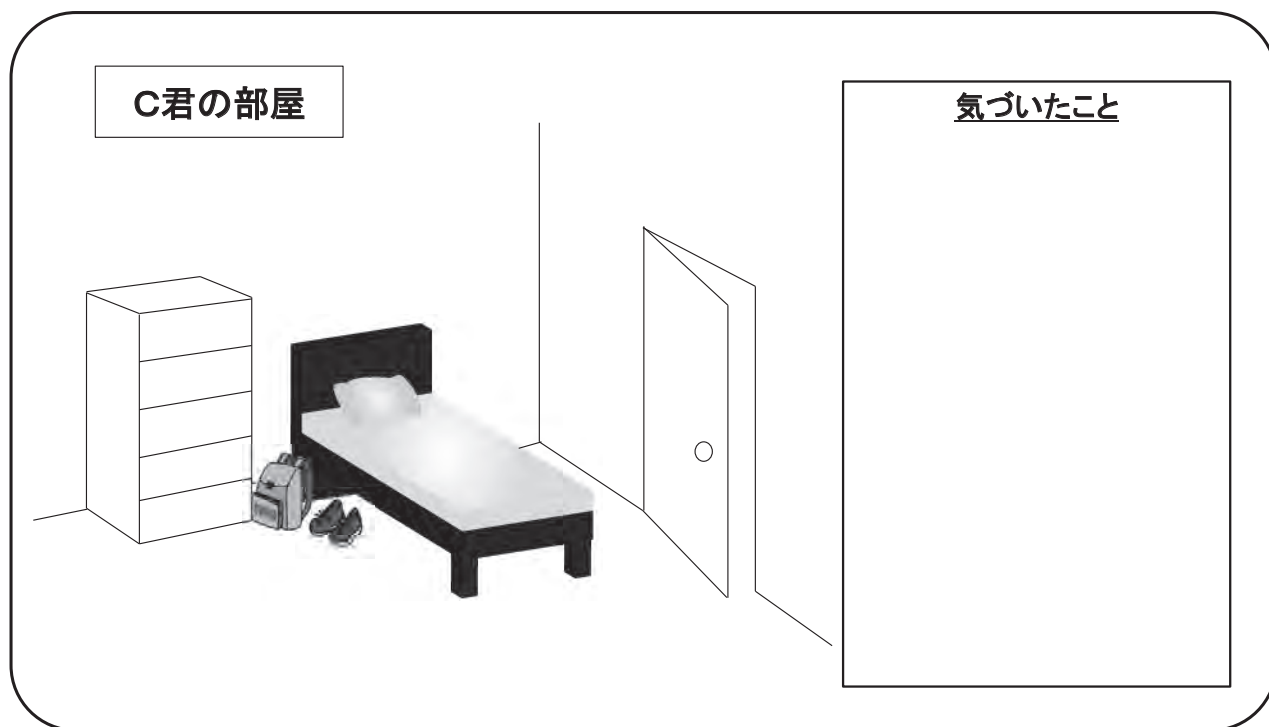
A large empty rectangular box for writing observations.

Bさんの部屋



気づいたこと

A large empty rectangular box for writing observations.



2. 自分がよく過ごす部屋の見取り図を描いてみましょう。

避難生活を考えよう

指導する学年	5・6年	指導する時間	特別活動	指導する時数	1時間
本時のねらい	避難生活の様子を知り、自分でできることを考える。				
使用する資料	防災学習南海地震に備えちよき ⑤(避難生活編)【スライド6】			基本的指導事項 ②必ず助かるための知恵と備え ③みんなで助かるための備え ⑨みんなで生き延びるための知恵と技 ⑩地域社会の一員としての心構え	
学習内容・活動			指導上の留意点		
導入 1. 写真を見て、何をしている場面か考える。 阪神・淡路大震災後の避難生活  【備えちよき⑤6 体育館での避難生活】 阪神・淡路大震災後の避難生活  【備えちよき⑤6 水の配給に並ぶ人々】 2. 避難所に行かなければならないのはどんな場合があるか考える。			○【備えちよき⑤6】の写真を提示する。 ○児童の発言から避難所での生活の様子ということをおさえる。 ○言葉の違いを指導する。 ・避難場所：一次的に避難する場所 ・高台へ二次(三次)避難：より安全なところに避難する ・避難所：一定期間生活する所 ○避難所にいざるを得ない状況であることを確認する。 ・家にいることができない。 (津波で流された・火災で燃えてしまった・崩れる危険性がある・家の中が散乱して住めない・余震や土砂災害の危険がある) ・集落が孤立してしまった。 ・ライフラインが途絶え、水や電気、ガスが使えない。 ○ライフラインが途絶えても、自宅にいる人もいる。		
避難生活は、どんな困ることがあるだろう。					
展開 3. 避難所の生活が、普段の生活とどう変わるかを考える。			○児童の発言から、いろいろな人たちと共同で生活をしたり、物資が少ないことを押さえておく。 ○ワークシートに普段の1日の行動を書かせる。 ○「いるもの・使うもの」の欄にその生活や行動(起床・食事・身支度・学習・放課後・就寝等)のために必要なものを書かせる。 ○「避難所では？」の欄に普段の生活や行動ができるか考え、不便になってしまうことを書かせる。		

4. 普段の生活通りにできないことはどんなことか、そのために備えておくことは何かを話し合う。

○児童の発言から、事前の備えを次のように分けて整理する。

- ・家族や自分が準備しておくもの
- ・家族と話し合い等で決めておくこと
- ・周りの人との関係
- ・自分自身の心や体の準備

○周りの人とは、日頃からつながっておくことを指導する。

○普段の生活がいかに便利で快適かということに気付かせ、災害時には便利で快適な生活が送れなくなるので、日ごろから備えることの大切さを理解させる。

まとめ

5. 避難所生活に備えて、今日からできることを考える。

○手伝いや、小さな子のお世話や遊び相手等今からでもできることを考えさせる。

避難所生活は普段当たり前にしていたことができなくなり、我慢することも増えてくる。日ごろから、地域の一員として災害に対する備えと、自分にできることは自分でしたり周りの人と協力したりする練習をしておこう。

○児童が決めた今日からできることを、家族に宣言し、実行していくように指導する。

(後日)

○今日の学習のねらいや内容を学級通信等で知らせ、児童の意欲を高めてもらうように協力をお願いする。

評価

○身の回りのことで、自分ができることを見付けてやろうとしている。



《一口メモ》

* 家族の防災意識を高めるために、学校での学習を家庭で話をする場を意図的に設定する。
地域の避難訓練に家族で参加し、地域の防災活動を知る機会をつくる。

* 5年生の保健の学習『けがの防止』に関連させ、簡単なけがの手当ては自分でできるように指導する。

* 避難生活で最も困ることは、移住空間がかなり狭くなり、プライバシーがなくなる。これにより苛立ちが多くなり、自分勝手な行動や発言が増えてくる。東日本大震災の時には、配給をしている学校の教員や中学生に対して、暴言を吐いた人がいたという事例もある。

《資料紹介》

* 総務省消防庁「チャレンジ！防災48」(<http://open.fdma.go.jp/e-college/bosai/index.html>)のテキスト
→小学校高学年→災害に適した避難ができる→6『くらべてみよう、日常生活と被災生活』に指導者用テキストと児童用補助教材が掲載されている。

関連する
教科・行事等

5年保健:けがの防止
地域の避難訓練

避難所では 私たちの生活はどうなるの？

()年()組 名前

時間	いつもの生活・行動	いるもの・つかうもの	避難所では？
6:00			
9:00			
12:00			
15:00			
18:00			
21:00			

<今日の学習で気付いたこと・分かったこと・考えたこと>

<今日からすること>

避難所では 私たちの生活はどうなるの？【例】

()年()組 名前

時間	いつもの生活・行動	いるもの・つかうもの	避難所では？
6:00	起床		
	トイレ	水、トイレットペーパー	水が使えない、トイレの数が足りない、汚い
	朝食	米、野菜、水、食器、ガス	食糧がない、水がない、調理できない
	身支度	歯ブラシ、歯みがき、くし、鏡	
	登校		
9:00	学習	・「いつもの生活・行動」を、具体的に書かせると「いるもの・つかうもの」が考えやすくなる。 ・普段の生活に必要なものや使っているものを、「いるもの・つかうもの」欄に記入させる。 ・【備えちよき】のスライド等から避難所生活の様子を想像させ、普段の生活との違いを考えさせる。 ・不便な生活になることに気付いた後に、「不便な生活を少しでも解消させるには、どんな準備(備え)が必要か」考えさせる。	
12:00	給食		
15:00	下校		
	帰宅		
	習い事		
	公園で遊ぶ	遊び道具	遊ぶ場所がない、道具がない、相手がいない
	帰宅		
18:00	夕食		
	宿題		
	テレビ	テレビ、電気	テレビがない、電気がない
21:00	入浴	お湯、ガス	お風呂がない、着替えがない
	就寝	布団	布団がない、狭い、隣と近い、周りの声が気になる

<今日の学習で気付いたこと・分かったこと・考えたこと>

<今日からすること>

中学校 展開例

No	学年	指導内容	基本的 指導事項	指導 時間数
1	1年	津波から命を守る心得は？	①②⑤	1
2	1年	登下校時の避難マップをつくろう	②③	7
3	1年	南海地震とは・・ ～地震・津波の発生メカニズム～	①	1
4	1年	緊急地震速報の仕組みと活用	②④⑥	1
5	1年	危険はまだまだ続く…様々な二次災害	⑦⑧	1
6	2年	修学旅行先で地震発生！その時、あなたは？ ～いつ、どんなときでも命を守る～	④⑥	1
7	2年	いざという時、助ける人になるために ～応急手当の意義と方法～	③⑧	2
8	2年	「警報」「注意報」の違いって？ ～情報の正しい理解と活用～	②	1
9	2年	備えて安心！～家庭の安全対策～	②⑩	2
10	3年	災害後の暮らし、あなたにできることは？	③⑨⑩	1
11	3年	使えますか？防災倉庫の中にあるもの	③⑩	1
12	3年	家族との「5つの約束事」～家族防災会議を振り返る～	②⑩	1
13	3年	小学生や幼児と一緒に考えよう ～防災かるたづくり～	③	2

1 中学校 1年生					
津波から命を守る心得は？					
指導する学年	1年	指導する時間	特別活動	指導する時数	1時間
本時のねらい	津波からの主体的な避難行動がとれるような取組や心構えについて考える。				
使用する資料	「防災学習 南海地震に備えちよき」③(津波編)【スライド3～13】、おわりに【スライド3～7】			基本的指導事項 ①地域に起こる災害を知る ②必ず助かるための知恵と備え ⑤津波からの迅速な避難	
学習内容・活動			指導上の留意点		
導入 1. 東日本大震災時、高知県にも津波警報が発令された。その時、避難対象となった地域の人々で実際に避難した人の割合を予想する。 2. 避難勧告が出たにもかかわらず、なぜ避難しなかったのか考える。 ○「自分の地域は大丈夫だろう」 ○「津波はここまで来ないだろう」 …これでいいのだろうか？ 3. 「防災学習 南海地震に備えちよき」の③(津波編)【スライド3～】を使用し、津波の特徴を確認する。 ○すさまじい破壊力 ○伝わる速度が速い ○繰り返し襲ってくる ○引き波から始まるとは限らない ○膝下位の高さでも動けなくなる ○強い揺れだけでなく、長くゆっくりとした揺れでも津波は発生する			○高知県の避難対象者のうち実際に避難した割合を知り、生徒に自分自身の防災意識を振り返らせる。 ・実際避難したのは5.9% ・小学校での既習事項を含め津波の特徴等知っていることを発表させ、確認させる。  H23 (2011).3.11 東日本大震災(M9.0) 【備えちよき③3～東日本大震災】		
津波からの避難に際し、適切に判断し行動するためには、日頃からどんなことに気をつければいいだろうか？					
展開 4. 「自分が助かるために」どう行動すべきか考える。 5. 【問題】の災害対応場面で、どんな決断を下すのか、自分の行動を考え、意思表示を行う。 【問題】「あなたは南海地震による津波が最短10分で来るとされる海辺の町に住んでいます。今地震が発生しました。早速避難を始めますが、近所に一人で暮らしている祖母が気になります。まず、祖母を見に行きますか？」 YES：(見に行く) NO：(そのまま避難する)			○全員でまとめた意見を共有させる。 ・「落ちてこない」「倒れてこない」「移動してこない」を再確認。 ・直ちに避難行動を開始、少しでも高い所へ。 ・動けるようになったらすぐ避難する。 ・日頃からの準備が必要。 ・「クロスロード」の問題を活用し、どう判断し行動するかを考え、災害時の判断の難しさを感じさせる。		

<クロスロードの問題を活用した授業の進め方例>

- ① 予め青のYESカードと赤のNOカードを準備し、生徒に1枚ずつ配布する。
- ② 教員が【問題】を読み上げる。
- ③ 生徒は、YESなら青、NOなら赤のカードを一齐に挙げて、自分の意思表示をする。
- ④ 何人かを指名してまたは近くに座っている者同士で話し合いを持ち、YESまたはNOの理由、選んだポイントを発表する。
○YESの理由→「放っておけない」「避難していないと思う」 ●NOの理由→「津波が迫っている」「まず自分の命」
- ⑤ YESの判断、NOの判断のそれぞれにどんな問題点があるのか、意見交流を行う。
○YESの問題点…「自分も助からないかも」 ●NOの問題点→「後で後悔する」
- ⑥ 必ずしも「正解」がない問題には、自分なりの意見をしっかり持ち、周りの人の意見にもよく耳をかたむけることが大事であること、また「事前のできる備え」にはどんなことがあるだろうか、この時間をとおして考えることを伝える。

6. 「日頃からの準備」としてどんなことができるか、考え、全体で共有する。
- 家族各々が逃げるという約束
 - 場面や状況に応じた判断ができるよう、避難訓練に真剣に取り組む。

まとめ

7. 岩手県釜石市の中学生の避難が小学生の避難行動を促した例を【備えちよき「おわりに」3～7】で知る。
8. 津波災害から自分の命を守るための行動について各自で考え、全体で共有する。

- ・【問題】のように、避難したくても避難できない状況に遭遇する場合がある。
- ・訓練を繰り返すことでしか身に付かない知識や技能があること、率先避難のためには、日常の心がけや積み重ねが必要であることを知らせる。

- ・まず自分が率先避難することで結果的に多くの人を救うことにつながることを理解させる。

東日本大震災での大津波により多数の死者・行方不明者が出ている岩手県釜石市では…市内の小中学校全14校の児童・生徒約3,000人の避難率が100%に近く、ほぼ全員が無事であったことが分かった。



【備えちよき「おわりに」3～7】

・みんなが助かるために、事前の家族との約束・取り決めが必要である。・正しい判断ができるよう避難訓練には真剣に取り組む。地域や保護者との合同訓練も効果的である。

評価

- ・津波災害に対し、自分の命を自分で守るための避難の判断と行動について考えている。

【押さえておきたい事柄】

◆「クロスロード」とは……英語で「岐路」、「分かれ道」を意味している。ゲーム「クロスロード」は、1995年の阪神・淡路大震災の際、神戸市職員が対応に迫られた難しい状況判断がたくさんあった貴重な体験を素材として作成されている。通常はグループ(できれば奇数人数)でゲームを実施し、災害対応について学ぶ。災害対応は、ジレンマを伴う重大な決断の連続であり、参加者は、様々なジレンマを疑似体験することで、災害対応を自らの問題として考え、また自分とは異なる意見・価値観の存在に気付くことができるため、判断に必要な条件や事前の備えを考えることに役立つこととなる。

◆本事例では「クロスロード」の応用的な使い方である、大人数で実施するときの展開例を紹介している。

(「Crossroad(クロスロード)実施の手引き」から抜粋)

【参考】「東日本大震災時、「避難三原則」を実践した釜石市の子どもたち」

東日本大震災において、岩手県釜石市では、学校管理下になかった5名の児童生徒を除く、市内小中学生およそ3,000人が全員無事に生き延びた。

「想定にとらわれるな」…ハザードマップに示された浸水想定にとらわれず高台に避難した。相手は自然、想定を超える事態も当然あり得る。

「最善を尽くせ」…崩れかけている崖や市内に押し寄せる津波の勢いを見て、さらに奥の背後地の高台に移動した。

「ここまで来れば大丈夫だろう」ではなくそのときできる最善の対応行動をとった。

「率先避難者たれ」…中学生が先頭に立ち小学生の避難を促し、保育園児や保育士を手助けしながら、また地域の大人やお年寄りも巻き込み、迅速に避難したという。まず自分が率先して避難することで結果的に多くの人を救うことが可能となる。

自宅にいて地震に遭った子どもたちも、普段の防災教育の知識を活かして自分たちの力で避難し、津波から命を守ることができた。まさに、地震や津波についての学習や避難訓練を繰り返す行い、「自分の命は自分で守る」という姿勢を持っていたからこそできたことである。(「防災学習 南海地震に備えちよき」～おわりに～【スライド3～7】を参照のこと。)

関連する
教科・行事等

学校行事:「場面や状況などの設定を変えての避難訓練」

登下校時の避難マップをつくろう

指導する学年	1年	指導する時間	総合的な学習の時間	指導する時数	1時間
本時のねらい	登下校時の地震発生に備え、校区内の避難場所・避難経路の安全や危険を探究するための動機付けを図る。				
使用する資料	地域のハザードマップ 「津波に備える」気象庁津波防災啓発ビデオ(H.25.2)			基本的指導事項	
				②必ず助かるための知恵と備え ③みんなで助かるための備え	

学習内容・活動

指導上の留意点

導入

1. 【問題】の場面での自分の行動を考える。

・「クロスロード」の問題を活用し、どう判断し行動するかを考え、災害時の判断の難しさを感じさせる。

【問題】「あなたは海岸部から自転車で通学する中学生。登校中に大地震が発生。避難所である高台までは徒歩より自転車の方が早く到着できそうだが、道路は波打ち落下物もありかえって遅いかもしれない。あなたは自転車で逃げますか？」 YES: 自転車で逃げる NO: 自転車を置いて逃げる

○YESの理由→「徒歩では間に合わない」「行ける所まで行くなら時間が稼げる」

○NOの理由→「高台までは使用できない」「道や人の状況でかえって遅いかも」

※導入の流し方については、「展開例1」を参照のこと。

登下校時の地震発生に備え、自分たちのできる取組を考えよう。

展開

2. 避難の判断をするために必要なことは何か、想起する。

○浸水の高さ ○津波到達の時間

○どんな風に津波が広がるか(河川の遡上)等

・津波や土砂災害等、地域に起こりうる災害の想定に関する情報収集が必要であることを理解させる。

3. 必要な情報の入手先を知り、データを調べる。

○震度() ○地震継続時間()

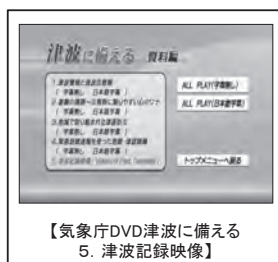
○浸水()m ○津波浸水予測時間()分

○津波による最大浸水域と浸水深 等

・地域のハザードマップを活用し、地域の災害の想定を確かめさせる。

4. 津波映像を視聴する。

・東日本大震災の様に「想定以上」の津波が来る可能性があることをつかませる。



5. 校区内の避難場所・避難経路を確かめる。

- 中学校区内の避難場所
- 避難場所までの安全な経路
- 自転車で通行可能か？どこまで乗って行けるか？
- 避難場所までの所要時間(自転車or徒歩)

まとめ

6. 情報のまとめ方を考える。

- ①フィールドワークで情報を集める。
- ②集めた情報を避難マップへまとめる。
- ③作った避難マップは地域の方へ発信する。

・地域に起こりうる災害の想定の下に校区内にいた場合の避難場所、安全な経路とその所要時間を自転車の使用を含めて考えることの必要性を考えさせる。

登下校時の避難に備え、地域の避難場所・危険箇所・自転車の使用を含めた避難経路・所要時間を探究し、オリジナルの校区避難マップを作成し、地域の方へ発信する。

評価



- ・地域の被害想定を把握できている。
- ・避難マップ作成に向け、関心・意欲が高まっている。

【本展開例について】

◆本展開例は、総合的な学習の時間として、例えば「みんなの命を守る安全・安心な街づくり」という学年テーマを設定し、「自分たちのふるさとを見つめよう」という単元の中で避難マップを作成するという探究的な学習を行うための「課題の設定」の1時間としての位置づけとする。この後の展開として

○【情報の収集】地域のフィールドワーク(2時間)、○【整理・分析】避難マップ作成(2時間)、○【まとめ・表現】避難マップのプレゼンテーションでまとめ・表現(2時間)の実施が考えられる。

この単元を通して次のような力を身に付けることが考えられる。

- ・フィールドワークを通して地域の危険箇所等を調べ、通学路から避難場所までの安全な経路を策定する(・課題を発見・追究する力)
- ・体験活動や人との関わりを通して情報を収集したり、友達と協力して互いに意見を交流させながら安全な避難を考える(コミュニケーション力)
- ・マップづくりを通して得た経験や知識を生かして、自分たちにできる対処方法を考え、それを効果的に他者に伝えることができる(情報を収集・発信する力)

【指導上の留意点】

◆自転車による避難を考える場合、各自治体の避難のルールとして、自転車や自家用車による避難が可能かどうか、事前に必ず確認しておく必要がある。

◆災害時に自転車の利用は有効であるが、他の人の避難の妨げにならないよう、通行の仕方や自転車の置き方等、日頃からのマナー・ルールの遵守が必要である。

【避難マップ作成に向けた留意点】

◆避難マップづくりの意義は、生徒全員が安全に避難するために、生徒全員がマップづくりというプロセスを通して、自分が住む地域の課題や特徴を知り、災害への対応を考える等、防災意識を持つことにある。マップづくりの手順は、【資料1】避難マップの作り方(例)および【資料2】避難マップづくり・フィールドワーク計画書の凡例を参考にすること。

関連する
教科・行事等

特別活動(学校行事):「登下校時の避難訓練」

避難マップの作り方(例)

STEP 1 計画しよう！

◆フィールドワークに向けて、調査箇所の決定、タイムスケジュール、道具の準備、などを行います。

○地図に自宅・学校までの通学路・自宅～学校間の指定避難場所を自宅に近い順に書いておきます。

＜準備物＞筆記用具・ポード・各地区の地図・カラーラベル・デジカメ・透明シート・付箋紙・時計 等

STEP 2 自分の地区を点検しよう！

◆実際に、自分たちの生活する地区を調査します。避難場所や危険な場所、消火栓の位置などをA4版程度の地図にカラーラベルを貼ったり、書き込みながら確認をします。地域の方に聞き取りをしても構いません。

① 学校に遠いところから順にフィールドワークを行う。

② 各自の避難場所や通学路を中心とした避難経路や時間について調査を行い、カラーラベルや蛍光ペン等を使って点検を行います。案内板や標識等、目印になるものは写真に撮っておくのも良いでしょう。

・自転車での避難可能な道路、自転車で通行が難しい(危険が予想される)箇所、安全な場所、避難や防災に役立つもの、主要施設

・(実際はもっと時間がかかる想定も含めて)自転車での所要時間、徒歩での所用時間

STEP 3 避難マップを作ろう！

◆フィールドワークで見つけたモノやコトを、大きな地図にまとめます。

① 作業用の大きな地図に班で見えてきた内容を話し合いながら、地図に書いていきましょう。

② 地図の上に透明シートを載せ、地図の4隅をシートに印付け(マジックで「」を記入)、地図とシートの位置あわせのマークとします。(被害想定用のシート、被害案を書き込むシートなど、シートを複数枚重ねて使うこともできます。この場合、片側だけをテープで貼れば、シートをめくり複数のシートを利用できます。)

③ 凡例にある内容は、凡例の頭文字等をシールに書き、地図へ貼り付けます。

④ その他気付いた場所には、どんな場所なのかの付箋紙等を使ってコメントを記入して下さい。

⑤ 特に気になった部分の写真にコメントを記載して貼り付けるなど、工夫して皆にわかりやすい地図を作りましょう。

⑥ 班員の自宅から順番に避難場所への避難を全員で想定。

⑦ フィールドワークで調べた経路上に存在する危険な場所をチェックしながら、各自の避難ルートを書き込む。
(全員が通るべき安全なルート検証でもOK)

⑧ 自分たちの地区の特徴や、防災・減災に関わるプラス・マイナスの要素を話し合う。

STEP 4 発表の準備をしよう！

① 発表に向けて全員が何らかの役割を持てるよう、分担を決めます。

② ポスターセッションで発表を行う場合は、最後に質疑の時間をとって、お互いの発表内容について、話し合う時間があると良いでしょう。

マップづくり・フィールドワーク計画書（例）

【資料 2】

1 年（ ）組 名前（ ）

地区名	○×地区	避難場所	△△山憩いの広場・□□神社裏山
メンバー	坂本慎太郎・中岡以蔵・浜口乙女・吉田弥太郎		

○ タイム・スケジュールを決めよう。

※学校から一番遠いところから順に調査先を決定しましょう。

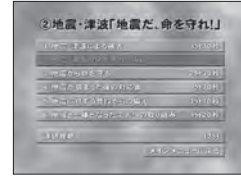
時 間	調査地区	チェックポイント（避難場所等）
9 : 5 0	学 校	
	↓	
1 0 : 1 0	七代地区	七代神社周辺
	↓	
1 0 : 2 5	松浦 4 区	コミュニティセンター
	↓	
1 0 : 3 5	松浦 1 区	地区集会所
	↓	
1 0 : 4 5	其友	
	↓	
1 0 : 5 0	学校	

○ 凡例（カラーラベルの色）

危険と思われる場所（赤）	安全な場所（青）	役に立つもの（緑）	施設等（黄）
(ガ) …ガラス (ブ) …ブロック塀 (自) …自動販売機 (危) …危険が予想される箇所	(公) …公園 (空) …空き地 (ひ) …避難場所 (P) …駐車場	(電) …公衆電話 (栓) …消火栓 (倉) …防災倉庫 (器) …消火器 (m) …海拔表示	(役) …役場 (病) …病院 (消) …消防 (警) …警察 (ひ) …避難所
その他 (マジック等)	通学経路（蛍光マーカー等） 安全と思われる避難経路（赤マジック） 山・がけ崩れの危険予想地域（茶網掛け） 液状化予想地域（黄色網掛け） 津波による浸水予想地域（水色網掛け） 災害により使用できない恐れのある橋・道（黒×印） 階段等自転車通行不能地域（ピンク網掛け） 等		

※凡例を参考に、各班でマークを考えてみよう。

南海地震とは・・・地震・津波の発生メカニズム～

指導する学年	1年	指導する時間	特別活動	指導する時数	1時間
本時のねらい	地震・津波発生メカニズム及び南海地震の特徴や歴史について理解する。				
使用する資料	「防災学習南海地震に備えよき」①【スライド6・7】【スライド15～35】 「災害から命を守るために～防災教育教材(中学生用)～」(文部科学省、H.21.3)②地震・津波「地震だ、命を守れ」			基本的指導事項	
				①地域に起こる災害を知る	
学習内容・活動			指導上の留意点		
導入 1. 「世界の各地域によって地震の発生のしやすさは違うのだろうか？」予想を立てる。 ○「地震は世界各地で起きている」 ○「日本の周辺で特に多いのではないか」 2. 「世界の地震分布」の図「防災学習南海地震に備えよき」①【スライド6・7】から世界のどこの地域で地震が多いかを発表する。 ○日本やインドネシア周辺 ○ヨーロッパや北アメリカ東部では地震がほとんどない。			○日本は世界有数の「地震国」であることをつかませる。 ・赤い点が集まる所に日本があることを確認させる。 ・地震はプレートの境界で起きており、地下にあるプレートの動きと関わりがあることを理解させる。		
展開 日本に地震が多いのはなぜだろう？ 3. 日本周辺はなぜ地震が多いのか考える。 ○プレートの境目で地震が多く発生している。 ○プレートがぶつかっている付近では、プレートの動きにより地下に歪みがたまり、それが耐えきれなくなった時に地震が発生する。 ○地震を大別すると海溝型地震と内陸型地震がある。 4. 過去の南海地震の特徴について「防災学習南海地震に備えよき」①【スライド15～】で再確認する。 ①南海地震の歴史 ○飛鳥時代から南海地震は繰り返し起こっている。 ○昭和南海地震の特徴は、揺れの後の火災や地盤沈下による長期浸水、津波である。			・文部科学省のDVDの映像から②地震・津波の「地震だ、命を守れ」の「地震・津波の発生メカニズム 2'00"」を使い、日本で地震が多い理由や地震・津波が発生する仕組みを理解させる。 ・地震の揺れや津波に関する基礎知識について、確認させる。 ・高知県では、南海地震のたびに、地盤沈下や隆起など大きな地盤変動があつていることを確認させる。		
			 【備えよき①6 世界の地震分布】		
			 【備えよき①7 日本列島を構成する4つのプレート】		
			  【②地震・津波「地震だ、命を守れ」トップページ】		
			 【備えよき①15～23 これまでに南海地震が発生した場所】		

②南海地震の揺れ

○マグニチュード…地震の持つエネルギーの大きさ・規模、震度…地震の場所ごとの揺れの大きさ

まとめ

5. 地震・津波の発生メカニズムと南海地震の特徴についてまとめる。

○地震は地下で起きる岩盤の「ずれ」により発生する現象である。

○プレート境界において地震が沢山発生している。

○南海地震は繰り返し発生しており、強い揺れや弱くても長い揺れ、津波の襲来が予想される。

・マグニチュードと震度の違いについて理解させる。

・生徒の小学校での学習状況により、震度6強の揺れの映像も視聴させる。

※「防災学習南海地震に備えちよき」①【スライド35】



世界では地震が発生する場所と発生していない場所がはっきりと分かれる。日本は、4つのプレートの境界に位置しているため、プレートの沈み込みにより発生するプレート境界型の巨大地震やプレートの運動に起因する内陸域の地殻内地震など世界でも有数の地震多発地帯となっている。

評価



・日本に地震が多い理由と地震・津波の発生するメカニズムについて理解することができる。

【教科との関連について】

◆本展開例は、中学理科第2分野の「(2) 大地の成り立ちと変化ア火山と地震(イ)地震の伝わり方と地球内部の働き」において「地震の原因は、大規模な大地の変動や火山活動と関連があり、日本列島付近の火山や震源の分布などはプレートの動きによって説明できることを理解させること」また、「(7) 自然と人間イ自然の恵みと災害(ア)自然の恵みと災害」において「地球規模でのプレートの動きも扱うこと。」と示されており、教科の内容と関連させて取り扱う。（「中学校学習指導要領解説理科編(平成20年7月)」文部科学省から）

◆また、中学校社会科・地理的分野「(2)日本の様々な地域イ世界と比べた日本の地域的特色(ア)自然環境」において、「国内の地形や気候の特色、自然災害と防災への努力を取り上げ、日本の自然環境に関する特色を大観させる」また、「(2)日本の様々な地域ウ日本の諸地域(ア)自然環境を中核とした考察」において、「地域の自然災害に応じた防災対策が大切であることなどについて考える」とあり、「(2)日本の様々な地域エ身近な地域の調査」でも「防災」を地域の課題として取り扱うことが考えられる。（「中学校学習指導要領解説社会編(平成20年9月)」文部科学省から）

関連する
教科・行事等

理科：1年「火山や地震」、3年「自然の恵みと災害」
社会：2年「世界と比べた日本の地域的特色」「日本の諸地域」「身近な地域の調査」

緊急地震速報の仕組みと活用

指導する学年	1年	指導する時間	特別活動	指導する時数	1時間
本時のねらい	緊急地震速報の仕組みや受信時の対応を理解する。				
使用する資料	津波防災啓発ビデオ「津波に備える」気象庁(H25.2) 「防災学習南海地震に備えちよき」②【スライド34】 ワークシート			基本的指導事項 ②必ず助かるための知恵と備え ④揺れから自分を守る ⑥いつ、どこにいても自分を守る	
学習内容・活動			指導上の留意点		
導入 1. この画面が伝えることを想起する。 ◇「この画面からどんな事が読み取れるだろうか？」 【気象庁DVD 「津波に備える」4緊急地震速報 を使った地震・津波訓練】			○画像を提示し、緊急地震速報について関心をもたせる。 ・「震源の場所」 ・「震度を観測した場所」		
緊急地震速報の特性を知り、避難行動に役立てよう。					
展開 2. 「〇×クイズ」の回答と解説をもとに緊急地震速報の特性を知る。 ※正解と解説はコラム欄参照のこと。 3. 気象庁HP「緊急地震速報の入手方法について」や政府インターネットテレビ、気象庁DVD「津波に備える」を使用し、自分の周囲の音源やテレビの表示、学校の報知音との違いを理解する。 4. 緊急地震速報には、一般向けと高度利用者向けの2種類があることを知る。 5. 緊急地震速報が役立つ場面や場所を考える。 ○保育所や学校での安全確保。 ○列車やバスの安全運行。 ○デパート等人が集まるところでの安全確保。			・クイズ形式により緊急地震速報の特性を理解させる。 ①【備えちよき ②34:緊急地震速報とは】で概要を掴ませる。 ※NHKのチャイム音や各種携帯電話の報知音は、気象庁HP「緊急地震速報の入手方法について」(※コラム欄のアドレスから、聞くことができる。) ・緊急地震速報(警報)は、地震波が2点以上の地震観測点で観測され、最大震度が5弱以上と予測された場合に発表されることを確認させる。 ・病院や官公庁等においても設置されていることもあることを知らせる ・いつ、どこにいても揺れから自分を守るための方法を確認させる。 ・「落ちてこない、倒れてこない、移動してこない場所へ身を寄せる」 【備えちよき②34 緊急地震速報とは】		

まとめ

6. 緊急地震速報についての基本的な特徴や、自校のシステムについてワークシートにまとめる。
- 学校の速報は、カウントダウンで知らせる。
 - 震源に近い地域では、速報の発表に間に合わないことがある。

ワークシートへ緊急地震速報の長所や短所について、具体的にまとめさせ、緊急地震速報についての理解を深めさせる。

緊急地震速報は、各地での強い揺れの到達時刻や震度予想を知らせるシステムであり、初期避難行動に役立てることができる。
速報発表後に強い揺れが到達するまでの時間は極めて短く、震源に近いところでは速報が間に合わなかったり、予測された震度に誤差を伴うなどの限界もある。

評価



緊急地震速報の仕組みと受信時の対応について理解している。

【「○×クイズ」の解説】…ワークシート「緊急地震速報クイズ！」から

- ①…「×」緊急地震速報は、地震の強い揺れの到達時刻や震度を事前に知らせる警報・予報であり、地震を予測するものではない。
- ②…「×」テレビやラジオ、防災行政無線等ではNHKのチャイム音。携帯電話では、テレビ・ラジオとは別の報知音を使用している(各社共通)。受信端末によって違う。
※緊急地震速報の報知音は気象庁HP「緊急地震速報の入手方法について」(http://www.seisvol.kishou.go.jp/eq/EEW/kaisetsu/eeew_receive.html)等を参考のこと。
- ③…「×」緊急地震速報の受信端末は、利用者の地震防災のニーズに応えられるように、気象庁長官の許可を得た業者が気象庁からの情報を元に利用者の場所に応じた予報を行っているため、震度や大きな揺れの到達する時刻の予想など、機能は様々である。
- ④…「×」緊急地震速報を見聞きしてから強い揺れが来るまでの時間は数秒から数十秒しかないため、即座に行動しなければならない。
- ⑤…「○」震源が近い場合には間に合わなかったり、誤報もありうるため、絶対的な物ではない。ごく短時間のデータだけを使った速報であることから、予測された震度に誤差を伴うなどの限界もある。

中学 理科 第2分野 の「(2) 大地の成り立ちと変化 ア 火山と地震(イ) 地震の伝わり方と地球内部の働き」において、「地震の現象面を中心に取り扱い、初期微動継続時間と震源までの距離との定性的な関係にも触れること」とあり、緊急地震速報の仕組みを教科と関連させて取り扱う。(「中学校学習指導要領解説理科編(平成20年7月)」文部科学省から)

【資料紹介】

気象庁札幌管区気象台HPの「学習素材の紹介ページ」に小学校5年生・社会「暮らしを支える情報」として緊急地震速報を取り上げた指導事例がある。(<http://www.jma-net.go.jp/sapporo/bosai/bosai-sozai.html>)

関連する
教科・行事等

理科1年「火山と地震(地震の伝わり方と地球内部の動き)」

緊急地震速報クイズ！

1 年 () 組 名前 ()

1. 「緊急地震速報」に関する〇×クイズ

※ 予想欄に「〇」「×」を記入してみよう。

予想欄

正 解

- | | | |
|--|----------------------|----------------------|
| ① 緊急地震速報は、地震を予知するシステムである。 | <input type="text"/> | <input type="text"/> |
| ② 緊急地震速報は、いつ、どこでも情報がわかるよう、すべて同じ音に統一されている。 | <input type="text"/> | <input type="text"/> |
| ③ 緊急地震速報を受信する全ての受信端末※には、大きな揺れが来る時間を予測し、カウントダウンをする機能がついている。 | <input type="text"/> | <input type="text"/> |
| ④ 速報なので、情報を見聞きしてから地震の強い揺れが来るまで余裕をもって避難することができる。 | <input type="text"/> | <input type="text"/> |
| ⑤ 緊急地震速報は、震源に近い場所では揺れに間に合わないこともある。 | <input type="text"/> | <input type="text"/> |

※受信端末…緊急受信速報を受信し、音声報知や機器の制御を行うための装置

2. 緊急地震速報が役立つ場面や場所を考えてみよう。

3. 身の回りにある緊急地震速報の特徴をまとめよう。

気象庁からリーフレットが配布されています。
改訂版がホームページでも閲覧できます



緊急地震速報を見聞きした



改訂版では・・

緊急地震速報を見聞きした時に身の安全を確保する行動ができるよう
訓練の方法として「シェイクアウト訓練」という方法も紹介されています。

リーフレット「緊急地震速報」気象庁：平成 25 年 3 月
<http://www.jma.go.jp/jma/kishou/books/eew201303/index.html>

危険はまだまだ続く…様々な二次災害

指導する学年	1年	指導する時間	特別活動	指導する時数	1時間
本時のねらい	地震後に予想される様々な二次災害について、その発生原因や現象について知り、地震発生後の行動に役立てる。				
使用する資料	「防災学習南海地震に備えちよき」②【スライド38～40】【スライド41、43】、③【スライド13】④【スライド10】 総務省消防庁「チャレンジ！防災48」【海上で火が燃えている様子】 (http://open.fdma.go.jp/e-college/bosai/higashi/e01_02.html)			基本的指導事項 ⑦二次災害への対応 ⑧助ける人になるための行動	

学習内容・活動

指導上の留意点

導入

1. 「これは何の映像だろう？」と問いかけ、気付いたことを話し合う。



【備えちよき②40
阪神・淡路大震災】

2. 地震後の火災の状況を、「防災学習南海地震に備えちよき」②【スライド38・39】③【スライド13】で確認する。



【備えちよき②38
阪神・淡路大震災】

- ・「防災学習南海地震に備えちよき」②【スライド40】を視聴させ、生徒の発言から地震後の火災の状況をつかませる。
- ・「地震の後の火災の映像」「阪神・淡路大震災」
- ・「夜になって続いている火災」
- ・「何力所でも火災が発生している。」
- ・「道路が陥没して車両の通行が困難になっている」

- ・津波火災については、総務省消防庁「チャレンジ！防災48」【津波被害の様子】の映像や気象庁DVD「津波に備える」オープニング映像で確認させる。
- ・「倒壊した家屋からの出火」
- ・「津波による流れた燃料からの出火」

地震後、火災からの避難や火災の発生を防ぐために、自分たちにできることはなんだろう？

展開

3. 地震・津波発生時の火災の特徴について考え、発表する。
- 一度に何力所でも火災が発生し、対応できない。
 - 建物の崩壊等で緊急車両が到着できない。
4. 火災の発生を防ぐためにどんなことができるか、火災から避難するときの注意点は何かを考え、発表する。
- 緊急地震速報の報知音や揺れの状況で可能なら火を止める。(台所でのガスコンロ等の消火等)
 - 可能ならば電気のブレーカーを落とす。
 - 避難又は初期消火のため、周囲に大声で知らせる。

- ・阪神・淡路大震災では、地震発生直後から同時に約300件もの火災が発生している。
- ・東日本大震災時の火災の主な原因は、津波で海水が流れ込み、壊れた電気設備がショートし流れた燃料等に引火した可能性が考えられる。
- ・地震・津波発生時には、消防がすぐに消火対応できない場合が多く、早めに安全な場所への避難が最重要であることを気付かせる。
- ・避難訓練等で消火器の使い方を実際に経験している生徒がいれば、留意点等を発表させる。
- ・自宅のガス設備の機能や安全対策を確認しておくことや油鍋の火は濡れタオル等で空気を遮断する等の知識にもふれさせる。
- ・火が天井に回ったら脱出、建物の延焼への留意等について知らせる。

○初期消火は、火の勢いを見て無理をしない。
避難は周りに延焼のない広い公園等へ。

5. 火災以外に予想される二次災害にはどんなものがあるだろうか考え、発表する。

○余震、地面の液状化、土砂災害(がけ崩れ・土石流)、ため池の崩壊、地盤沈下による浸水、高潮の被害 等

まとめ

6. 地震後の二次災害発生の危険性やその対応について確認し、行動のイメージを持つ。

○地震後に火災が発生した場合

- ・近所や周囲に大声で「早く知らせる」
- ・揺れの前後で可能な限り「早く消火する」
- ・火の勢いや延焼に気をつけて「早く逃げる」

○二次災害の危険性がある場所には近づかない。

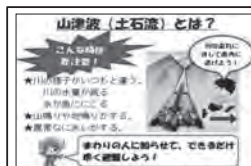
・生徒のこれまでの既習事項や知識を引き出しつつ、特に地域に起こりそうな二次災害は、特徴や前兆現象について確認させるようにする。



【備えちよき②43
液状化】



【備えちよき②41
余震による家屋倒壊】



【備えちよき④10
山津波(土石流)とは?】

評価

- ・地震発生後の火災への対応を理解している。
- ・地震発生後の二次災害の概要を理解している。

地震後に火災が発生した場合のキーワードは、「早く知らせる、早く消火する、早く逃げる」
地震後の二次災害の発生原因や前兆現象を知り、発生が予想される地域や危険箇所については近づかないようにする。

【本展開例の取り扱いについて】

◆地震火災発生時の初期消火は、消火訓練と併せて指導する。消火器の使い方は【南海地震に備えちよき】家庭保存版P.18等で確認すること。

◆地震・津波発生時には、消防がすぐに消火対応できない場合が多く、早めに安全な場所へ避難することが最優先となる。電気のブレーカー等についても部屋の高所にあるため、基本的には“様々な条件下で可能な限り”ということになる。

【資料紹介】

◆総務省消防庁「チャレンジ！防災48」HP (<http://open.fdma.go.jp/e-college/bosai/index.html>)

・指導者用防災教材として①指導者用テキスト②実技・演習等を補完する補助教材③災害に関する映像・写真④参考資料が提供されている。(本展開例では、東日本大震災の【液状化被害】映像や写真や消火器の使い方や放射の仕方、屋内消火栓の使い方の映像情報等)

※映像・写真、参考資料の入ったDVD-ROMは、各市町村及び市町村教育委員会に配布されている。

◆余震について…気象庁HP

(http://www.seisvol.kishou.go.jp/eq/aftershocks/index_whats_aftershock.html)

・余震に関する基礎知識(性質と特徴、過去の地震の例)や気象庁が発表する情報について

◆液状化について…高知地盤災害関連情報ポータルサイト(<http://www.geonews.jp/kochi/>)

・高知県の土砂災害警戒箇所や洪水ハザードマップ等、高知の地盤災害の情報について

◆土砂災害について…砂防広報センター・防災学習お役立ちページ

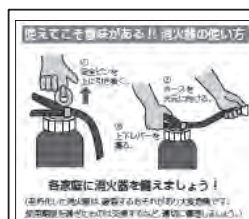
(<http://www.sabopc.or.jp/library/index.html>)・土砂災害に関する映像・写真・イラスト等、防災学習に役立つ情報について

◆高知県土木部防災砂防課HP (<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/171501/>)

・高知県の土砂災害警戒区域や警戒情報、「子ども防災キャンプ」の情報について

◆高潮について…気象庁HP(<http://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/typhoon/4-1.html>)

・台風に伴う高潮や高波の情報について



【南海地震に備えちよき】家庭保存版P.18「消火器の使い方」



【チャレンジ！防災48】

関連する
教科・行事等

特別活動(学校行事):「火災避難訓練」

修学旅行先で地震発生！その時、あなたは？～いつ、どんなときでも命を守る～

指導する学年	2年	指導する時間	特別活動	指導する時数	1時間
本時のねらい	日頃の学校生活と違う場面で、地震等自然災害に遭遇した際の安全確保について理解を深める。				
使用する資料	「防災学習南海地震に備えちよき②(揺れ編)【スライド23・28・33】			基本的指導事項 ④揺れから自分を守る ⑥いつ、どこにいても自分を守る	

学習内容・活動

指導上の留意点

導入

1. 【問題】の災害対応場面で、どんな決断を下すのか、自分の行動を考え、意思表示を行う。

・「クロスロード」の問題を活用し、どう判断し行動するかを考え、災害時の判断の難しさを感じさせる。

【問題】「あなたは修学旅行で県外の海岸近くのホテルに宿泊中。消灯前に大地震が発生し、揺れはおさまったもののホテルは停電、館内放送も聞こえてこない。あなたはすぐに避難行動を開始する？」 YES: すぐに避難する NO: 従業員からの指示を待つ

○YESの理由→「まずは避難」「津波が心配」

○NOの理由→「知らない場所での避難は無謀」「被害状況すらわからない中で避難はできない」

※「クロスロード」の流し方は、「展開例1」を参照のこと。

日頃の学校生活と違う場面で、災害に遭遇した際の安全確保について考えよう。

展開

2. 日頃の学校生活と違う場面設定を考え、発表する。
○電車・デパート・エレベーター・エスカレーター 等
○バスで移動中・見学先・宿泊先 等

3. 各場面設定に応じた危険回避行動について考え、発表する。
○エレベーターでは全ての階のボタンを押し、止まった階で降りる。
○街中では、落下物から頭を守り、安全な場所を探し、避難する。

・街へ買い物に出たときや旅行日程と照らし合わせて様々な場面設定を考えさせる。

・生徒のこれまでの既習事項や知識を引き出しつつ、反応のない事象については、教師側から提示し、確認させる。



【備えちよき②23
家や建物の中で】



【備えちよき②28
街中を歩いていたら?】



【備えちよき②33
乗り物に乗っていたら?】

4. 【問題】を例に、旅行前にできること、旅行先でできることを考える。

○旅行前…予め施設やホテルのパンフレット・HPでおおよそのイメージをつかむ。

○旅行先…まず係の人の注意をよく聞き、指示に従うとともに実際に非常口・避難経路・避難場所を自分の目で確認をする。荷物や着替えは枕元へ準備

○避難した場所の状況を判断し、より高い所への避難を判断する。等

まとめ

5. これまでに行ったことのある場所を思い出し、避難行動のイメージを持つ。

○集団宿泊訓練を行った場所、部活動の試合会場等での避難行動のイメージを持つ。

・非日常の場面でどう対応するか、事前にできること、旅行先等現地でできることをイメージさせる。

・思い浮かんだ場所とその対応について発表させ、全体で共有させる。

・部活動での遠征や街への買い物等、場所や状況に応じた対応ができるよう考えさせる。

非日常での場面で非常事態に遭遇した場合は、落ち着いてそれぞれにあった対応をしなければならない。そのための事前準備や確認を習慣化しておく必要がある。

評価

・日ごろの学校生活と違う場面での、安全確保について考えることができる。



【指導内容について】

◆中学生になると行動範囲が広がり、部活動での対外試合だけでなく、自分たちだけで街へ買い物に出たり、映画、コンサート、旅行等で滅多に足を運ばない場所での活動や滞在が考えられる。

◆海岸や河口付近で活動を行うときには、必ず高台への道を確認することや、人が集まる場所では非常口を確認することを常日頃から習慣づけておくことが大切である。

関連する
教科・行事等

1年:学校行事「集団宿泊訓練」
2年:学校行事「修学旅行」

いざという時、助ける人になるために～応急手当の意義と方法～

指導する学年	2年	指導する時間	特別活動	指導する時数	2時間
本時のねらい	応急手当としての心肺蘇生法や止血法の知識・方法について、実習を通して理解する。				
使用する資料	総務省消防庁DVD「チャレンジ！防災48」 (http://open.fdma.go.jp/e-college/bosai/index.html) 講習用ダミー人形(※教育センター分館から調達可能) 災害時に代用できる用具(毛布・竹・レジ袋・大判ハンカチ・タオル 等)			基本的指導事項 ③みんなで助かるための備え ⑧助ける人になるための行動	

学習内容・活動

指導上の留意点

<1時間目(30分)>

導入

1. 具体的な場面での判断や行動を想起する。

- ①「夕食後、自宅の居間でおじいちゃんが急に意識を失って倒れた。どうしたらいい？」
○「近くの人を呼びに行く。」「119番に電話して救急車を呼ぶ。」
- ②「授業中に地震が発生！落下したガラスでけがを負った友人がいます。どうしたらいい？」
○「ハンカチやティッシュで止血する。」「背中へ負ぶって運ぶ。」

2. 「救命の連鎖」や応急手当の必要性について知る。

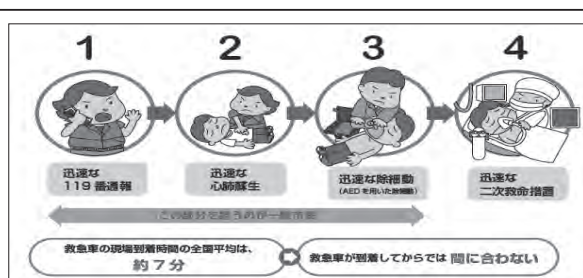
- 心臓が停止した人を3分間そのままにただけで死亡率50%となる。8分後(救急車が到着する平均時間:H23年)には、さらに死亡率が高くなる。
- 全血量はおおよそ体重の13分の1。そのうち、3分の1を出血などで失うと、生命が危険になる。
- 応急手当の目的
①救命 ②悪化防止 ③苦痛の軽減

いざという時、人の命を助けることが自分一人でもできるためには、どんなことを身に付けておくべきだろうか？

・応急手当の必要な場面を提示し、課題の意識化を図り、具体的なイメージを描いて取り組むようにさせる。

- ①救急車が来るまでにできる事はないだろうか？
②効果的な応急措置はないだろうか？

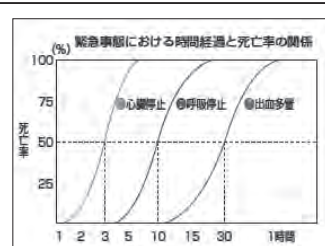
・「救命の連鎖」とは、人の命を救うための「4つの要素」のことである。この一連の流れのどれが欠けても命を救えるチャンスが少なくなることを理解させる。



【チャレンジ！防災48知っておきたい応急手当37補助教材から】

※119番通報(救急車の呼び方)

- ①救急であることを伝える。
②救急車に来てほしい住所を伝える。
③具合の悪い人の症状や年齢を伝える。
④自分の名前と連絡先を伝える。



【チャレンジ！防災48知っておきたい応急手当37補助教材から】

展開

3. 実技演習の実施の仕方について知る。
○A・B班に分けて、交互に実技演習を行う。

<1時間目～2時間目(70分)>

4. 実技演習を行う。

A班…一次救命処置のうち、「心肺蘇生法」について一連の流れと胸骨圧迫を中心に実施する。

B班…止血法、患部の保護・固定、搬送法など

- ・3～4人で1グループを作り、ローテーションで実技に取り組ませる。
- ・心肺蘇生は、胸骨圧迫と人工呼吸の組み合わせが原則だが、生徒等の状況により「人工呼吸」は省略する。AEDの使用の仕方についても学習させる。
- ・直接・間接圧迫法、副木・包帯による固定、三角巾による保護については、傷害悪化の防止の観点から、災害時に代用できる用具について考えさせ、日頃の備えと関連づけを図る。
- ・ペア学習により、生徒同士による観察・評価も行う。
- ・校内及び地域の公共施設のAED設置場所について確認させる。

まとめ

5. 本日の振り返り

- 自己評価と生徒同士による相互評価で本時を振り返る。
- すべての救急の基本として、できる限り早く通報し(119番通報、大声で周囲の大人に知らせる)、早く応急手当をすることが重要である。

- ・実技においては、相互評価を重視するとともに、演習で難しかった所や工夫した所は各グループで話し合い、時間があれば全体で共有させる。
- ・応急手当はケガを治療する行為ではなく、ケガ人を医師等に引き渡すまでの間に苦痛を軽減し、症状を悪化させないための一時的なものであることを理解させる。

災害時などは、医療機関による治療に時間がかかることも予想され、一層応急手当が重要となるため、一人でも応急手当ができるようにしておく。

評価



- ・心肺蘇生法の手順と要点について理解している。
- ・応急手当や搬送法について理解している。

【展開例の実施にあたって】

◆応急手当については、保健体育科の教員だけで行うのではなく、毎年実技研修を行い、全教職員が身に付けておくことが非常に重要である。

※「学校においては、児童生徒等の安全の確保を図るため、当該学校の施設及び設備の安全点検、児童生徒等に対する通学を含めた学校生活その他の日常生活における安全に関する指導、職員の研修その他学校における安全に関する事項について計画を策定し、これを実施しなければならない。」【学校保険安全法第27条】

◆心肺蘇生法については、下記参考文献のとおりガイドラインがかわっているので留意すること。また、実習に当たっては、日本赤十字社や消防署等、専門家の指導を仰ぐことが望まれる。

◆応急手当の実習をしても、しばらく時間がたつとその方法を忘れてしまうものである。実習は一回受けたら終わりということではなく、定期的に実施することが望まれる。

◆この実習は「水に関する救急法」と併せて指導することや、関連として水泳の時間における「着衣水泳」の実施や家庭で備えておく救急箱の中身について考える機会をとることも考えられる。

<参考文献>

関連する
教科・行事等

保健体育「保健分野(3)傷害の防止」

「警報」「注意報」の違いって？～情報の正しい理解と活用～

指導する学年	2年	指導する時間	特別活動	指導する時数	1時間
本時のねらい	防災に関する情報の入手方法を知るとともに、防災に関する情報を正しく理解することの重要性を理解する。				
使用する資料	「防災学習南海地震に備えちよき」③【スライド36】 「津波に備える」気象庁津波防災啓発ビデオ(H.25.2)			基本的指導事項	
				②必ず助かるための知恵と備え	

学習内容・活動

指導上の留意点

導入

1. 放課後に「津波注意報」が発令された設定で、自分たちが取るべき行動やしてはいけない行動を考え、発表する。

- ・地震・津波に関する情報を知り、対応を考えさせる。

平成25年2月6日の放課後、帰宅の途中に防災無線から「本日前午10時12分頃、南太平洋でマグニチュードは8.0と推定される地震がありました。気象庁は高知県に14時41分、津波注意報を発令しました。」との放送が流れた。あなたはどのような対応・行動をとりますか？

- 海岸線には近寄らない。
○正確な情報をテレビやインターネットから入手する。
○避難等想定外も考え、行動の準備をする。

防災に関する最新情報や詳しい情報は、どこから入手することが可能だろう？

展開

2. 津波に関する「警報」「注意報」の種類とその違いは何か予想し、発表する。
○予想される津波の高さ
○津波が到達する時間
3. 「警報」「注意報」の違いを知り、警報発表が改善された理由を考える。
＜警報発表の改善点＞
○マグニチュード8を超える巨大地震の場合、最大級の津波を想定して「巨大」、「高い」という言葉で非常事態であることを伝える。
○正確な地震の規模がわかった場合、予想される津波の高さを5段階で発表する。

- ・リーフレットやポスターを見たことがあるか、確認する。
・気象庁HPやリーフレットを使用し、津波には3つの予報があることを知らせる。
＜予想される津波の高さ＞
大津波警報…巨大
津波警報……高い
津波注意報…表記しない



気象庁【津波警報が変わります】リーフレット

- ・その海域における最大級の津波を想定して警報を発表し、津波の高さを小さく予想することを防ぐ目的であることを知らせる。
※「津波に備える」気象庁津波防災啓発ビデオで映像として確認もできる。

4. 「警報」「注意報」について、クイズをもとに考える。

- ・「○×クイズ」により、生徒の予備知識を確認する。

- ①津波警報や注意報が出てても津波はこないことがある。
②到達予想時刻を過ぎても津波が到達しない場合はもう大丈夫ということである。
③津波警報や注意報は2日以上続くことがある。

5. 「〇×クイズ」の回答と解説をもとに、情報の正しい理解と活用の重要性を知る。
※解説はコラム参照のこと。

まとめ

- ・遠地津波とは、日本の沿岸から約600km以上離れた地震に伴う津波をいう。
- ・平成22年2月27日のチリ地震の際には、日本の太平洋岸に津波が押し寄せ、須崎港の検潮所で最大128cmを観測したことを知らせる。



【備えちよき③昭和チリ地震による津波の被災状況】

地震や津波に関する最新情報は、気象庁や高知県庁のHPから入手できるが、情報の捉え方や活用の仕方には十分注意しなければならない。

6. 津波警報の改善点及び情報入手の留意点について再確認する。

- ・津波警報や注意報は、より正確なデータが得られた場合発表し直すことや震源が近いために発表が間に合わないこともある。避難先で最新の津波情報を確認する必要があることを知らせる。

評価

- ・津波警報の改善点について理解している。
- ・防災に関する情報の捉え方には十分に注意する必要があることを理解している。



【「〇×クイズ」の回答及び解説】

①…「〇」津波の高さを正確に予測するには地震の規模や震源の場所だけでなく断層の広がりやずれた向きが必要であるが、地震発生直後にはわからない。そこで最も高い予測をもとに約3分で津波警報や津波注意報を発表するため、津波警報や津波注意報が発表されても津波がこない、予想よりも小さいということがある。

②…「×」到達予想時刻は概ね都道府県単位の予報区ごとで発表している。同じ予報区でも到達時間に差があるため一番早く津波が到達する時刻を発表している。したがって同じ予報区の中でも1時間以上遅く到達する所もある。到達予想時刻を過ぎて津波が来ない場合でも警戒を緩めず避難を続けることが必要である。

③…「〇」東日本大震災では、警報や注意報が解除されるまでに2日以上かかっている。津波は規模が大きいと長い間何度も繰り返し襲ってくる。気象庁は警報を発表した後、津波の状況を観測し、十分小さくなってから初めて解除する。解除されるまでは避難行動を続けることが大切である。

※このクイズの解説については、「津波に備える」気象庁津波防災啓発ビデオ(H.25.2)の資料編「1 津波警報と津波注意報」の後半で映像として見ることができる。

◆本展開例の導入の発問は、平成25年2月6日に南太平洋サンタクルーズ諸島近辺で発生した地震をモデルとした。この時津波注意報が県下に発令され、各学校の対応がなされたが、今回の事案を踏まえ、遠地津波が発生した場合、警報の時だけでなく注意報時の対応についても各学校でマニュアル化を行い、保護者と情報共有しておくことが必要である。

【一口メモ】

＜国の防災に関する情報＞…内閣府・防災情報のページ(<http://www.bousai.go.jp/>)

・災害緊急情報や東日本大震災関連情報についての情報が入手できる。

＜防災気象情報＞…気象庁(<http://www.jma.go.jp/jma/index.html>)

・地震、津波や気象全般に関する情報が入手できる。なお、新しい津波警報・注意報、津波情報、津波予報については右記アドレスで見ることができる。(http://www.seisvol.kishou.go.jp/eq/index_tsunamiinfo_new.html)

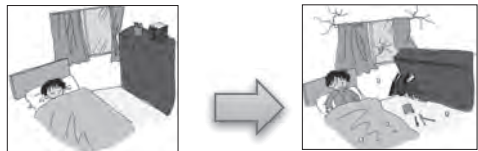
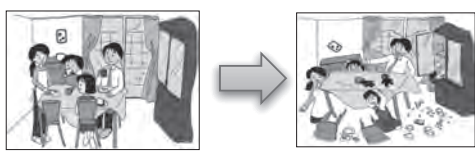


【気象庁DVD津波に備える 1 津波警報と津波注意報】

関連する
教科・行事等

技術・家庭(技術分野 D 情報に関する技術)

備えて安心！～家庭の安全対策～

指導する学年	2年	指導する時間	特別活動	指導する時数	2時間
本時のねらい	家にいるときに地震が起こった場合の被害を予想し、その安全対策を考える。				
使用する資料	「防災学習 南海地震に備えちよき」⑥(今から備えよう)【スライド6～10・4】			基本的指導事項 ②必ず助かるための知恵と備え ⑩地域社会の一員としての心構え	
学習内容・活動			指導上の留意点		
<1時間目> 導入 1.「家にいるときに地震が起こったら…」予想される危険を考える。(ワークシート)			・スライドを見て、地震時に室内で起こる危険予知を考えさせ、発表し、全体で共有させる。		
 ①【土佐の防災学習プログラム】イラスト「寝室」P29/31			 ②【土佐の防災学習プログラム】イラスト「リビング」P29/31		
○家具の転倒、窓ガラスの飛散、棚の落下、引出の落下、食器や収納物の落下・散乱、ブロック塀の崩落 など					
家にいるときに地震が起こった場合の被害を予想し、その安全対策を考えよう。					
展開 2. 室内の安全対策を考え、ワークシートに書く。 ○家具類はできるだけ、生活の場所と離す ○下に重い物を上に軽い物を収納する ○耐震金具を使用する ○ガラスの飛散防止 ○家具の配置の見直し、食器の飛び出し防止 等 3. 家にいるときに地震が発生、避難時に必要となる非常持ち出し品はどんな物が必要か確認する。 ○非常持ち出し品…できるだけ身軽に避難できるよう、避難に必要な最低限の物品や貴重品 ○備蓄品…避難生活に備えて蓄えておくもの			・小学校での既習事項も含め、生徒から家庭の安全対策のポイントを発表させる。 ・生徒から出てこなかった留意点は「防災学習南海地震に備えちよき」で確認させる。 ・非常持ち出し品について、「防災学習南海地震に備えちよき」で「備蓄品」との違いを確認させ、ワークシートへまとめさせる。 ・【ワークシート課題4～6】は、家族と話し合って記載させてこさせる。 ・非常持ち出し品や備蓄品について、皆に紹介できる物を選んでおくよう伝える。(持参可)		
<家庭学習課題> 寝室や居間など長くいる部屋の家具の配置や非常持ち出し品等の準備について、家庭で調べてこよう。			 【備えちよき⑥6 すぐできる対策】  【備えちよき⑥17 非常持ち出し品】		

<2時間目>

1. 各自が調べてきた自宅の安全対策について、班や全体で情報の共有を図る。
2. 各家庭での非常持ち出し品等の準備状況を確認し、班一全体で持参した物を紹介し合う。
3. 紹介された非常持ち出し品等の利点や留意点について考える。

- 軽量かつコンパクトで持ち運びがしやすい
- 機能面が充実している
- 保存期間が長く火を通さなくてもいい食料

4. 住宅の倒壊防止・耐震化の必要性について知る。

- 「阪神・淡路大震災」では、死亡やケガの原因の約8割が家具などの転倒落下や家屋の倒壊によるもの。

まとめ

5. 本時の学習をまとめる。

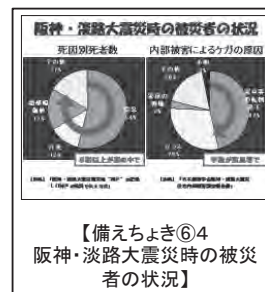
- 家具の配置の見直しはすぐ取りかかる。
- 非常持ち出し品袋には最低限の物品を。

- ・実物投影機等を活用し全体に共有させる。

- ・全体で紹介したらい物を各班で選ばせておく。

- ・紹介された物から共通する利便性等を考えさせ、今後の非常持ち出し品等を選ぶ参考にさせる。

- ・阪神・淡路大震災での人的被害、建物被害の状況を「南海地震に備えよき」で確認させる。
- ・各家庭の取組も紹介させる。



家庭の安全対策については、家具の転倒・落下の防止（固定）、寝る時の家具の配置を見直すこと、非常持ち出し品の準備等、日頃からの備えが重要となる。

評価

- ・地震に備え、様々な室内の安全対策の重要性を理解し、住生活の改善に活かすことができる。
- ・避難に必要な最小限の非常持ち出し品について理解することができる。



【指導内容について】

◆本展開例は2時間扱いとなっているが、間に家庭学習を挟むように作成してある。この展開例と同じように実施する場合は、次の事がポイントとなる。

- ・できるだけ近い日に設定すること。
- ・この2時間に連続性を持たせるため、他の内容を入れないこと。

◆本展開例に取り組むに当たって、実態として個々の家庭の備えに関わり経済的な状況による差異や家族の構成員の状況等私的な面が浮き彫りになる可能性もあり、家庭のプライバシーには十分に配慮する必要がある。

◆本展開例について、「中学校学習指導要領技術・家庭科編」家庭分野では、(2)住居の機能と住まい方について「イ家族の安全を考えた室内環境の整え方を知り、快適な住まい方を工夫できること。」を指導するとあり、内容の取扱いでは、「室内の安全については、自然災害を含む家庭内の事故やその原因について考え、災害への備えや事故の防ぎ方などの安全管理の方法が分かり、安全な住まい方の工夫ができるようにする。」とあり、技術・家庭科の家庭分野との学習とも関連させる。

※本展開例のイラストは「土佐の防災学習プログラム～南海地震に備えよう～」から引用している。

関連する
教科・行事等

技術・家庭科「家庭分野 C 衣生活・住生活と自立」

家庭の安全対策を考えよう

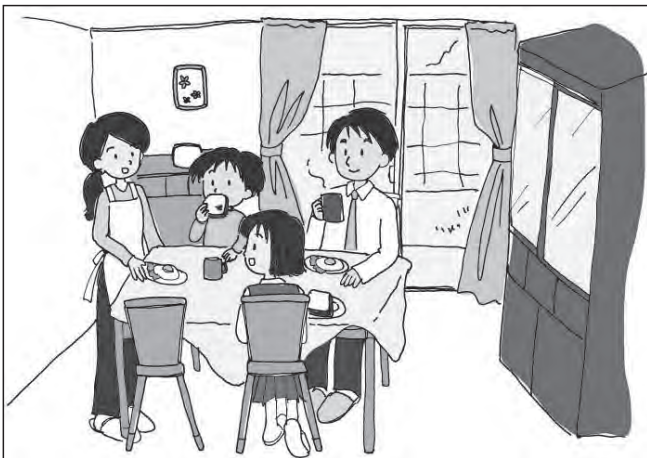
年（ ）組 名前（ ）

1. 「家にいるときに地震が起こったら…」危険を予測しよう。

※ 下のイラストで、地震時に危険が予測される箇所を「赤丸」で囲み、どんな危険があるか、具体的に書いてみよう。



<地震発生時に、寝室にはどんな危険があるだろう？>



<地震発生時に、居間にはどんな危険があるだろう？>

2. 「室内の安全対策」のポイントをまとめよう。

3. 非常持ち出し品と備蓄品について確認しよう。

◆非常持ち出し品…できるだけ身軽に避難できるよう、避難に必要な（ ）の物品や貴重品

(例)

◆備蓄品…避難生活に備えて蓄えておくもの。救援活動が受けられるまで（ ）日分以上は必要。

(例)

4. 自宅の安全対策の状況を家族と話し合って調べて来よう。

※居間や寝室の窓や家具の配置状況を記入し、室内の安全対策を検討してみよう。

※室内の安全対策として実施していることや家の中のどこを改善すれば身を守ることに役立つかを記入してみよう。

5. 自宅の非常持ち出し品や備蓄品の整備状況について、調べて来よう。

< 非常持ち出し品 >

< 備蓄品 >

< 今後あったらいいと思う物 >

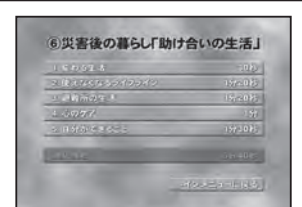
皆に紹介しようと思う物を1つ選んで、紹介する理由も書いておこう。

6. 自宅の「備え自慢」について、家の人に聞いてみよう。

(例) 家族全員の寝室に背の高い家具は置いてない。

※家の中のどこを改善すれば身を守ることに役立つか、学んだことと併せて家族で話し合ってみましょう。

災害後の暮らし、あなたにできることは？

指導する学年	3年	指導する時間	特別活動	指導する時数	1時間
本時のねらい	災害後の地域や被災者を支える人々の働きを理解し、災害ボランティアの活動に参加・協力できる「共助」の態度を育てる。				
使用する資料	「災害から命を守るために～防災教育教材(中学生用)～」(文部科学省、H.21.3)⑥災害後の暮らし「助け合いの生活」			基本的指導事項 ③みんなで助かるための備え ⑨みんなで生き延びるための知恵と技 ⑩地域社会の一員としての心構え	
学習内容・活動			指導上の留意点		
導入 1. 「災害から命を守るために⑥災害後の暮らし「助け合いの生活」VTR1～3 :5'40"】を視聴し、被災後の生活が被災前の生活とどう変わるかを知る。 ○水道・ガス・電気等ライフラインが止まる。 ○学校が避難所となり共同生活が始まる。 ○ストレスで体調を崩す場合がある。 2. VTRを振り返って、最も心に残った内容について話し合う。 ○ライフラインの復旧には時間がかかる。 ○助け合いが必要となる。等 災害後の暮らしで必要となる仕事はどんな仕事だろう。			 ・VTRを視聴する際に、被災後の生活が被災前とどう変わるかに着目させる。  ・共同生活になることで生活に不便さや不自由さが生じることを実感させる。 【⑥災害後の暮らし「助け合いの生活」トップページ】		
展開 3. 避難所等で必要となる仕事を、「被災後」「3日後」「1週間後」と時系列で考え、発表する。 ○「被災後」…物資の運搬、給水、ケガ人の搬送 ○「3日後」…調理・分配・配給等炊き出しの手伝い ○「1週間後」…風呂、ボランティアの配置、生活品等支援物資の配分、がれきの後片付け、小さい子どもの遊び相手 4. 共同生活では、どんなトラブルが発生するか、班で予想し、その解決方法と自分に出来ることをグループで話し合い、まとめる。 ○救援物資の不足、プライバシーの侵害、清掃、ゴミの処分、ペットの管理、生活習慣の違い			・生徒自身が避難者になった時、避難所でどのようなことを手伝えるかという視点をもたせる。 ・話し合いが進んでいない班には、避難所には高齢者、妊婦、乳幼児、障害者、外国人等、様々な人や物が集まることで生じる課題があることを知らせ、トラブルの内容や解決方法を考えさせる。 (例) ・プライバシーの侵害への対応→段ボールによるパーティションや部屋づくり ・清掃・環境衛生…地区や世帯の当番表の作成、必要な道具の要請 等		

5. 各グループごとに話し合った内容を発表する。

・解決方法として互いに守れるルール作り等が出た場合は、可能な範囲で具体的なルールまで作成させるようにする。

まとめ

6. 学習をして、また他のグループの発表を聞いての気づきや感想をまとめる。

○避難所生活で自分にできること

・本時の学習内容を活かせるよう、地域の防災活動への積極的な参加意欲を持たせる。

災害後の暮らしでは、〇〇〇に取り組み、地域の一員として避難所生活を支えたい！

評価

・災害時に地域の一員として、自分ができていることを考えることができる。



【発展的指導内容】

◆この授業の発展として避難生活で想定される課題を一人一課題を決め、探究的な調べ学習へつなげることが考えられる。

(例)高齢者への支援、負傷者への応急処置、避難所運営の手伝い、トイレ用水確保のためには 等

【参考資料】

◆総務省消防庁「チャレンジ防災48」HP

・地震災害の様子映像として「避難所の様子(1'43")」

(http://open.fdma.go.jp/e-college/bosai/image/01_00.html)

新潟県中越沖地震時の避難所の写真も活用できる。

(<http://open.fdma.go.jp/e-college/bosai/photograph/04chuetuoki/index.html>)

◆文部科学省HP「東日本大震災からの復興」(<http://fukkokoiku.mext.go.jp/>)

・被災地復興にかかる児童生徒の活動事例が掲載されている。



【チャレンジ！防災48
HPトップページ画面】

関連する
教科・行事等

学校行事：合同避難訓練
地域一斉避難訓練・避難所運営訓練

使えますか？防災倉庫の中にあるもの

指導する学年	3 年	指導する時間	特別活動	指導する時数	1 時間
本時のねらい	防災倉庫の中身を知り、使い方を確認することで、事前の備えとして地域の防災訓練等への参加の必要性を知る。				
使用する資料	総務省消防庁DVD「チャレンジ！防災48」 (http://open.fdma.go.jp/e-college/bosai/index.html)			基本的指導事項 ③みんなで助かるための備え ⑩地域社会の一員としての心構え	

学習内容・活動

導 入

1. 【問題】の災害対応場面で、どんな決断を下すのか、
自分の行動を考え、意思表示を行う。

・「クロスロード」の問題を活用し、どう判断し行動するかを
考え、災害時の判断の難しさを感じさせる。

【問題】「授業中に地震が発生！津波警報も発令された。高台へ避難している途中で友人の自宅の倒壊場面に遭遇し、友人の祖母から『おじいちゃんが家の下敷きになっている』との話を聞いた。助けていると津波に巻き込まれる危険がある。まずは助ける？」 YES：（助ける） NO：（そのまま避難する）

○YESの理由→「人命第一」「できることをやる」

○NOの理由→「時間がかかれば自分達も危ない」

「救助の仕方がわからない」

※「クロスロード」の流し方は、「展開例1」を参照のこと。

災害時に「助ける人」になるために、今、自分たちにできることは何だろう？

展 開

2. 「チャレンジ！防災48」

の映像から救助に必要なものを考える。

- ものを持ち上げる機材
○スコップ・角材 等



3. 人を助ける資機材にはどこにあり、どんな物があるだろうか、想起する。

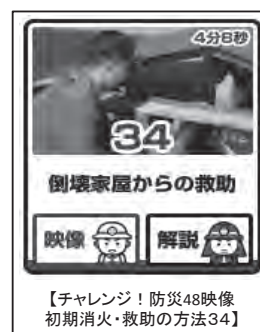
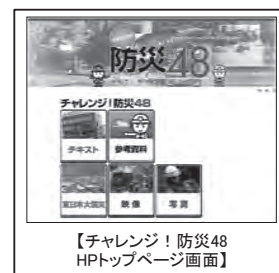
- 学校や地域の防災倉庫
○バール・ジャッキ・とび口・ボルトクリッパ 等

4. 人を助ける資機材は実際に使えるようにするためにはどうすればいいか、考える。

- くりかえし練習することが必要。
○地域の防災訓練で利用できる。
○自主防災組織の練習に参加する。 等

・生徒に馴染みのない物は予め準備しておき、生徒の反応をみながら用途を知らせる。

・「チャレンジ！防災48」の映像でジャッキアップによる救出のデモンストレーションを視聴させる。



まとめ

5. いざという時に「助ける」行動をとるために、今できることは何か、自己決定し、全体で共有する。

○日頃から家や学校で練習する。

○学校や地域の防災訓練で試してみる。

・自分の知識や技能を確認し、地域の防災活動へ積極的に参加する意欲を持たせる。

災害時等緊急の場面で助ける人になるためには、日頃から道具等の扱いに慣れておくことが大事であり、そのためには、地域の避難訓練に参加することが備えとなる。

評価

・自分にできる「助ける」行動を考え、実行するために今やるべきことを考えることができる。



【展開例の実施にあたって】

◆本展開例は、防災倉庫の存在やその中にある資機材について知り、災害時に助ける人になるために自分にできる「助ける」行動を再確認し、今からできる備えとして地域の防災訓練への参加を促そうとするものである。

◆授業実施にあたっては、実際に防災倉庫を開けて中身を確認する活動や市区町村の防災担当者や自主防災組織の方に協力いただき、可能な範囲で生徒に実際の救出活動を体験させたり、災害時には中学生の活動が大きな力になることや地域の防災活動に対する思いを語っていただく時間をとることで、さらに地域の防災活動への喚起につながるものと思われる。

関連する
教科・行事等

地域の防災訓練

家族との「5つの約束事」～家族防災会議を振り返る～

指導する学年	3 年	指導する時間	特別活動	指導する時数	1時間		
本時のねらい	家庭の防災対策を進めるための家族防災会議を実施し、全体で共有する。						
使用する資料	5千分1程度の自宅周辺地図、筆記用具 「我が家の防災チェックリスト」シート・ワークシート			基本的指導事項			
				②必ず助かるための知恵と備え ⑩地域社会の一員としての心構え			
学習内容・活動			指導上の留意点				
<事前の活動> ①家族防災会議に向けて、家族で「我が家の防災チェックリスト」（別添資料参照）」で我が家の現状や課題をチェックしておく。 ②時間短縮のために、チェックリストを回収し、課題を集約し、議題を決定しておく。 ③家族の構成員には各々のいる場所と最寄りの避難場所・避難経路を考えておくよう頼んでおく。 <家族防災会議の持ち方> 1. ワークシート（別添資料参照）と家族全員の居場所 が示せる地図（5千分1程度の自宅周辺地図）を準備し、各自の避難計画を記入し、確認する。 <設定> 12月×日午後3時、南海地震が発生し、津波警報が発令。家族全員がそれぞれ避難をする。 2. 津波警報解除後の各自の動きや連絡方法、集合場所を各自が報告し、確認する。 3. 議題の具体的な解決方法を話し合い、全員で決定・確認を行う。 (例) ①各自の安否確認の方法がわからない。 ②自分や妹・弟の引き取りには誰が来るのか 等 →連絡がとれない想定で、待機と引き取り等誰がどう動くのかを決める。 →集合場所へ集合できない場合も考慮して、災害伝言ダイヤル「171」や伝言板の利用方法を確認する。 4. 家族みんなで決めた「5つの約束事」や、今後見直しの必要なことを再確認する。						・お互いの居場所から最短の避難場所となっているか、二度逃げ・三度逃げが可能な場所か確認させる。 ・各自の道順をみて、危険箇所や気を付ける場所等を互いに指摘させる。 ・話したことを各自ワークシートにまとめさせる。 ・どんな状況で誰がどうするかを具体的に決めさせる。 ・災害伝言ダイヤル「171」は「体験利用日」に練習をさせておく。 ・ワークシートに家族全員で記入し、再確認させる。 ・ワークシートは事前に提出させ、全員が家族防災会議を開催していることを確認させる。	
導 入 1. 本時の目的・ねらいを学級全体で確認する。							
家族防災会議を実施しての成果と課題を共有し、各家庭の取組の参考としよう。							

展開

2. 各班で家族防災会議の結果を各自4分程度で報告をする。

- 家族防災会議の議題、話し合った内容、「家族の5つの約束」等決まったこと、今後の課題
- 会議の司会進行で困ったこと

・議題や「家族の5つの約束」はある程度集約させ、司会進行で困ったことや今後の課題は全て発表するようにさせる。

まとめ

3. 各班からの発表をもとに、家族防災会議を実施しての司会の留意点や課題に対する手だてを出し合い、全体で発表する。

- 家族への周知等、事前の段取りをしっかりとておく
- 家族への周知等、事前の段取りをしっかりとておく
- 家族の目標等漠然としたものを決めるだけでなく、会議の中で各自の動きを明確にし、決定したことは全員で確認する。

・家族防災会議を実施して、うまくいった点は共有し、改善点については、各班で手立てを再検討させ、学級全体で共有させる。

家族防災会議を開催し、家族での約束事を事前に決めておくことが災害発生時の備えとして重要である。

評価

・家族の避難場所と避難経路、約束事について共有することができる。



【本事例に取り組むに当たって】

◆本事例に取り組むに当たって、実態として個々の家庭の備えに関わり経済的な状況による差異や家族の構成員の状況等私的な面が浮き彫りになる可能性もあり、家庭のプライバシーには十分に配慮する必要がある。

また、学校での学習が現実生活と乖離しないよう、日頃から家庭や地域との連携に取り組むことも大切である。

関連する
教科・行事等

技術・家庭科「家庭分野 C 衣生活・住生活と自立」

展開例 12

我が家の防災チェックリスト

名前 ()

※「我が家の防災対策」を考えるために、現状をチェックしてみよう。

(○…できている △…まあできている ×…できていない)

1. 日頃の防災対策について

防災について家族で話しあう機会がある	消火器の設置場所を覚えている
災害時の役割分担を家族で決めている	消火器の使い方を覚えている
家族が離ればなれになったときの連絡方法を確認している	家屋の老朽化を確認し、補強している
家族が離ればなれになったときの集合場所を決めている	屋根の点検・補修をしている
室内の逃げ道を確保している(通路に物を置いていない)	アンテナはしっかり固定している
災害用伝言板等緊急時の通信手段の使い方を覚えている	LP ガスボンベはしっかり固定している
遠隔地に連絡中継点(親戚宅など)を作っている	ブロック塀や外壁の点検・補修をしている
必要な非常持出品がそろっている	応急手当ての方法を覚えている
非常持出品を持ち出しやすい場所に置いている	隣近所と日ごろコミュニケーションをとっている
携帯ラジオや懐中電灯の電池が入っている	住んでいる土地の地盤や環境を確認している
ブレイカーの場所を知っている	住んでいる地域で過去にどんな災害があったか知っている

2. 地震の揺れに対する備えについて(家具の転倒・落下防止)

耐震診断を行ったことがある	エアコン、額縁などの落下防止をしている
家の中に家具のない安全なスペースがある	家具の上に重いものを置いていない
子ども・高齢者等の部屋に転倒しやすい家具を置いていない	本棚などの収納物は、重いものを下にしている
地震を感じたら、ドアや窓を開ける習慣をつけている	扉や引き出しの開放防止策をとっている
背の高い家具は固定して転倒防止をしている	ガラス飛散防止フィルムをはっている
寝室に転倒しやすい家具を置いていない	食器棚などの収納物の落下防止をしている
寝室にくつを常備している	照明器具の落下防止をしている

3. 非常持ち出し品について(※家庭の事情に応じ、必要な物は追加しよう。)

非常食(カロリーメイト・缶詰など)	飲料水	携帯ラジオ(予備の電池)
懐中電灯(予備の電池・電球)	ろうそく	ヘルメット・防災ずきん
くつ(避難用)	ふえ	携帯電話
ライター	万能ナイフ	ティッシュ・タオル
ビニール袋	上着・下着	軍手
救急医薬品(キズ薬・かぜ薬など)	常備薬	小銭
健康保険証のコピー	筆記用具	古新聞
使い捨てカイロ	(※私の必需品)	

4. 備蓄品について

食品(缶詰、レトルト食品)	食品(チョコレート、米)	水(1人あたり1日3リットル)
燃料(卓上コンロ、予備のガスボンベ)	毛布、タオルケット、バスタオル、寝袋	洗面用具(石けん、タオル、ドライシャンプー等)
生理用品	鍋、やかん	簡易食器(わりばし、紙皿、紙コップなど)
ラップ、アルミホイル	ウェットティッシュ、トイレトペーパー	使い捨てカイロ、マスク、裁縫セットなど
新聞紙、粘着テープ	簡易トイレ	予備のめがね、予備の補聴器など
雨具、ビニールシート	自転車	工具類(ロープ、バール、スコップ、鋸等)

家族防災会議を開こう【記入例】

年 組 番 名前 ()

1. 議題

災害時の家族同士の連絡方法や行動ルールを確認する。

【設定】

1 2 月 × 日 午後 3 時、南海地震が発生し、津波警報が発令。家族全員がそれぞれ避難をする。

2. その時、家族はどこにいるだろうか。

	場所	一次避難場所	二次避難場所	緊急連絡方法
自分	中学校	中学校校舎 3 階	中学校の裏山	
父	職場	職場 3 階		携帯
母	商店街	ショッピングセンター屋上		携帯
弟(妹)	小学校	小学校運動場	近くの高台	
祖母	自宅	小学校運動場	近くの高台	
祖父	公園	中学校校舎 3 階	中学校の裏山	

3. 家族それぞれの避難場所までの経路を確認しよう。

4. 津波警報解除後の各自の動きと集合場所を確認しよう。

	行 動	集合場所
自分	迎えが来るまで裏山待機（祖父と合流）→集合場所へ移動	小学校体育館
父	災害用伝言板へ登録。職場の状況に応じ集合場所へ	
母	災害用伝言板へ登録。弟（妹）の引き渡し場所へ	
弟(妹)	迎えが来るまで高台で待機（祖母と合流）	
祖母	弟（妹）と母が来るまで高台で待機。	
祖父	自分と合流→集合場所へ移動	

5. 家族との「5つの約束事」を決めておこう。

- 「自分の命は自分で守る」ために家族それぞれが率先避難を行う。
- 津波警報が解除になるまで、避難場所から動かないこと。
- 自宅にいる者は、揺れがおさまったら火災発生を防ぎ、「非常持ち出し袋」持参で避難する。
- 集合場所へ参集できない場合も想定し、外出時には小銭を持ち、「災害用伝言ダイヤル 1 7 1」や「災害用伝言板」で互いの安否確認を行うようにする。
- 父親・母親の携帯電話の番号を忘れるので、財布に入るような「緊急連絡用カード」を作っておく。

13 中学校 3年生					
小学生や幼児と一緒に考えよう～防災かるたづくり～					
指導する学年	3 年	指導する時間	特別活動	指導する時数	2時間
本時のねらい	小学生や幼稚園・保育所園児と一緒に「防災かるた」を作成することで、互いの防災意識の向上を図る。				
使用する資料	「取り札」「読み札」用画用紙、文房具			基本的指導事項	
				③みんなで助かるための備え	
学習内容・活動			指導上の留意点		
<事前の確認事項および活動> ①中学生1名が小学生（1、2年生）または幼稚園・保育所園児（年長児）5～6名を受け持ち、「防災かるた」を作成する。 ②本事例のように「読み札」から作成する場合は、中学生・児童（園児）がともにあらかじめ「あ」～「ん」までのキーワードや「五・七・五」の形でいくつか（案）を考えておく。 ③「防災かるた大会」を実施する際には、中学生が「読み札」を読む役割になることも予定しておく。					
<1時間目>					
導 入 1. 自己紹介 ①小学生（園児）と中学生が対面となり、手短かに中学生が全体挨拶を行う。 ②各グループごとに輪になり、中学生の進行で自己紹介を行う。 ③今日一緒にやることや、どこまで（かるた大会）やるかの目安を教える。 （幼稚園小学校教諭・保育士が全体進行） ・中学生代表1名に全体の自己紹介と動機付けの挨拶をさせる。 ・自己紹介の例として、「今日、呼んで欲しいニックネーム」「好きな食べ物」「好きなTV番組」等を言い合い、話易い雰囲気作りをさせる。 ※教員は全体総括と支援の必要な子どもに付き添う。					
小学生や幼稚園・保育所園児と一緒に「防災かるた」を作ってかるた大会を実施しよう。					
展 開 2. 阪神・淡路大震災や東日本大震災のときの教訓や防災にちなんだ覚えやすいかるたを作成する。 ・小学生（園児）が札をつくったりかるた取りで遊ぶだけでなく、書いてあることが覚えられるように留意させる。 ※あらかじめ「読み札」は作成しておき、「取り札」のみを作成する方法もある。 3. 各グループで、予め分担して考えてきた各「行」のキーワードを各自が発表する。 ①あ…あぶない、②い…いのち、171 ③う…うちの中、④え…エレベーター ⑤お…おおごえ 4. 「かるた」の作成については、原則「五・七・五」や「七・七・五」等日本語の語呂がいいものをつくることとするが、字余りも含め、自由な発想で作る。 ・あまり型にはめずに、思いついたことを生かすような発想で小学生（園児）が、かるたを作れるよう支援させる。					

5. 各小学生(園児)が発言したキーワードごとに頭文字を分担させ、その大判の「取り札」を作らせるとともに、中学生は「読み札」を作るようにする。

<2時間目>

1. 1時間目の続きを行う。中学生は小学生の支援に関わり、担当「行」のかるたが作成できたら、先生に報告する。

2. 中学生の代表が読み手になって、小学生(園児)は各グループ対抗とし、かるた大会を実施する。

まとめ

3. 中学生は「読み札」の内容について簡単に振り返り、震災の教訓や日ごろからの備えの大切さについて確認する。

4. 小学生(園児)からかるたの感想や防災について学んだことについて発表してもらう。

・読み札に書いてあることをイメージさせながら、色鉛筆やクレヨンを使って小学生(園児)に取り札をつくらせる。

・全体の進行を見て、各グループで全文字作成できた段階で教員側からストップをかける。

・中学生が読み札を読むときは、ゆっくりはっきり読むようにさせる。

オリジナルのかるたを作成する活動を通じて、防災の知恵や災害の教訓について学ぶ。

評価

・これまで学習してきた防災の内容をもとに小学生(園児)をリードしてかるたづくりに取り組ませることができる。



【一口メモ】

◆時間短縮のために、あらかじめ「読み札」は中学生が大人(例えば自主防災組織の方)と一緒に作成し、事前に対象児童(または園児)に配布しておき、保護者とともに覚えてもらってから後に実施することも考えられる。

<参考文献>

○総務省消防庁「チャレンジ！防災48」

(<http://open.fdma.go.jp/e-college/bosai/index.html>)



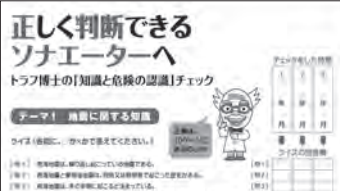
【チャレンジ！防災48
HPトップページ画面】

関連する
教科・行事等

特別活動(学校行事):「保・幼・小・中合同避難訓練」
技術・家庭:[家庭分野]A 家族・家庭と子どもの成長

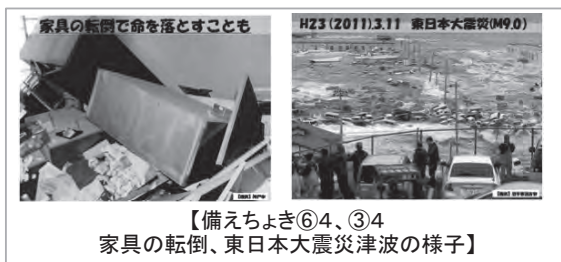
高等学校 展開例

No	学年	指導内容	基本的 指導事項	指導 時間数
1	1年	その日のために備えよう	②④⑤	1
2	1年	通学中に地震が来たら？	⑥	1
3	1年	過去の地震を知り、将来の対策を考える	①②⑧	1
4	2年	災害時の判断と行動	⑦	2
5	2年	避難生活で私たちができること	③⑨	1
6	2年	チームで取り組む一次救命処置	③⑧	2
7	3年	高校生ができる災害ボランティア活動	③⑩	1
8	3年	みんなで生き抜くための「自主防災活動」	③⑧⑩	1

1 高等学校 1年生					
その日のために備えよう					
指導する学年	1年	指導する時間	特別活動	指導する時数	1時間
本時のねらい	・地震の揺れ、津波からの避難の方法について確認し、これからの防災学習について考えることができる。				
使用する資料	南海地震対策課「あなたの地震への備えをチェック」p2～3 http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/010201/keihatu-kyouiku.html 気象庁リーフレット「緊急地震速報」 http://www.jma.go.jp/jma/kishou/books/eew201303/index.html 「防災学習南海地震に備えよき」③～自分の命は自分でまもる(津波編)～【スライド4】、⑥今から備えよう【スライド4】			基本的指導事項	
				②必ず助かるための知恵と備え ④揺れから自分を守る ⑤津波からの迅速な避難	
学習内容・活動			指導上の留意点		
導 入 1. 南海地震に関するクイズに挑戦する。  【あなたの地震への備えをチェックP2～3】 2. ペアでクイズの答え合わせを行い、南海地震の知識と危険の認識をチェックする。 ○防災についての基礎知識の把握			・南海地震対策課【あなたへの地震への備えをチェック】 http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/010201/keihatu-kyouiku.html を活用する。 ・答え合わせやチェック項目の内容から生徒自身の地震への備えを認識させる。 ・南海地震から自分の命を守るために防災学習に取り組む必要性を伝える。		
・南海地震の揺れや津波からの避難方法について確認し、実際の災害場面でどんな行動をとればよいか考えよう。					
展 開 3. 揺れからの身の守り方について、今まで(小・中学校)で習った内容を確認する。 ○揺れからの避難 ○怪我をしない 4. 緊急地震速報について理解する。  【気象庁リーフレット「緊急地震速報」】			・どこにいても物が落ちてこない、倒れてこない、移動してこない場所に身を寄せ頭を守ることを確認させる。 ・緊急地震速報が鳴った時及び揺れ始めたら、すぐに揺れから身を守る行動をとることを確認させる。 ・怪我をしないことがもっとも早く避難につながることを理解させる。 ・県立学校には緊急地震速報を備えていることを伝え、予想震度4以上のときには報知音が鳴ることを説明する。 ・気象庁の緊急地震速報リーフレットを活用するなど基本的な速報のメカニズムを理解させる。 http://www.jma.go.jp/jma/kishou/books/eew201303/index.html ・テレビ、ラジオ、携帯電話、受信端末等で受信できること及び報知音が違うことを知らせる。 http://www.nhk.or.jp/bousai/chime/index.html http://mb.softbank.jp/mb/service/urgent_news/about/eew/		

5. 揺れがおさまった後の避難(津波からの避難)について確認し、学校での避難場所について知る。
○どこにいても、一人でいても、より高い所へ急いで避難する。

6. 実際に南海地震に遭遇したことをイメージして対応を考える。
○「想定に捉われず避難する、最善を尽くして行動する、率先避難を行う」



まとめ

7. 自分の命を守るためにこれから何をしたらよいか理解する。

- ・学校での避難場所、避難経路を説明する。
- ・自宅にいたときの避難(高い場所)を答えさせる。
- ・津波浸水域でなくても将来はどこで地震にあうかわからないので津波避難について学ぶ意義を理解させる。
- ・地域の避難場所、避難経路を日頃から意識させる。

・発問例「地震後逃げようとしたら写真のように逃げ道に家具が倒れています。どう逃げますか」
「津波が来ると仮定して、揺れによって家族がこの本棚の下にいたらどうしますか？助ける？そのまま逃げる？」
逃げたくても逃げられないこともあることを伝える。

- 事前に家具固定を行うなど事前の備えの大切さに気付かせる。
- ・家族の安否、負傷者の発生、建物倒壊による避難経路の閉塞などを想定した発問を用意する。
- ・東日本大震災での釜石市の中学生の避難例を取り上げるなど、どんな状況でも自ら適切に判断し、周りに声をかけながら率先して避難することを理解させる。

- ・南海地震が起きても適切に行動できるように日頃から備えていくことを理解させる。
- ・これから防災学習について、どんなことに取組めばよいか発表させる。
- 家族と避難場所を決めておく、真剣に避難訓練に取り組む地域との連携をとる等

- ・揺れに対しては「どこにいても落ちてこない、倒れてこない、移動してこない場所に身を寄せ、頭を守る」。
- ・津波に対しては「どこにいても、一人でいても、より高い所へ避難する」、「想定に捉われず避難する。最善を尽くして行動する。率先避難を行う」

評価



- ・小学校、中学校で習った内容を確認している
- ・自校の避難場所を確認している
- ・どんな状況でも適切に判断し、率先して避難する必要生を実感している

【防災学習を学ぶにあたって】

- ・防災学習において、大切なのは「現実感」を持たせること。具体的な被害や現象など写真や映像で示すとともに、その時々行動選択の難しさや心理的な葛藤などを子どもたちに実感させることが重要である。
- ・生徒が小・中学校で防災学習を十分に行っていない場合は、安全教育プログラムの小・中学校での指導内容を対象に学習させ、基礎的な力を養うことから始める。
- ・新入生は年度当初に学校の避難場所を把握するとともに「引き渡しカード」(緊急時に保護者へ引き渡す際の情報)を作成する必要がある。そのような活動と関連して授業展開を考えることもできる。

関連する
教科・行事等

特別活動:学校行事-健康安全・体育的行事「避難訓練」

2 高等学校 1年生

通学中に地震が来たら？

指導する学年	1年	指導する時間	特別活動	指導する時数	1時間
本時のねらい	・登下校中の避難行動について理解し、移動手段別にに応じた避難ができるようになる。				
使用する資料	「防災学習南海地震に備えよき」②～自分の命は自分で守る(揺れ編)～【スライド2～7、26～33、38～41】 「高知県HP 高知県版第2弾 南海トラフの巨大地震による震度分布・津波浸水予測について」 http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/010201/nannkai-3.html			基本的指導事項 ⑥いつ、どこにいても自分を守る	
学習内容・活動			指導上の留意点		
導入 1. 1年間で学校にいる割合は何%か考える。 2. 過去の地震災害の写真を見て、交通状況がどうなるか考え、答える。  【備えよき ②2～7、38～41 阪神・淡路大震災】			・20%、50%、80%のうちから答えさせる。 ・1日9時間200日学校に通い約20%、部活動等で多く通ったとしても30%であり、学校外で災害に逢う確率がもっとも多いことを実感させる。 ・【備えよき ②2～7、38～41】を活用し、地震災害時には渋滞となり交通が遮断されることを理解させる。 ・発問「公共交通機関はどうなるだろう」 「自動車での移動は可能だろうか」 「自転車での移動は可能だろうか」 ・答えをまとめ、全体で共有させる。 ・揺れから身を守ったとしても建物が崩壊し、道路が閉塞するなど逃げるのが困難になることを説明する。 ・学校での対応と違い避難誘導者がいないため一人でも自ら適切に判断し、避難する必要があることを認識させる。		
・登下校中に南海地震がきたら、どんな避難行動をとったらよいだろうか。					
展開 3. 交通手段別の避難行動(危険回避の方法)を考える。 4. 通学中に地震にあったときどのような対応をとるか考える。 ○学校周辺の浸水予測時間図、浸水予測図を見て地図に自分の通学ルートを書き込む ○避難場所を書き込む ○浸水予測域にない学校は土砂災害マップなどで危険を予測する			・移動手段(徒歩、自転車、公共交通機関、自動車)、学校から家までの距離、家の立地条件(海岸沿い・山沿い)などをまとめさせる。 ・学校周辺の被害予測(浸水予測時間図や浸水予測図)を提示し、避難行動に反映させる。 ・揺れている時の対応と揺れがおさまった後どこへ逃げるか考えさせる。 ・避難場所については①学校に近い時、②学校と家の中間地点、③家に近い時の3パターンを考えさせる。 ・各地点で高い所を確認させる。 ・高知県HPからグーグルマップ使用により詳細に確認できる。 http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/010201/higaisoutei.html		



【津波浸水予測図:高知市】

5. 自分の登下校中の避難行動について発表する。
○逃げる場所とその理由を発表する

まとめ

6. 移動手段に応じた避難行動について理解する。



【備えちよき ②26～33
車での地震避難行動】

- ・浸水域にない学校は土砂災害マップ(高知県土木部防災砂防課HPから確認できる)などを提示し、通学ルートが危険でないか考えさせる。

http://www.pref.kochi.lg.jp/~bousai/kikenkuiki/kiken_kuikizu/index.html

- ・移動手段別に数名発表させる。
- ・なぜその避難場所に逃げるか質問する。
通学路に危険な場所(ブロック塀、ガラス、看板、路肩等の倒壊)はないか、津波から逃げられる場所等を事前に把握する必要性を気付かせる。

- ・【備えちよき ②26～33】を活用し、移動手段別の対応を説明する。(自動車、公共交通機関)
- ・自転車避難についての対応を説明する。
- ・自動車避難についての対応を説明する。
自動車での避難は要援護者の避難に有効である一方、道路の損傷や渋滞によって避難ができない危険がある。
- ・避難するときは原則「徒歩」ということを確認する。
(各市町村での避難のルールを確認しておく)
- ・登下校中に危険な場所はないか、避難場所はどこかなど防災の視点を持って登下校するよう意識させる。

- ・移動手段別の揺れによる対応を行い、その後津波被害がある地域では近くの高台まで急いで避難する。
- ・登下校中の場所によってどこへ避難するか、避難場所を決めておく。



評価

- ・自分の登下校中の避難行動について把握している
- ・移動手段に応じた避難の方法を理解している

【自転車による避難で知っておくこと】

- ・揺れによって路面が損傷している可能性があり、走行する際に危険を伴う。
- ・徒歩と比べて移動速度が速く、遠くまで避難できる。ただし、地域の避難のルールを必ず確認しておく。
(例: 原則徒歩である。主要道路は災害時要援護者の車両が通る等)
- ・乗り捨ての場合は鍵をかけないで他の避難者の邪魔にならない場所へ置く。
- ・日常生活において自転車に乗る際に周りに配慮した運転をすることが大切。

【自動車、バイクによる避難で知っておくこと】

- ・災害時要援護者など徒歩では迅速な避難が難しい人など、自動車避難について今後検討されていく。
自動車避難が可能かどうか地域の避難計画を確認する必要がある。
- ・自動車での避難が多くなると渋滞を生じたり、緊急車両の通行の妨げとなる。

※原則は徒歩による避難

※停電による信号機の停止等も考えられるので、移動の際は交通上の危険に留意する

関連する
教科・行事等

特別活動: 学校行事-健康安全・体育的行事「避難訓練」

3 高等学校 1年生

過去の地震を知り、将来の対策を考える

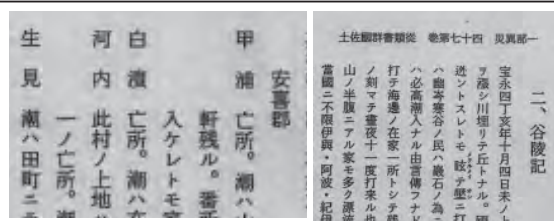
指導する学年	1年	指導する時間	特別活動	指導する時数	1時間
本時のねらい	・南海地震の被害想定を正しく知るとともに、被害を減らす取組について考える。				
使用する資料	高知県立図書館 土佐国群書類従第7巻P2～11:「谷陵記」 高知県HP「南海トラフ巨大地震による震度分布・津波浸水予測」 高知県平成24年12月10日公表資料 http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/010201/nannkai-3.html		基本的指導事項 ①地域に起こる災害を知る ②必ず助かるための知恵と備え ⑧助ける人になるための行動		

学習内容・活動

指導上の留意点

導入

1. 「谷陵記(こくりょうき)」を読み何を表わしているか考え、答える。



【高知県立図書館 土佐国群書類従 第7巻P2～11:谷陵記】

2. 自然の二面性を知り、南海地震に立ち向かう必要性を理解する。
○郷土の素晴らしさ
○災害に負けない姿勢

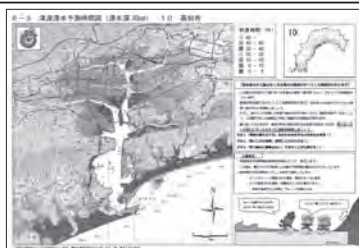
- ・当該学校の地域のページを準備する。
- ・宝永の南海地震(1707年)の被害を示していることを伝える。
- ・発問「繰り返し出てくる「亡所」とはどういう意味だろう」
亡所:災害などで人が住めなくなったところ。
- ・津波によって多くの場所が亡所になるなど大きな被害を受けたことを理解させる。
- ・宝永だけでなく、安政、昭和と南海地震の被害を受けてきたことを知らせる
- ・発問「過去に南海地震で大きな被害を受けてきたにもかかわらず、またその地で人々が過ごしているのはなぜだろう」→郷土の良いところに気付かせる
- ・先人たちは幾度となく復興してきたことを伝え、自然の脅威に負けない力を付ける必要性を理解させる。

- ・次の南海地震ではどのような被害が想定されているだろう
- ・次の南海地震の被害を軽減するためにはどのような対策が必要だろう

展開

3. 次の南海地震についての情報の入手手段を知り、被害想定について理解する。
○高知県の死者数最悪4万2千人

内訳: [津波35000人、建物崩壊6600人、火災400人]



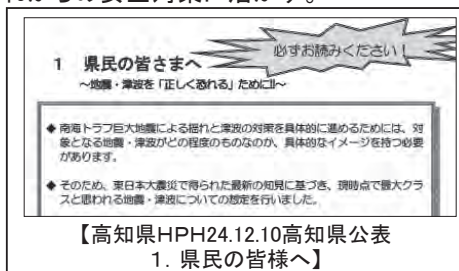
【H24.12.10高知県公表 津波浸水予測時間】

- ・どんな被害が起きるか知ることの重要性を伝える。
- ・高知県ホームページ <http://www.pref.kochi.lg.jp/> からデータを入手できることを知らせる。
- ・最新の情報は更新されるので、注意しておく。
- ・学校付近の予想される震度、地震継続時間、津波到達時間、津波浸水深等を示す。
- ・想定死者数を示し、なぜ東日本大震災の死者・行方不明者数より多いかを考えさせる。
- ・冬の深夜に最大級の地震が発生した場合など、津波からの避難意識が低いときに死者数は最大になることを知らせる。

4. グループで被害を軽減していく取組について考え発表する。
- 揺れ、津波、火災の被害軽減の方法を考える
 - 自助、共助の観点での被害軽減の方法を考える
 - グループで考えられる意見を出し合い、まとめる

まとめ

5. 事前の備えが被害を大きく減らすことを理解し、これからの安全対策に活かす。



- ・揺れ、津波、火災についての事前の備えを考えさせる。
揺れ: 自宅耐震化、室内安全化
高校を卒業し、自宅を出て生活する際には入居する建物の建設年度を確認する等
- 津波: 正しい行動、避難訓練参加、ハザードマップ確認
家族間での避難の情報共有、地域での声かけ等
- 火事: 初期消火、消火器の準備、ブレーカーを落とす
消火訓練参加、家族・近隣住民と協力する等

- ・【南海トラフ巨大地震による震度分布・津波浸水予測】(高知県H24.12月公表)を使って被害想定の捉え方を確認する。
- ・耐震化、初期消火、津波からの迅速な避難をすれば死者数は相当数減る。(特に津波)
建物崩壊死者1300人→400人
津波死者35000人→7000人
- ・あくまで想定の一つであり、想定以上のことも起こるので想定や過去の経験に捉われないことを確認させる。

- ・最悪の想定では震度6強以上の強い揺れ、3分以上の長い揺れ、場所によっては5分以内に津波襲来、広い浸水域、深い浸水深、死者4万2千人(建物崩壊6600人、津波36000人、火災400人)
- ・揺れに対する対策や備え、津波からの迅速な避難、火災発生時の初期消火で被害が相当抑えられる。

評価



- ・被害の想定を正しく理解している
- ・被害を減らす取組について考えることができる

【新想定を知る意義】

南海地震から子どもたちを守るためには、子どもたちが「いつでもどこにいても身を守り、避難できる」力を付けるよう防災教育を進めていくことが大切になる。そのためには南海地震による揺れ、津波がどの程度のものなのかイメージを持つ必要があり、住んでいる地域、通っている学校等の予想震度、津波浸水予測図など把握しておく。

想定は見直されるため、教員は常に新しい情報に関心を持ち、国や県の動向を知るように気をかけておき、また、子どもたちにも最新の情報を伝える必要を伝えていきましょう。

【新想定の見え方】

- ・新想定では、現時点で最大クラスの地震・津波についての想定であることを認識しておく。
- ・最大クラスの発生確率は極めて低いものの、こうしたことも起こり得ることを念頭に置いておく。
- ・想定はあくまでも可能性の一部であることを認識する。想定どおりに揺れ・津波がくるとは限らない。
- ・下記のアドレスではグーグルマップによって、より詳細な地域の被害想定を見ることができる。

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/010201/higaisoutei.html>

関連する
教科・行事等

特別活動: 学校行事-健康安全・体育的行事「避難訓練」

4 高等学校 2年生

災害時の判断と行動

指導する学年	2年	指導する時間	特別活動	指導する時数	2時間
本時のねらい	災害時における様々な状況に対して、他者の意見を受け入れ、自ら適切な判断を行う視点を得る。				
使用する資料	災害対応ゲーミングツール「クロスロード」の情報は下記から見るができる。 WEB CROSSROAD http://maechan.net/crossroad/shinbun.html			基本的指導事項 ⑦二次災害への対応	

学習内容・活動

指導上の留意点

導入

1. クロスロードの質問を通じて、災害発生時の様々な状況を知り、場面に応じた判断の大切さを理解する。
・発問に答える。
「あなたが家で留守番中に南海地震が発生。親は仕事で職場にいる。津波の心配もあるため急いで避難が必要だが、親が家に様子を見に来るかもしれない。親が来るまで待ちますか？すぐに逃げますか？」

- ・事例をあげ、逃げたくても逃げられない、助けたくても助けられない状況になったりするなど、災害時には葛藤やジレンマなどが起こることを説明する。
- ・学校や地域の課題と関連した問題を例示する。

2. クロスロードの手順、ルールを知る。
○クロスロードの概要、進め方
質問に対し個人で答え、意見を考える→グループ内で進行役を決める→ゲームを行いポイントをつける→質問に対して意見を交流する

- ・奇数になるようグループを編成する。
- ・ジレンマを起こす事例に対して意見を交流させる。
- ・出てくる意見については否定しないこと、解決策などがあれば発表する。

- ・災害時に起こる状況に対して、どのように判断すればよいだろうか。
- ・災害時に起こる様々な状況に対して、どのような備えや準備が必要だろうか。

展開

3. 質問項目について自分の意見を書き込む
○YES、NOとその理由・問題点をワークシートに書き込む。

- ・別紙問題例を活用し、質問とワークシートを準備する。
- ・YES、NOとその理由・問題点を答えさせる。

役割
あなたは高校生です。

問題(例)
部活が終わり、帰っていると家まであと5分というところで大きな地震が発生！家も今いる所も津波の被害を受ける地域にあり、すぐ高い所へ逃げる必要性がある。しかし、家で待っている親や幼い弟(妹)の安否が気になる。一度家へ帰りますか？それとも一人で逃げますか？

YESの問題点

NOの問題点

事前に備えておけること

4. グループ(5～7人)でゲームを行う。
- 多数派であればその人に1ポイント
 - 1人だけ異なる意見であれば、その人に1ポイント
 - 各人のYES、NOとその理由を発表
 - 解決策があれば発表

- ・各質問に対してYESかNOを各自が決定する。、また、その理由をまとめるよう指導する。
- ・問題の解決策も考えさせる。
- ・答えがでなかったり、話が進まないグループがあれば別の視点を与えるなど支援する。
- ・質問項目に対して多数派であれば、その人に1ポイントを与える。
- ・1人だけ異なる意見の場合は、多数派にはポイントを与えずその人に1ポイント与える。
- ・各人のYES、NOの理由を発表させ、災害対応に関して様々な考えがあることを共有させる。
- ・ゲームという形をとったが勝者が正しいとは限らないことを確認する。
- ・質問に対する解決策を用意しておく。

まとめ

5. 活動を振り返り、災害時の様々な状況について自分がとる行動について考える。
- 各質問に対して代表グループがYES、NOの理由を発表する。

- ・災害対応には必ずしも正解があるとは限らないことを理解させる。
- ・それぞれの災害対応の場面で、誰もが誠実に考え対応することの重要性を伝える。
- ・災害が起こる前から対応を考えておくことが重要であることに気付かせる。

- ・災害対応の場面で誰もが誠実に考え対応すること
- ・災害が起こる前から様々な状況を想定し、対応を考えておくこと

評価

- ・質問に対し、自分なりの考えを持ち、伝えることができる
- ・他者の考えを受け入れることができる
- ・災害時の判断と事前の備えの重要性を理解している



【発展的内容】

生徒自身が災害に対しての情報を収集し、その地域・学校の課題に応じたクロスロードの問題を作成する活動などが考えられる。

【クロスロードの著作権について】

災害対応ゲーミングツール「クロスロード」の著作権は、カード内容、カード形式その他一切を含み、「チーム・クロスロード」に帰属しています。「神戸編」、「市民編」、「災害ボランティア編」など市販のバージョンについては、許可なく複製して使用することはできません。ただし、本冊子に含まれる内容については、学校現場での教育目的に限って使用可能です。

(「チーム・クロスロード」: 東京都港区三田2-1545 慶應義塾大学商学部吉川肇子研究室内)

関連する
教科・行事等

特別活動: 学校行事-健康安全・体育的行事「避難訓練」「避難所運営訓練」

展開例4

クロスロードの問題例 高等学校編

状況	あなたは	問題例
発生前	高校生	防災の授業を通じて、非常持ち出し品や備蓄品等の防災グッズの大切さが理解できたが、家には防災グッズの備えは一切ない。両親は「地震がきても何とかなる」と楽観しており今後も買う気はない。自分の小遣いで防災グッズをそろえる？そろえない？
発生時	高校生	今日も家族に見送られ、学校に出発。ところが通学途中（ちょうど家と学校の中間地点）で大きな地震が発生した。自宅は津波の被害を受ける地区にあり、学校は高台にあり避難所に指定されている。さて、あなたは学校に行く？それとも家に戻る？
発生時	高校生	部活が終わり、帰っていると家まであと5分というところで大きな地震が発生！家も今いる所も津波の被害を受ける地域にあり、すぐ高い所へ逃げる必要がある。しかし、家で待っている親や幼い弟（妹）の安否が気になる。一度家へ帰りますか？それとも一人ですぐ逃げますか？
発生時	高校生	夕食も終わり、もうすぐ寝ようと思っていたら大きな地震が発生。家は耐震化していたため全壊を免れた。親は自主防災組織で活動しているため今から地域の様子を見に行くという。余震も続いているため外は危険がないとはいえない。引きとめる？引きとめない？
発生時	高校生	休日に友人と遊んでいたら大きな地震が発生。友人の家は海岸沿いにあり津波浸水予測地域にある。友人は家族が心配であるため家に帰ると言っている。引きとめる？それともそのまま行かせる？
発生後	高校生	授業中に大きな地震が発生。しばらくして周辺が浸水して学校は孤立状態に。しばらく食料の供給も見込めない。たまたま、部室の自分のロッカーに栄養食品を6食分置いていた。みんなに提供する？
発生後	高校生	夜中に大きな地震が発生し、家は住めない状態に。通っている学校の体育館に避難したが、周りは着るものも持たずに避難してきた人ばかり。部室に試合用のユニフォームが多くあることに気がついた。ユニフォームを提供する？提供しない？
発生後	高校生	避難所では人手が足りず、仕事を手伝う毎日。若くて体力があるととても感謝されている。しかし、受験を控え、勉強は手につかず、このままでは合格できないかもしれない。避難所の手伝いをやめて勉強に専念する？そのまま手伝いを続ける？
発生時	県職員	大きな地震後、参集基準に従い職場へ向かうが、町内で多くの家屋が倒壊している。近くで「家族が家の下敷きになっている。助けて！」と叫んでいる見知らぬ人がいる。しかし、職場の震災対応の業務の遅れも気になる。まずは助ける？それとも職場に向かう？
発生時	県職員	未明の大地震で、自宅は半壊状態。幸い怪我はなかったが、家族は心細そうにしている。電車も止まって、出勤には歩いて2、3時間が見込まれる。出勤する？出勤しない？
発生時	学校の先生	遠足で海岸に来ている。引率は自分を含め教職員2人。地震が発生し、生徒を集合させたが1名足りない。津波発生危険があるため、集まった生徒を高台に避難誘導したいが1名をそのままにして避難させる？見つかるまで探す？
発生後	地域住民	南海地震発生！道路は寸断され、地区は孤立。自宅は無事だが、水・食料の備蓄は2日間しかない。隣の家は日頃から防災訓練にも参加せず、町内会費も納めず備蓄ゼロ。幼児がいるので水と食料を分けてほしいと頼まれた。現在の状況では行政から水・食料がいつ供給されるかも判らない。水と食料を分けてあげる？分けてあげない？

あなたならどうしますか？

災害対応ゲーム「クロスロード」

クロスロードの基本ルール

1 YesかNoか
—どうしよう...？



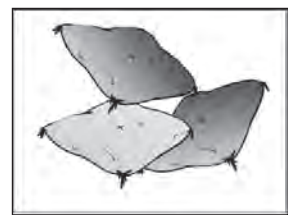
2 決断してY/N
カードを裏向けで



3 オープン...！



4 多数派＝青座布団
(1人意見＝金座布団)



【授業でのクロスロードの進め方】※カードを使わずにゲームを進める方法(例)

- ①左ページの問題を選び、代表生徒(または指導者)が読み上げる。もしくはクロスロード個人票で答えとその理由を書き込む。問題の答えは「YES」「NO」のどちらかとする。
- ②問題に対し、自分ならどう判断するかを考え、決める。(クロスロード個人票に答えとその理由を書き込む)
- ③全員が答えを決めたら、YESかNOが一斉に手をあげる。
- ④多数派になった場合は多数派の各人が1ポイントを得る。YES、NOが一人だけの場合は、その人は3ポイントを得る。
- ⑤多数派、もしくは一人だけの意見の人から、その理由を順に話す。友だちの意見は絶対否定しないこと。
- ⑥グループでYES、NOの問題点と、その問題点を解消するような事前の備えを話し合い、クロスノートにまとめる。

クロスロード個人票

No	あなたは	問題	答え		理由
1	高校生	部活が終わり、帰っていると家まであと5分というところで大きな地震が発生！家も今いる所も津波の被害を受ける地域にあり、すぐ高い所へ逃げる必要がある。しかし、家で待っている親や幼い弟(妹)の安否が気になる。一度家へ帰りますか？それとも一人ですぐ逃げますか？	YES	NO	

クロスノート

- ・ YES／NOの理由が出た後、グループで問題点を整理する
- ・ 問題点を解消できるような事前に備えておけることを考える

役割

あなたは高校生です。

問題(例)

部活が終わり、帰っていると家まであと5分というところで大きな地震が発生！家も今いる所も津波の被害を受ける地域にあり、すぐ高い所へ逃げる必要がある。しかし、家で待っている親や幼い弟(妹)の安否が気になる。一度家へ帰りますか？それとも一人ですぐ逃げますか？

YESの問題点

- ・家に帰る間に津波に巻き込まれる可能性
- ・自分が犠牲になったら家族・親戚・友人に深い悲しみを与える
- ・すでに逃げているかもしれない
- ・自分が助けに行っても家族が助かるとは限らない(家の倒壊等で身動きとれないかもしれない)

NOの問題点

- ・家族の安否が心配
- ・家族が亡くなった場合、助けに行けなかった罪悪感
- ・家族に会えるまで、避難場所で知り合いもおらず一人で過ごすことへの不安

事前に備えておけること

- ・大きな地震があった時の避難について避難場所やそれぞれ逃げることなど家族と確認しておく
- ・家が壊れないように耐震化しておく
- ・地域の人たちと顔見知りになっておく
- ・災害伝言ダイヤル等災害時の連絡方法を知り家族と情報を共有しておく

避難生活で私たちができること

指導する学年	2年	指導する時間	特別活動	指導する時数	1時間
本時のねらい	・災害時における備蓄品等の備えや家族との安否確認の方法を理解する。 ・避難生活での留意点や、避難所の特徴を理解し、自分たち(高校生)ができる役割を考える。				
使用する資料	「防災学習南海地震に備えちよき」 ⑤避難生活【スライド1-11】 ⑥今から備えよう【スライド14-18】			基本的指導事項 ③みんなで助かるための備え ⑨みんなで生き延びるための知恵と技	

学習内容・活動

指導上の留意点

導入

1. 写真を見て、どんな場面か答える。



【備えちよき⑤6 阪神淡路大震災の避難生活】

- ・【備えちよき】のスライドを活用する。
(タイトルは消しておく)
- ・意見をまとめ、阪神・淡路大震災での避難所生活であることを伝える。
左の写真は学校の体育館で被災者が過ごしている様子
右の写真は水の配給を受けているところ
- ・災害時には学校が避難所になることがあることを伝える
(学校が避難所指定されていなくても、人は集まる)

- ・避難所ではどんな困ることがあるだろうか
- ・避難生活を少しでも快適に過ごすために必要となる備えには、どんな物や心構えがあるだろう

展開

2. 写真から想像される避難所での困難さや不自由さについてグループ(班)で考え、発表する。

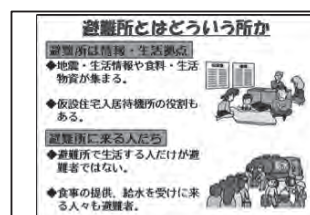
- 子どもから高齢者まで様々な人が集まって来る
- 人が多く、居住スペースが少ない、プライバシーの保護が難しい、ストレスがたまる
- 電気、ガス、水道が止まっている
- 物資が不足している(水、食料、生活品)
- トイレの水が流れない

- ・グループ内で避難所での困難さ、不自由さを発表させ、まとめさせる。
- ・災害直後は公的支援を受けられず、周りの人たちと協力し合って困難を乗り越えていく必要性を実感させる。
- ・困難なことは多くあるが、避難所は避難してきた人たちの命をつなぐ大切な所であることも理解させる。

3. 避難所の生活について理解する。

- 不自由な生活であるが皆で協力する
- 公的機関やボランティアなど様々な人たちに支えられている
- 避難所で過ごすことにならなくても、物資の配給情報の収集などで利用することがある

- ・【備えちよき ⑤6～11:(避難生活編)】を活用し、災害後の避難所での生活について説明する。
- ・東日本大震災で実際に学校が苦勞した内容を紹介する。
- ・家族と離れて被災すれば、別々の避難所で過ごすことを説明する。

【備えちよき⑤8】
阪神淡路大震災の避難生活

4. 避難生活で困らないようにするための事前の備え
(何が必要か)について理解する
- 備蓄品は3日分の食料が必要
 - 家族との連絡方法には災害伝言ダイヤル(171)等がある
 - 上記の2つ以外にも何があるか考える

災害の確認 (災害伝言ダイヤル171) 伝言の録音方法 (1) 171にダイヤル (2) 録音機が作動するまで待つ (3) 伝言を録音する (4) 録音が終わったら「171」をダイヤルして確認する 伝言の再生方法 (1) 171にダイヤル (2) 録音機が作動するまで待つ (3) 伝言を再生する (4) 録音が終わったら「171」をダイヤルして確認する 休日の利用があるため、家族や友達と利用して、災害に備えておくといふぞ!	備蓄品 (避難生活に備えて家に置いておくもの) 最低3日分の食料が必要だぞ。特に水は大事! 家族の事情に合わせて準備をしておこう!
【備えちよき⑤1~5 安否の確認】	【備えちよき⑥14~18 備蓄品】

5. もし自分の学校が避難所になったら私たちはどんな活動をするかグループで話し合い発表する。
- 避難所での高校生の役割を意識する

まとめ

6. 学習を振り返り、避難生活の特徴と家庭での備えを確認する。

- ・【備えちよき ⑥14~18:(今から備えよう)及び⑤(避難生活編)1~5】を活用し、非常持ち出し品・備蓄品、家族の安否確認の方法を説明する。
- ・災害伝言ダイヤル以外の安否確認方法も紹介する。災害伝言板、携帯電話・PCメール、張り紙、書き置き等様々な情報手段を理解させる。
- ・自分の住んでいる地域の防災倉庫を確認させる。
→防災倉庫の機能について理解させ、資機材をつかえるようになるため地域の防災訓練に参加する重要性を伝える。
- ・県立学校には備蓄品があることを伝える。
- ・不自由さを我慢したり、自分にできることを見つけ、行動することが大切であることに気付かせる。
- ・日ごろからの地域の人々とのつながりが避難所運営に役に立つことを気付かせ、地域の避難訓練などに参加することの大切さを伝える。
- ・避難所の特徴と避難生活に必要な備えについて再確認させる。
- ・東日本大震災では学校が避難所になり、高校生が避難所運営を手伝った例を紹介し、自分自身でできる行動を考えさせる。

- ・学校が避難所になることがあり、避難所では多くの人が不自由な生活を送り、我慢したり皆で協力してのりきることが必要。
- ・避難所では災害発生時は公的支援が受けられないため、支援が来るまで3日分の備蓄が必要、また、家族と別々の場所で被災することもあるため、災害時の連絡方法を知っておく。



評価

- ・避難所での生活について理解している
- ・避難生活での高校生の役割について考えることができる

【資料紹介】

家庭保存版「南海地震に備えちよき」P20~21、P28~29

消防庁: チャレンジ! 防災48 (テキスト→中学生以上→防災機材を活用した簡単な防災活動)

http://open.fdma.go.jp/e-college/bosai/main/tyuijo_05.html

【避難生活を学ぶ際には】

- ・学校管理下で南海地震が起こったら、教員は生徒の保護とともに避難所の対応も迫られる。日頃から地域と連携をとっておき、避難所運営をスムーズに行えるよう役割分担などをしておくことが大切である。避難所での高校生の役割「自分ができること」を考えさせ、災害時のボランティアの視点を持たせ次時につなげていく。
- ・地域の防災倉庫にはバール、ジャッキ、発電機、炊き出しの資機材など生き抜くため、人を助けるための道具も入っている。道具を適切に扱うには正しい使い方を実技を通じて行うことが一番である。生徒たちが地域の防災訓練に参加し、防災機材の使い方を習得するよう呼び掛けていくことが大切である。

関連する
教科・行事等

特別活動: 学校行事-健康安全・体育的行事「避難所運営訓練」

6 高等学校 2年生					
チームで取り組む一次救命処置					
指導する学年	2年	指導する時間	特別活動	指導する時数	2時間
本時のねらい	演習を通じて、一次救命処置(心肺蘇生法、AEDの使用方法)についての技能を習得する。				
使用する資料	「消防庁:生活密着情報-応急手当の基礎知識」 http://www.fdma.go.jp/html/life/ 「家庭保存版南海地震に備えて作っちゃよき」P3 自主防災活動へ参加しよう			基本的指導事項	
				③みんなで助かるための備え ⑧助ける人になるための行動	
学習内容・活動			指導上の留意点		
事前指導: 応急手当の意義、心肺蘇生の手順と方法(胸骨圧迫・人工呼吸・AEDの使用方法)等を理解しておく					
導入 1. 実技演習での一次救命処置の手順を確認し、グループで練習する。			・応急手当の意義を再確認させる ・1グループ3～5人で数グループを編成させる。 ・実技演習の手順を確認させ、グループで役割分担(発見者、協力者等)を決めさせる。 ・胸骨圧迫、人工呼吸の役割交代について確認させる。		
周囲の安全確認 → 反応の確認 → 協力者を求める ・119番 ・AED → 呼吸の確認 → 胸骨圧迫30回 必要ならば → 人工呼吸2回 気道確保 → AED使用					
・今後、一次救命処置の技能を維持するためには何が必要だろう。					
展開 2. 一次救命処置を実施する。(10分間×2) ○手順に従いグループで一次救急処置を10分間実施 ○実施していないグループが評価を行う			・実際の場面を想像してプログラムを組み、実施させる。 119番通報してから平均8分で救急車が到着することから、傷病者発見から10分後に救急車に引き渡すと仮定し実施する。 ・胸骨圧迫でのペースが落ちた時などはメンバーを交代して行うよう予め指導しておく。 ・始めから終わりまでの10分間は、教員や講師は指示しない。 ・一次救命処置確認票を準備し、生徒同士で評価させる。 ・教員、講師も生徒の活動を評価する。		
前半実施グループ → 評価 → 後半実施グループ → 評価 → → 評価 →					

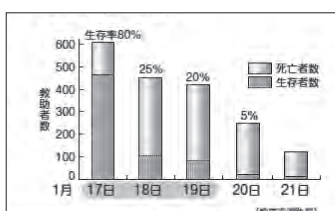
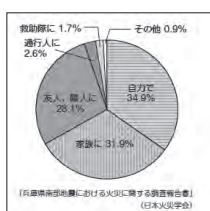
3. 相互評価から活動を振り返り、まとめをする。

- 評価結果をみて反省点、感想等をグループで話し合う
- 日常生活と関連して対応を考える(登下校中、在宅時等)
- 学校以外でのAEDの場所はどこにあるか考える
- グループで意見を発表し、全体共有する

まとめ

4. 災害時での応急手当、救命処置について考える。

- 公的な救援はなかなか来ない。
- 周りとの協力しながら、応急手当、心肺蘇生を行う。
- 日頃から周囲の安全に配慮する。



【家庭保存版作っちょきP3 阪神・淡路大震災における住民による救助・救護活動】

- ・一次救命処置が適切にできたか確認させる。
→技能の習得・維持には繰り返し練習が必要であることを理解させる。
- ・疲労度を確認させ、協力者の重要性を理解させる。
→一人での救助では、一人で10分以上胸骨圧迫を継続することになるため、協力者と交代し合っている
- ・一次救命処置の適切な中止時期を確認させる。
→救急隊員に引き渡すまで、傷病者の呼吸が出現したとき
- ・AEDは特別な物ではなく誰でも使うことができることを理解させる。
- ・災害時には「救急車が来る、病院で治療を受ける」ことが困難になることを認識させる。
- ・素早い救助、応急手当、救命処置が命を救うことを理解させる。
- ・勇気があるが自分から率先して助ける行動を行うことが大切であることを理解させる。
- ・日頃から応急手当、救命処置の技能維持をしていれば災害時だけでなく日常生活での事故等にも対応できることを実感させる。
- ・予防策(怪我を防ぐ対策等)も含めて周囲の安全に貢献する一員となるよう促す。

・いつでも救命処置ができるように訓練を行っておく。傷病者を救うため率先して自分ができることを行う事が大切である。

評価

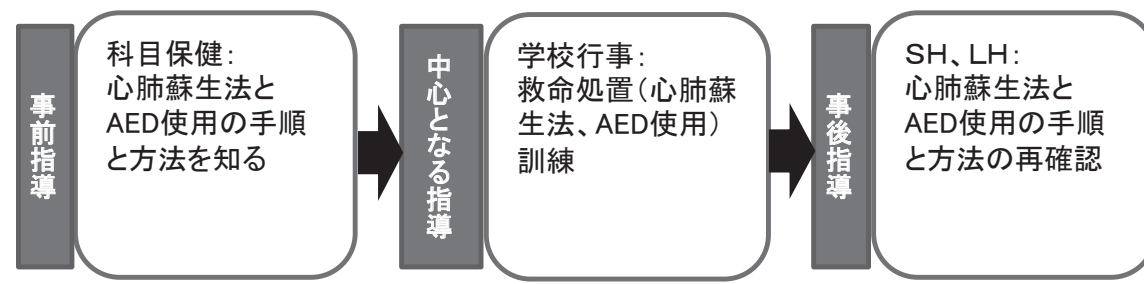
- ・適切に一次救命処置ができる
- ・演習での気づきをグループで共有できる

【事前の準備】

教員が校内研修や自主研修等で応急手当や心肺蘇生法、AEDの使用についての技能を身に付けることが必要である。これは生徒への応急手当の指導に役立つだけでなく、子どもたちの命が危険な状態のときに命を助けることにつながる。

【事前・事後指導】

消防局員や日本赤十字社員の指導のもと講習を受けることも考えられるが、その際には講習の内容がより効果的になるために事前・事後の指導を充実させることが大切である。



関連する
教科・行事等

科目:保健「(1)現代社会と健康-才応急手当」

一次救命処置確認票

【傷病者の発見】

- | | |
|---|--|
| ☐ ・周囲の安全に配慮しているか | ☐ ・周囲の手助けをかりるよう呼びかけているか |
|---|--|

【反応の確認】

- | | |
|--|--------------------------------------|
| ☐ ・傷病者の耳元で大声で呼びかけているか | ☐ ・肩を軽く叩いているか |
|--|--------------------------------------|

【助けを呼ぶ】

- | | |
|--|--|
| ☐ ・協力者に対して119番通報をお願いしているか | ☐ ・協力者に対してAEDを持ってくるようお願いしているか |
|--|--|

【呼吸の確認】

- ☐ ・10秒以内で確認を終えているか

【胸骨圧迫】

- | | |
|---|---|
| ☐ ・胸の真ん中（胸骨の下半分）を圧迫しているか | ☐ ・手の組み方は適切か |
| ☐ ・肘を真っ直ぐに伸ばしているか | ☐ ・垂直に圧迫しているか |
| ☐ ・力のかけ方は適切か
（胸が5cm沈んでいる） | ☐ ・押すテンポは適切か
（1分間に100回） |

【人工呼吸】

- | | |
|---|--|
| ☐ ・気道確保の仕方は適切か
（頭部後屈あご先挙上法） | |
| ☐ ・空気が漏れないよう息を吹き込んでいるか | ☐ ・約1秒かけて吹き込んでいるか |

【AEDの使用】

- | | |
|---|---|
| ☐ ・AED使用の手順は適切か | ☐ ・電極パッドの貼る位置は適切か |
| ☐ ・電気ショック時には周囲の人に離れるよう呼びかけているか | ☐ ・「ショックは不要です」「ただちに胸骨圧迫を開始してください」のメッセージで胸骨圧迫を再開しているか |

【その他】

- ☐ ・胸骨圧迫30回：人工呼吸2回の割合で実施できているか
- ☐ ・スムーズに役割を交代できているか

防災訓練活動の一場面

骨折時を想定した
三角巾を使った腕の固定



簡易トイレづくり



搬送時の担架づくり



平成24年度実践的防災教育推進事業拠点校 須崎高等学校 防災教育の取組

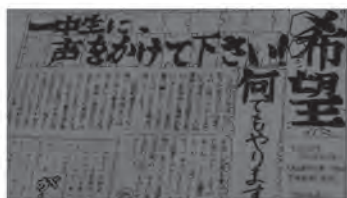
7 高等学校 3年生

高校生ができる災害ボランティア活動

指導する学年	3年	指導する時間	特別活動	指導する時数	1時間
本時のねらい	災害時のボランティア活動について知り、自分たちができるボランティア活動の方法を考えることができる				
使用する資料	文部科学省HP:「東日本大震災からの復興」 http://fukkokyoiku.mext.go.jp/katsudo.html			基本的指導事項	
				③みんなで助かるための備え ⑩地域社会の一員としての心構え	
学習内容・活動			指導上の留意点		
導入 1. 「災害ボランティア活動」というキーワードからどんな活動が行われているか考える。 ○避難所運営の手伝い ○瓦礫の片付け等 ・高校生ができる災害時のボランティア活動には何があるだろう			・災害時に被災した地域を救援・復興の手伝いをする思いを持った人たちの自発的な活動であることを説明する。 ・被災地以外の人だけが行う活動ではなく、被災した人もボランティア活動を行っていることを理解させる。		
展開 2. 東日本大震災で高校生が行ったボランティア活動について知る。 ○ボランティア活動を行った生徒の手記を読む  【文部科学省HP: 東日本大震災からの復興-復興への歩み】 3. 手記・活動記録等から災害時のボランティア活動を行った生徒の気持ち、ボランティアを受けた被災者の気持ちを考える。 4. グループで自分たちにできる災害時のボランティア活動について考え、発表する。 ○東日本大震災で被災した被災地への支援 ○南海地震が起きたと想定し、自分たちが被災したときの避難所での活動			・実際に行われた災害時のボランティア活動を紹介する。文部科学省HP「東日本大震災からの復興」の活動事例等を活用する。 http://fukkokyoiku.mext.go.jp/katsudo.html ・「復興への歩み」で被災した子どもたちの活動を知ることができる。 ・ボランティア活動を行った生徒の手記を読ませる。 ・避難所で子どもたちが行った活動について紹介する。炊き出し、配膳、洗濯、話相手、足湯、子どもの遊び相手、家の片付け、草刈り、泥出し、被災者が元気になるイベントなど。 ・ボランティア活動を行う前と活動後の気持ちの変化に気付かせる。 ・被災者が持つ感謝の気持ちに気付かせ、ボランティア活動の意義について理解させる。 ・助け合いや人とのつながりの大切さを実感させる。 ・避難所での問題点を意識させる。 飲料水の確保、生活用水の確保、トイレの排水 ストレスの増大、要援護者（高齢者、障害者等）の存在など		

○ブレインストーミングで自由に意見を出し、グループでできそうな活動についてまとめ、発表する。

5. ボランティア活動が復興へ大きな力になることを理解する。



【文部科学省HP:東日本大震災からの復興-復興への歩み】

まとめ

6. 学習を振り返る。

○人とのつながりの大切さを確認し、自分自身のこれからの行動について考える。

- ・意見をまとめ、どんな活動があるのか確認する。
- ・避難所の清掃、炊き出しの手伝い・配膳、物資の仕分けや整理・運搬、要援護者の手伝い、瓦礫の片づけ等
- ・防災倉庫の中にある炊き出し、発電機等の道具の使い方を知ることの必要性を理解させる。

- ・【東日本大震災からの復興:復興への歩み】の資料等を活用し、具体例を示す。
- ・高校生でもできることが多くあることを実感させる。
- ・日常の生活からボランティアの視点(協力、支援)を持つことを伝える。
- ・将来、南海地震が起こった時に一番の戦力になることを理解させる。
- ・地域の防災訓練や防災に関する講習会等に参加する重要性を実感させる。
- ・具体的な防災訓練の日程・会場などの情報を提示し参加を促す。
- ・自分にできることを考え行動することを確認させる。
- ・現在の被災地のボランティア数の状況を伝える。
→時間の経過とともに活動する人数が減ってきている
- ・ボランティア活動への参加の方法を伝える。
(被災した市町村の社会福祉協議会等から参加可能)

・被災時には自分たちでできる活動を見つけ自ら進んで行く、南海地震が起こった時には高校生が一番戦力になる。

評価



- ・災害時に高校生が行ったボランティア活動を理解している
- ・災害時に自分ができる活動について考えることができる

【災害時のボランティア活動について】

災害時の救援活動や復興には公的な支援とともにボランティアの支援は欠かせない。また、災害ボランティアは被災地以外の人だけではなく被災した人も活動を行っている点もふまえる必要がある。

「なぜ人々は災害ボランティア活動を行うのか」を同じ立場の高校生が行った事例等を提示し、「もし、自分が被災地の人たちと同じ境遇だったら」と生徒に考えさせ、助け合い・絆の大切さに気付かせたい。また、話し合いの中で実行できそうなボランティア活動があれば、生徒会活動等につなげ、実際にやってみる。

【資料紹介】

・文部科学省HP「東日本大震災からの復興」<http://fukkokoiku.mext.go.jp/katsudo.html> では、被災地での子どもの活動や被災地以外の高校生の救援・復興の活動が数多く記載されている。

関連する
教科・行事等

特別活動:学校行事-勤労生産・奉仕的行事「ボランティア活動」
-健康安全・体育的行事「地域との合同防災訓練」

みんなで生き抜くための「自主防災活動」

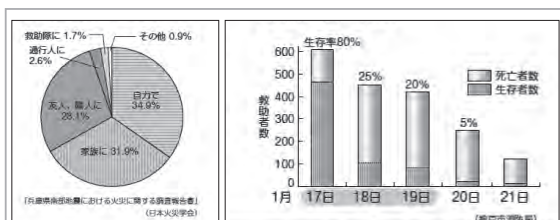
指導する学年	3年	指導する時間	特別活動	指導する時数	1時間
本時のねらい	・地域の自主防災活動について知り、自分たちでできる活動を考え、将来の防災活動につなげる。				
使用する資料	「家庭保存版南海地震に備えて作っちゃよき」 「あなたの地震への備えをチェック」 http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/010201/keihatu-kyouiku.html 「地域みんなで自主防災活動」 http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/010201/jisyubosai.html			基本的指導事項 ③みんなで助かるための備え ⑧助ける人になるための行動 ⑩地域社会の一員としての心構え	

学習内容・活動

指導上の留意点

導入

1. 提示されたグラフを見て、何を表わしているか考える。



- 左：住民による救助活動
- 右：日別生存救出者数
- 公的な救助活動はすぐには受けられない
- 周りと協力して助け合うことが必要

- ・【家庭保存版南海地震に備えて作っちゃよき】p3のグラフを提示(タイトルは消しておく)し、考えさせる。
- ・阪神・淡路大震災のデータであることは伝えておく。
- ・左グラフ「住民による救助活動」
建物に閉じ込められた人たちの約95%が自力でもしくは家族や隣人に助けられた
- ・右グラフ「日別生存救出者数」
地震発生から生存者を救出できたのは最初の3日間が大部分を占める
- ・南海地震では公的な救助活動(消防、警察、防災機関)が地域全域に行き届かないことを知らせ、地域で協力する必要性を理解させる。
- ・瓦礫の下敷きになっている人などを助ける手伝いなど自分にできることがあることを伝える
- ・地域の防災力を高める活動に自主防災活動があることを知らせる。



・自分の住んでいる地域ではどのような自主防災活動が必要だろう

展開

2. 「自分の地域は自分で守る」備えをチェックする。
- 質問①居住している地域に自主防災組織がある。
- ②過去1年間に地域の防災訓練に参加した。
- ③居住している地域の防災活動に参加している。
- ④地域の防災倉庫や資材がどこにあるか知っている。
- ⑤日頃からお祭り、運動会、清掃活動などの活動に参加している。
- ⑥近所に、日頃からあなたを気づかってくれる友人、知人がいる。

- ・【あなたの地震への備えをチェック】p8を答えさせて、自分と地域のつながりを自己点検させる。

【あなたの地震への備えをチェック】

3. 同じ中学校、同じ市町村でグループ(6人程度)を編成し、高知県の自主防災組織の活動事例を活用し、地域の課題や具体的活動についてグループで話し合う。

○活動事例一覧表をみて、興味のある地区の活動を決める。

○課題、活動内容をワークシートにまとめる。

○課題の解決方法や地域の防災力を高める方法を考える。



【地域のみんなで自主防災活動】

4. 地域の防災力を高めるにはどのような活動を行えばよいかグループで考え、発表する。

まとめ

5. 高知県の自主防災の現状を認識し、これから地域を守る行動がとれるような心構えを持つ。



【地域が主役
～県内の自主防災組織の現状～】

・【地域のみんなで自主防災活動】の活動事例を参考にし、地域の課題と活動内容をまとめる。

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/010201/jisyubosai.html>

・事例の中の課題を確認する。

→高齢化、若者の参加が少ない、地理的な条件等

・活動内容を確認する。

・発問「様々な活動があったが、共通していることは何だろう」→地域住民が主体となって活動している

→防災活動を通じて地域のつながりが深まっている

・『自分の地域は自分で守る』ことを理解させる。

・地区の課題は把握できているか、その課題を解決できる活動内容になっているか評価する。

・行政と連携して行う事も重要であることを理解させる。

【地域が主役～県内の自主防災組織の現状～】を提示して、高知県の自主防災組織の現状を知らせる。

・自主防災組織率74.7%と身近に自主防災組織があることを認識させる。

・南海地震対策推進週間、県下一斉避難訓練日を伝え、参加を促す。

・地域の防災訓練に積極的に参加するよう促す。

・生涯にわたり「自分の地域は自分で守る」行動をとれるか確認する。

・自分の地域は自分で守るため、防災訓練や避難道の整備など災害が起きた時の被害を少なくする活動を地域の皆で行う。

・自分の住んでいる地域の課題(地理的条件や災害時要援護者の存在など)を把握し、その課題を解決できる活動を考えることが大切である。



評価

・地域の課題を克服するような自主防災活動について考えることができる

【一口メモ】

・学校が地域の自主防災組織と協力して合同で避難訓練や防災イベントを行っておくことで、地域の人たちの参加を多く促すことができ、また連携することによって生徒の自主防災組織への理解が深まり、将来的に自主防災活動への参加がしやすくなる。

【資料紹介】

・高知県南海地震対策課ホームページより資料ダウンロードが可能

「家庭保存版南海地震に備えて作っちゃよき」「あなたの地震への備えをチェック」

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/010201/keihatu-kyouiku.html>

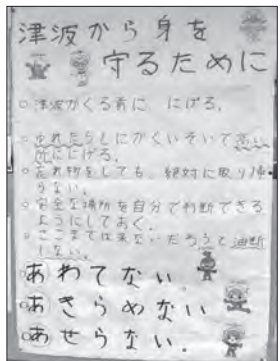
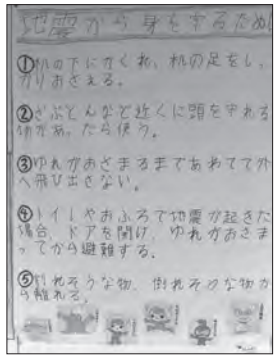
自主防災組織資料 <http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/010201/jisyubosai.html>

関連する
教科・行事等

特別活動：学校行事-健康安全・体育的行事「地域との合同防災訓練」

特別支援学校 展開例

No	学年	指導内容	基本的 指導事項	指導 時間数
1	中学部 高等部	地震に備えちよき	①②④⑤	2

1 特別支援学校(知的障害) 中学部・高等部					
地震に備えちよき					
指導する学年		指導する時間	総合的な学習の時間	指導する時数	2時間
本時のねらい	地震のときに起こる様々な危険について知り、自ら安全な行動がとれるようにする。				
使用する資料	「防災学習 南海地震に備えちよき」③(津波編)【スライド3～】			基本的指導事項 ①地域に起こる災害を知る ②必ず助かるための知恵と備え ④揺れから自分を守る ⑤津波からの迅速な避難	
学習内容・活動			指導上の留意点		
<1時間目> 課題の設定 1. スライドの視聴やクイズをとおして、地震や津波について知る。			・東日本大震災、阪神・淡路大震災、昭和南海地震等の写真や動画を見て、地震・津波の様子を知らせる。 ・自分が住んでいる地域に地震や津波が来たらどうなるのか、イメージできるようにする。  【備えちよき③3～東日本大震災】		
自分の住んでいる地域で地震が起きた時、どのような行動をとったらよいだろう。					
情報の収集、整理・分析 2. 地震が起きた時の身の守り方を考え、発表し、模造紙にまとめる。 ○机の下にかくれ、机の脚をしっかり押さえる。 ○座布団など、近くに頭を守れるものがあったら使う。 ○揺れがおさまるまで、あわてて外に飛び出さない。 ○トイレやお風呂で地震が起きた場合、ドアを開け、揺れがおさまってから避難する。 ○割れそうな物、倒れそうな物から離れる。 3. 津波から身を守るための行動について考え、発表し、模造紙にまとめる。 ○津波が来る前に逃げる。 ○揺れがおさまったら、とにかく高い所に急いで逃げる。 ○忘れ物をして、絶対に取りに帰らない。 ○安全な場所を自分で判断できるようにしておく。 ○ここまでは来ないだろうと油断しない。 「あわてない・あきらめない・あせらない」			・地震が起これば、どのような危険があるのか予想させる。 ・避難に際し、頭を守ることの大切さを強調しておく。 ・揺れから身を守るキーワードの「落ちてこない、倒れてこない、移動してこない」を復唱することで、意識させる。 ※表題や項目等、まとめ方のモデルを提示し、整理しやすいよう、配慮すること。 ・予想した危険に対して自分の身を守るために、とるべき行動について考えさせる。 ・津波についても、どのような危険があるのか予想し、身を守るための行動について考えさせる。 ・「とにかく早く少しでも高いところへ」避難することの大事さを知らせる。  【生徒によるまとめ】		

<2時間目>

4. 自分が住んでいる地域の

- ①予想震度
- ②津波の高さ・到達時間
- ③避難場所

について調べ、画用紙に記入する。

○避難場所については、自宅から一番近い所を確認する。

○緊急地震速報の音を調べる。

テレビ・ラジオ・携帯電話等情報の入手先によって報知音に違いがあることを知る。

まとめ・表現

5. 調べたことをまとめた画用紙を、県東部地図(模造紙)に貼り、グループごとに発表する。

6. 本時のまとめをする。

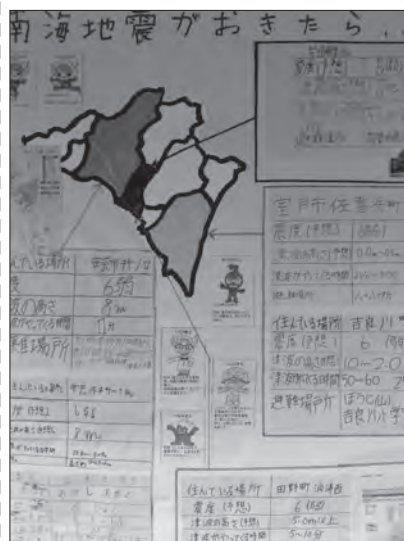
- 揺れから身を守るための心構えと知識
- 津波からの避難の心構えと知識

・住んでいる市町村ごとに、5グループに分けインターネットを利用した調べ学習を実施させる。

※グループでは、パソコンの操作に慣れた生徒が、そうでない生徒をリードできるように支援する。

・下記コラム欄参照。

室戸市佐喜浜町	
震度(予想)	6(弱)
津波の高さ(予想)	0.0m~0.5m
津波がやってくる時間	20分~30分
避難場所	入+ハア所
住んでいる場所	田野町 清海西
震度(予想)	6(弱)
津波の高さ(予想)	5.0m以上
津波がやってくる時間	5~10分
避難場所	田野町 清海八幡神社 田野中学校 中野高等学校



【生徒作品】

【生徒によるまとめ】

地震発生時には、どこにいても「落ちてこない、倒れてこない、移動してこない」場所に身を寄せ、頭を守る。津波からの避難は、「とにかく早く少しでも高いところへ」を心がける。

評価

- ・地震・津波に関する正しい知識が理解している。
- ・災害に遭遇した時、自分のとるべき行動を理解している。

【実践のための留意点】

◆本展開例は、2時間扱いとしているが、児童生徒の実態に合わせて時間配分や取り扱う内容は弾力的に考えて取り組む必要がある。

【参考資料等】

◆緊急地震速報の放送例や報知音の入手先

・気象庁のホームページ(http://www.seisvol.kishou.go.jp/eq/EEW/kaisetsu/eev_receive.html)からNHKのホームページや各種携帯電話のホームページへリンクが張られている。

・津波防災啓発ビデオ「津波に備える」気象庁(H25.2)に「(4)緊急地震速報を使った地震・津波訓練」として校内放送等、音声のみでも利用できる地震・津波訓練用の映像が収録されている。

関連する
教科・行事等

避難訓練
隣接高等学校の文化祭等への展示発表